甲府市文化財調査報告 27

本郷B遺跡

―甲府市善光寺三丁目宅地造成工事に伴う発掘調査報告書―

2004

甲府市教育委員会

序

本郷Ｂ遺跡が位置する『板垣の里』は、甲府市街地の東側に近接する北原扇状地にあり、一帯はぶどう畑が広がる果樹園地帯です。初春は観梅、夏から秋にかけてはぶどう狩りと紅葉など実り豊かで、甲斐の名刹善光寺・東光寺さらに甲府五山の寺院などが位置する由緒ある土地であり、四季を通じて観光客が訪れます。

甲府市内には埋蔵文化財包蔵地が270箇所以上確認されておりますが、板垣の里一帯には、縄文から近世にかけての遺跡が40箇所ほどと多数存在し、数千年の長い年月、人々が生活していたことが確認されています。

特に本遺跡東方には、連歌発祥の地とされる酒折宮が鎮座し、東国征伐の際に日本武尊が立ち寄り、御火焼の翁と問答をかわしたと古事記に記述があります。さらに、北方には甲斐源氏の一族である「板垣氏」の屋敷跡であるとされる伝承地が位置します。

今回の発掘調査では方形周溝墓などの古墳時代の遺構と、中世段階の井戸・溝などが発見されました。改めて歴史の重みを認識する次第であります。今後、当発掘調査の成果が歴史研究の資料として、さらに生涯教育の場において活用していただければ幸甚です。

末筆となりましたが、今回遺跡発掘調査の実施に際しては、地権者及び関係者の皆様には多大なるご支援を賜り、また地域住民の皆様・発掘調査及び整理作業に従事された方々にご理解とご協力を頂きました事を、ここに厚く御礼申し上げます。

平成16年３月

甲府市教育委員会
教育長　角　田　智　重

例　　言

1．本書は、山梨県甲府市善光寺三丁目1946－1、1952－1、1952－2における、本郷B遺跡の発掘調査報告である。
2．本調査は、宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査である。甲府市教育委員会が、地権者である飯野忠治・渡邊益代・岩田和子・小林晴子との協議に基づき、発掘調査に関る契約を締結して実施した。
3．調査経費は、事前の試掘調査を甲府市教育委員会が、本調査については地権者である飯野忠治・渡邊益代・岩田和子・小林晴子が負担した。
4．調査期間は、試掘調査を平成15年６月３日から７月１日まで実施し、本調査を同年８月４日から９月30日までの２ヶ月間行った。
5．試掘調査及び本調査は、志村憲一（文化財主事）が担当した。
6．本書の執筆は、志村が担当した。
7．本書の編集は、中込　功(文化芸術課長)を責任者として、志村が行った。
8．発掘調査における基準点の測量及び基準杭の設定は、春日測量事務所の全面的な協力のもと行った。
9．本書の挿図・図版は、中村里恵（嘱託職員）・大塚敦子・小宮通子・中川美千子・平賀早苗・渡邉百合子が作成した。
10．本書に係る出土遺物及び記録図面・計測データ・写真等は、甲府市教育委員会で保管している。
11．本遺跡出土の馬骨については、麻布大学解剖学第一研究室　浅利昌男教授に鑑定を依頼し、ご指導を賜った。
12．発掘調査及び報告書作成に際して、次の関係機関及び諸氏から、ご教示・ご高配を賜った。ここに記して厚く感謝を申し上げたい。(敬称略)
春日測量事務所・坂本春男・三基建設株式会社・中川　清・日信建物株式会社・保坂和博・保坂　広・宮澤公雄

凡　　例

1．本書中の遺構名・遺物番号は、現場において形状・検出状況に応じて付したものを、本書作成の際に通し番号に改めたものである。
2．本書中の方位は、磁北を示している。
3．本書中の地図は、甲府市発行1/2,500及び1/10,000、国土地理院発行1/50,000「甲府」を使用した。
4．周辺の遺跡は、甲府市教育委員会1992『甲府市遺跡地図』から作成し、遺跡名・遺跡番号を対応させている。
5．土層説明及び遺物の色調の土色表示は、農林水産省水産技術会議事務局監修『新版　標準土色帖』(1997後期版）を使用した。
6．遺構図の縮尺及び方位は各図面上に表示した。
7．遺構断面図・土層図は各図に標高を表示した。
8．本書図のスクリーントーンの指示は以下のとおりである。

遺物集中　　石　　炭化物

目　　次

序
例　　言
凡　　例
目　　次

第１章　調査の概要
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査方法 …… 1
　第３節　調査組織 …… 2
　第４節　調査日誌 …… 2

第２章　遺跡の環境 …… 4

第３章　発見された遺構と遺物
　第１節　層序 …… 7
　第２節　遺構と遺物 …… 7
　　(1)　溝 …… 7～13
　　(2)　土坑 …… 13～15
　　(3)　井戸 …… 15
　　(4)　土坑墓 …… 15
　　(5)　埋甕 …… 15～16
　　(6)　ピット …… 16
　　(7)　遺物 …… 16

第４章　まとめ …… 51～52

【挿図目次】

図１　グリッド配置図 …… 3
図２　北原扇状地及び周辺に於ける遺跡分布 …… 5
図３　本郷Ｂ遺跡調査区及び周辺図 …… 6
図４　基本土層図 …… 6
図５　１～６・10号溝、２号土坑、井戸 …… 23～24
図６　６～20号溝、１～３・７・10号土坑、埋甕１・２ …… 25～26
図７　10・11・13～20号溝、１・３～６・10号土坑、土坑墓 …… 27～28
図８　Ａ～Ｃ－２～５グリッド上面遺構、21～26号溝 …… 29～30

図９　21～23・25～27号溝、８・９号土坑……31～32
図10　14号・15号溝出土遺物位置……33
図11　20号溝出土遺物位置及びセクション……34
図12　23号溝出土遺物位置及びセクション……35
図13　24号・25号溝出土遺物位置……36
図14　26号・27号溝出土遺物位置……37
図15　１号～５号土坑……38
図16　６号～10号土坑……39
図17　井戸、土坑墓、埋甕……40
図18　４号溝、５号溝、10号溝、13号溝、18号溝、20号溝出土遺物……41
図19　14号溝、15号溝出土遺物……42
図20　23号溝、24号溝、25号溝、26号溝出土遺物……43
図21　27号溝出土遺物……44
図22　１号土坑、６号土坑、８号土坑、井戸、土坑墓出土遺物……45
図23　埋甕１・埋甕２出土遺物……46
図24　ピット、グリッド、調査区一括出土遺物……47
図25　本郷Ｂ遺跡遺構変遷図……53

【表目次】

表１　ピット観察一覧表……17～22
表２　遺物観察表……48～50

【写真目次】

写真１　調査区風景……54
写真２　試掘調査区、溝(1)……55
写真３　溝(2)……56
写真４　溝(3)……57
写真５　土坑……58
写真６　井戸、土坑墓、埋甕……59
写真７　ピット、作業風景……60
写真８　４号・５号・10号・13号・18号・20号溝出土遺物……61
写真９　14号・15号溝出土遺物……62
写真10　23号・24号・25号・26号溝出土遺物……63
写真11　27号溝出土遺物……64
写真12　土坑、井戸、埋甕、ピット出土遺物……65
写真13　グリッド、調査区一括出土遺物……66

第１章　調査の概要

第１節　調査に至る経緯

山梨県甲府市善光寺三丁目1946－１、1952－１、1952－２合計面積1545㎡における発掘調査は、宅地造成工事に伴って実施されたものである。当該地区は北原扇状地の先端部に位置し、北から南方向に若干緩やかな傾斜が見られるが、ほぼ平坦な土地である。調査区一帯はぶどうなどの果樹地帯であり、調査区北側の1946－１番地はアスファルト舗装を施した駐車場であったが、南側一帯にはブドウ畑が広がっていた。

平成15年４月ごろ宅地造成の計画が浮上し、同年４月28日付けで埋蔵文化財保護法57条の２項が開発業者である日信建物株式会社より提出された。これに基づき試掘調査を同年６月３日から７月１日までの約１か月間実施した結果、古墳時代と中世の溝・ピットなどの遺構と遺物が検出された。

この報告に基づき甲府市教育委員会と、地権者（飯野忠治・渡邊益代・岩田和子・小林晴子）及び関係業者と協議を行った。その結果、南北方向の道路部分約450㎡については、開発工事により遺構・遺物に影響が及ぶため本調査対象範囲とした。宅地部分約1095㎡に関しては、0.5～１ｍの盛土が行われ遺構面が保護されることが開発業者との協議により確認されたため、調査対象範囲から除外することが決定された。これらの協議の結果、平成15年７月22日発掘調査及び報告書作成作業についての契約が締結された。

本調査は、同年８月４日から９月30日までの２ヶ月間実施し、引き続き整理作業及び報告書作成業務を行った。

第２節　調査方法（図１）

試掘調査は平成15年６月３日から同年７月１日までの約１か月間行った。調査区（1545㎡）は南北方向に細長い土地であるため、宅地部分と道路部分に幅２ｍのトレンチを南北に２本設定し、重機で表土の除去を行った。西側宅地部分の１号トレンチは、長さ55.4ｍあり部分的に拡張し、約174.48㎡掘削を行った。その結果古墳時代及び中世の溝が14本検出された。遺物は古墳時代前期に位置付けられるＳ字状口縁の土器、中世の内耳土器が確認された。さらにトレンチ中央の拡張部分からは、近世から近代にかけて使用された大型の甕が２基出土した。

本調査が行われた道路部分に設定した、長さ約28ｍの２号トレンチの地表下20～50㎝と浅い部分からは、古墳時代前期の遺物を含む溝を検出した。調査区北側は遺跡範囲外でありアスファルト舗装の駐車場施設があるため試掘調査は行えなかったが、遺構は存在するものと考えられたため本調査の対象範囲とした。

本調査は、先述したとおり同年８月４日から９月30日までの２ヶ月間実施した。調査区域は、宅地造成予定地内東側の道路となる約450㎡を対象とし、幅5.5～６ｍ、南北約80ｍの範囲である。調査は重機により表土を除去後、調査区の形状に合わせて任意に東から西へＡ～Ｇ、北から南へ１～22に分割し、４ｍ間隔で合計30本のグリッド杭を設定した。２点のグリッド座標を以下に示しておく。

Ａ－15グリッド　ｘ＝－37970.000　　ｙ＝8730.000　　ｚ＝258.349

Ｂ－15グリッド　ｘ＝－37969.434　　ｙ＝8726.040

遺構は平面形を確認後、規模・形状等により若干異なる部分もあるが、原則半截を行い、土層を観察しながら検出した。さらに、平板測量によって作図し写真記録した。また遺物は、基本的に位置及び水準を記録し、遺構又はグリッドごとに取り上げを行った。

第３節　調査組織

調査スタッフ

（発掘調査）

青木勇樹・荒木昭彦・石部祖代・大間久江・岡　悦子・小澤四郎・金井いく代・倉田勝子・小宮通子・坂本道穂・末木義光・鈴木正文・鷹野大智・中込幹一・平賀早苗・平沢則子・深沢春美・中澤明雄・吉田永雄・吉田佳小里・望月宏美・望月貴美子・渡辺　茂・渡邉百合子

（整理作業）

中村里恵（嘱託職員）・大塚敦子・倉田勝子・小宮通子・中川美千子・平賀早苗・平沢則子・渡邉百合子

第４節　調査日誌

６月３日	試掘調査開始。
下旬	地権者及び関係者による試掘現場視察及び協議。
７月１日	試掘調査完了。
22日	本調査に関る契約を締結。
８月４日	本調査準備開始。
５日	調査位置設定。
８月６～７日	重機による表土除去作業開始。
11日	遺構確認作業開始。
22日	基準杭設定作業完了。
９月６日	調査区南側（Ａ・Ｂ－12～22グリッド）遺構全体写真撮影及び掘削完了。
17日	調査区北側（Ｂ・Ｃ－１～12グリッド）上面遺構調査完了。
29日	調査区北側（Ｂ・Ｃ－１～６）遺構全体写真撮影完了。
30日	遺構図面完了。道具等を撤収して発掘調査終了。

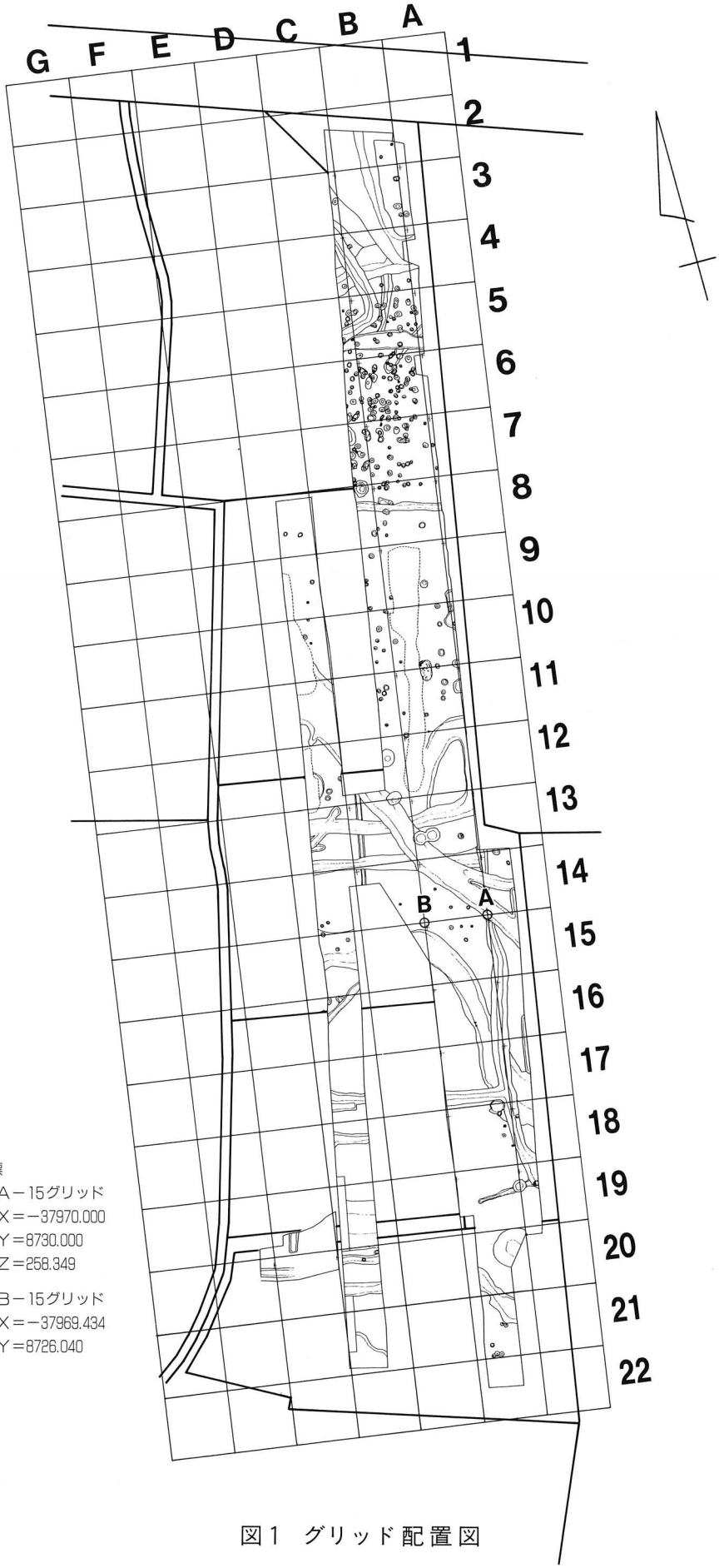

G F E D C B A
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
B
A
座 標
A＝A－15グリッド
X＝－37970.000
Y＝8730.000
Z＝258.349
B＝B－15グリッド
X＝－37969.434
Y＝8726.040

図1 グリッド配置図

第２章　遺跡の環境（図２・３）

今回発掘調査を行った本郷Ｂ遺跡は、甲府市街地東方の里垣地区一帯に広がる北原扇状地先端、標高258～259ｍに位置する。北原扇状地は板垣山に源を発する扇状地東側を南流する大円川と、扇状地中央部を同じく南流する高倉川により形成された、東・北・西側の三方を酒折山・善光寺山・板垣山・夢見山・愛宕山の峰に囲まれた、東西約1.4km、南北約２kmの範囲に広がる小扇状地である。両河川とも現在は改修工事が施され、川幅も４～５ｍと狭く流れも少量であるが、雨天となると急激に増水し、現在も雨量が多い場合は東中学校付近では冠水する場合がある。

この北原扇状地には、『甲府市遺跡地図』で確認されるだけでも40箇所の遺跡分布が確認されている。過去に行われた発掘調査では、1983年北原遺跡（93）、1991年善光寺北遺跡（98）などの調査において、縄文時代前期後葉から後期にかけての遺構・遺物が確認されている。

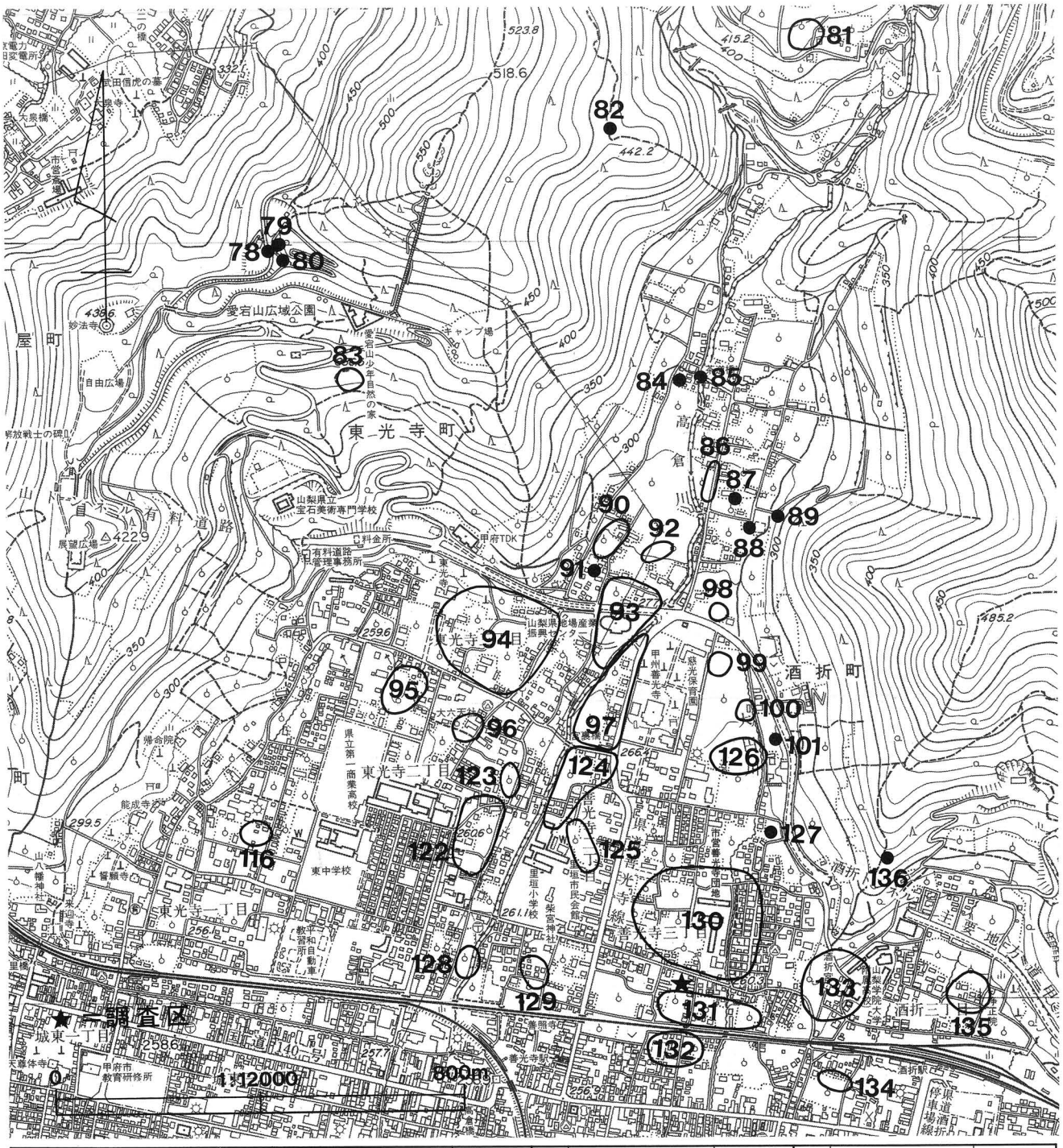
弥生時代の遺跡は現在のところ確認されていないが、古墳時代に入ると遺跡は増加する。扇状地北方部には古墳時代後期に北原古墳群が形成され、さらに消滅した古墳も含めてこの周辺には17基ほどの古墳が確認されている。稲荷塚１号墳・地蔵塚古墳（88）・ポンポコ塚古墳（127）・不老園塚古墳（136）は削平を受けているが直径10ｍ以上の墳丘であり、横穴式石室或いはその可能性がある古墳時代後期の円墳である。中でも稲荷塚１号墳・不老園塚古墳は全長6.1ｍと5.7ｍの横穴式石室であったことが確認されており、この地域に有力者が存在していたことを窺わせる。北原古墳群南側の扇央部には、６箇所以上の包蔵地が確認され、居住空間の可能性がある。この地域には古墳群が形成されていることから、「北原扇状地を中心とした勢力の存在を窺わせることができる」と指摘されており、今回の調査からも古墳時代前期から、居住していたことが確認された。

平安時代の遺跡は22箇所と多数確認され、広範囲に集落が営まれていたものと考えられるが、具体的に調査が行われていないため実態は不明な部分が多い。しかし、平安時代末から中世初頭には、北原扇状地の善光寺・東光寺・酒折地区からさらに南側の国玉地区一帯にかけて『板垣郷』と称されるようになる。この『板垣郷』については、古代表門郷から分離したものとされる。

板垣郷には、平安時代末から鎌倉時代初頭にかけて武田信義の子兼信が本拠地を構え、板垣氏を称する。さらにこの地域には鎌倉時代創建の東光寺があり又、武田晴信により信濃国から善光寺が移されるなど宗教的な色彩が強い土地である。現在も善光寺から南へ延びる旧参道である県道善光寺線の両側には、町屋や子院の形成の痕跡である短冊形地割が見られる。この善光寺は、江戸時代の文化年間（1804～1818）には、境内１万１千坪あまり塔頭子院など23箇所の規模を誇り、甲斐国の浄土宗触頭であった。

今回の調査区周辺においては、東方300ｍには、倭建命が東国遠征の帰途立ち寄ったと説話が残る酒折宮が鎮座する。さらに、北方150ｍの善光寺三丁目には「殿屋敷」の字名が残り、『甲斐国志』に「三郎兼信ノ館迹アリ殿屋敷ト云ウ」と記載がある。昭和60年から昭和61年にかけてこの一帯は発掘調査が行われ、縄文時代早期の土器が数点検出されるとともに、墨書土器が検出された平安時代の井戸、さらに16世紀代に位置づけられる土坑墓・溝などの遺構も確認された。遺構・遺物のみでは板垣氏の居館の確証とは成り得ないが、存続期と重なる可能性が指摘されている。当調査区も近接する土地であり、本郷遺跡から検出された中世の遺構・遺物とほぼ同時期であることから関連性が考えられる。

近世に来ると一帯は畑作が多く行われ、明治時代以降はぶどうが多く栽培されている。



78	二ツ塚1号墳	古墳	88	地蔵塚古墳	古墳	98	善光寺裏遺跡	縄文・平安～	127	ポンポコ塚	古墳
79	二ツ塚2号墳	古墳	89	鎧塚古墳	古墳	99	南善光B遺跡	古墳～平安	128	東光寺遺跡	平安～
80	二ツ塚3号墳	古墳	90	堤下B遺跡	平安～	100	南善光A遺跡	平安～	129	宮の前遺跡	縄文
81	茶堂遺跡	平安	91	北原無名1号墳	古墳	101	善光寺無名塚	古墳	130	本郷遺跡	縄文・古墳～
82	一ツ塚古墳	古墳	92	堤下A遺跡	平安～	116	御崎田遺跡	平安	131	本郷B遺跡	古墳・中世
83	大笠山水の穴遺跡	古墳～	93	北原遺跡	縄文・平安	122	銀杏之木遺跡	平安～近世	132	本郷C遺跡	古墳～中世
84	善光寺塚2号墳	古墳	94	地蔵北遺跡	古墳～平安	123	宮裏遺跡	平安～	133	酒折縄文遺跡	縄文
85	善光寺塚1号墳	古墳	95	亥ノ兎遺跡	平安～	124	宮の脇B遺跡	縄文・平安～	134	内林遺跡	近世
86	北善光A遺跡	平安～	96	大六天遺跡	平安～	125	上郷遺跡	平安～	135	酒折遺跡	近世
87	三日月古墳	古墳	97	宮の脇A遺跡	縄文・平安～	126	殿屋敷遺跡	平安～	136	不老園塚	古墳

図2　北原扇状地及び周辺に於ける遺跡分布

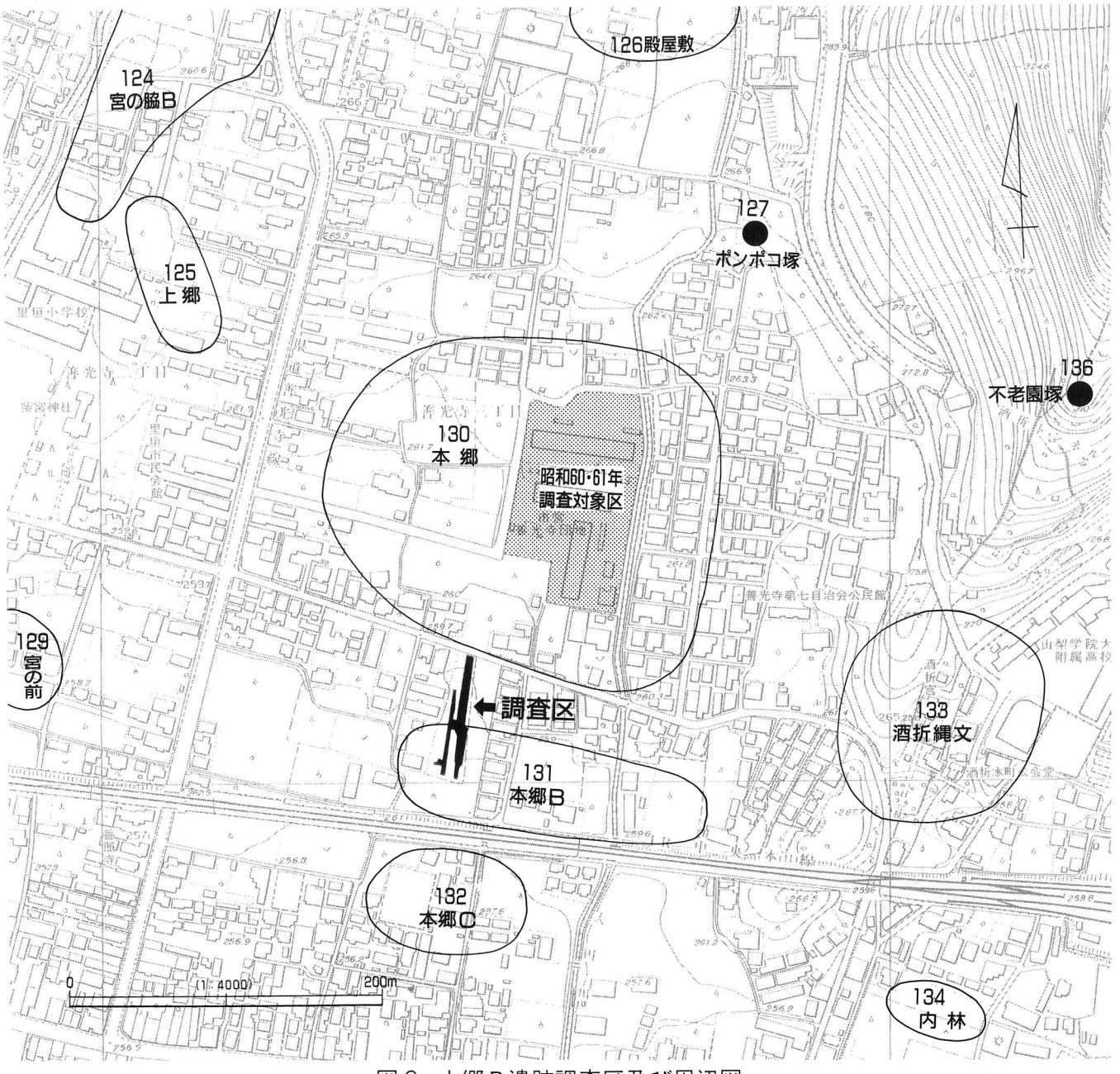


図3　本郷B遺跡調査区及び周辺図

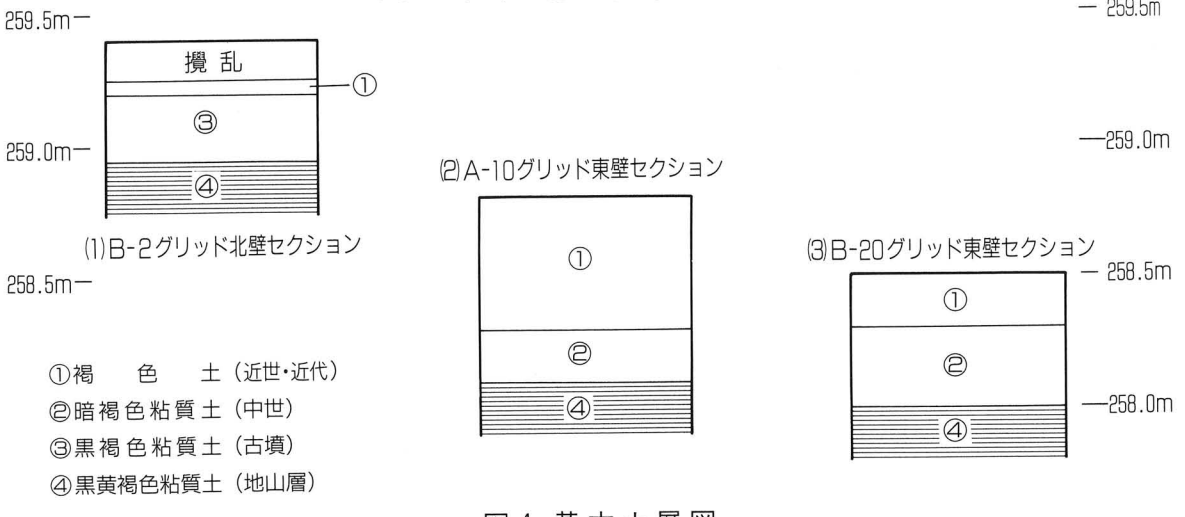


図4　基本土層図

第３章　発見された遺構と遺物

第１節　層　序（図４）

調査区は北原扇状地先端部に位置する。調査区は東西５～６ｍ、南北75ｍと細長い土地である。遺構確認面における標高は調査区北側で、約259ｍ、南側では約258ｍ、比高差は約１ｍ程度あり、勾配角度は1000分の13と南側へ緩やかに傾斜している。

基本土層は４層に分層される。第一層の褐色土は近世・近代の耕作土で、厚さは40～50cmある。第二層は中世に形成された暗褐色粘質土であり、厚さ10～20cmあるが調査区南側では、部分的にしか確認されていない。第三層は古墳時代の堆積層で、厚さ10～40cmの黒色粘質土である。第四層は黄色粘質土を多く含む暗黄褐色粘質土である。

検出された遺構は、耕作等により上面遺構は削平を受けたものが多く、第三層及び第四層に掘り込まれた状態で確認されている。特に南側では地表から地山までが薄い状態である。

第２節　遺構と遺物

検出された遺構は、大別して古墳時代・中世・近世～近代の３時期である。溝27条、土坑10基、井戸１基、土坑墓１基、埋甕２基、ピット257基である。本文中における溝とピットの重複関係についての記載は省略した。

（1）溝

１号溝（遺構図５）

位　　置　Ｄ－20グリッド

検出状況　主軸は東西方向Ｎ－72°－Ｗである。長さ2.35ｍ、幅70～80cm、深さ約５～７cmを計測する。

出土遺物　なし

切合関係　なし

時　　期　不明

２号溝（遺構図５）

位　　置　Ｄ～Ｆ－20グリッド

検出状況　主軸は東西方向Ｎ－73°－Ｗである。部分的に検出不能であったが拡張部分で長さ２ｍ、幅80～90cm、深さ約８～９cmである。１号トレンチ部分では長さ2.3ｍ、幅55～60cm、深さ約８～９cmを計測する。覆土は炭化物・焼土粒子を少量含む、暗褐色粘質土である。

出土遺物　縄文土器片１点

切合関係　ピット254との切合い関係は不明。

時　　期　推定中世段階

３号溝（遺構図５）

位　　置　Ｅ－19グリッド

検出状況　主軸は南北方向Ｎ－15°－Ｅである。長さ1.1ｍ、幅50～60cm、深さ約６～12cmを計測する。暗褐色土の覆土である。２号溝とは接してはいないが、ほぼ直交し覆土も類似している。

出土遺物　なし
切合関係　なし
時　　期　推定中世段階

4号溝（遺構図5／遺物図18）
位　　置　D－19グリッド
検出状況　主軸は東西方向N－69°－Wである。長さ2.3m、幅3～3.3m、深さ17～25cmを計測する。黒色粘質土の覆土内からは、土師器小片が出土した。
出土遺物　1高坏脚部である。他小片のため図化は行ってはいないが、土師器小片34点、須恵器1点出土。
切合関係　なし
時　　期　古墳時代

5号溝（遺構図5／遺物図18）
位　　置　B－20グリッド
検出状況　主軸は北東から南西方向N－22°－Wである。長さ3.2m、幅70～130cm、深さ5～13cmを計測する。黒色粘質土の覆土内からは、土師器小片が出土した。
出土遺物　2壺口縁部、3甕胴部。他図化は行ってはいないが土師器小片出土。
切合関係　なし
時　　期　古墳時代

6号溝（遺構図5）
位　　置　A・B－19グリッド
検出状況　主軸は東西方向N－88°－Wである。長さ3.5m、幅22～60cm、深さ10～20cmを計測する。覆土は黒色粘質土である。
出土遺物　土師器小片4点出土。
切合関係　2号土坑を切る。10号溝に切られる。
時　　期　古墳時代

7号溝（遺構図6）
位　　置　D－18グリッド
検出状況　主軸は東西方向N－69°－Wである。長さ2.2m、幅60～90cm、深さ23～68cmを計測する。
出土遺物　なし
切合関係　なし
時　　期　不明

8号溝（遺構図6）
位　　置　D－17グリッド
検出状況　主軸は東西方向N－72°－Wである。長さ1.5m、幅40～55cm、深さ8.6～25.2cmを計測する。西壁の土層観察によると、表土部分から掘り込まれていることから、近代に掘削されたものと考えられる。
出土遺物　なし
切合関係　9号溝を切る。

時　　期　近代

9号溝（遺構図6）
位　　置　D－17、B－17グリッド
検出状況　主軸は東西方向N－69°－Wで東方へ傾斜している。1号トレンチ部分では、長さ2.1m、幅65～85cm、深さ6.9～27cm、B－17では長さ3.5m、幅80～100cm、深さ23～36cmを計測する。いずれの部分でも覆土は暗褐色粘質土である。10号溝の覆土と同質であり、ほぼ直交する。
出土遺物　土製擂鉢口縁部2点、土師器8点出土。
切合関係　13号溝を切る。10号溝と同時期に存在したものと考えられる。
時　　期　中世段階

10号溝（遺構図6／遺物図18）
位　　置　A・B－12～18、A－19グリッド
検出状況　主軸は南北方向N－15°－Eであり、現在の地割りとほぼ平行する。南端部は東南方向へ振れている。長さ21m、幅20～75cm、深さ13.5～27cmを測る。覆土は9・14・15号溝と同質の暗褐色粘質土であり、これらの溝とほぼ直交する。
出土遺物　4は土製擂鉢である。5は回転糸切り痕のかわらけ、他にかわらけ小片4点、内耳鍋1点、土製擂鉢3点、土師器13点、黒曜石1点、骨粉が検出された。
切合関係　6・13・18・19号溝を切る。9・14・15号溝と覆土及び出土遺物の時期に類似性が見られることから、同時期に存在したものと考えられる。
時　　期　中世段階

11号溝（遺構図6）
位　　置　A－14グリッド
検出状況　東壁際で検出されたため全容は不明である。主軸は南北方向N－15°－Eであり、現在の地割りとほぼ平行する。検出された範囲においては長さ2.6m、深さは10cmである。覆土は12号溝とほぼ同質の暗褐色粘質土である。
出土遺物　なし
切合関係　18・19号溝を切る。
時　　期　推定中世段階

12号溝（遺構図6）
位　　置　A－16・17グリッド
検出状況　東壁際で検出されたため全容は不明である。主軸は南北方向N－15°－Eであり、現在の地割りとほぼ平行する。検出された範囲においては長さ2.5m、深さ10cmである。覆土は11号溝とほぼ同質の暗褐色粘質土である。
出土遺物　なし
切合関係　13号溝を切る。
時　　期　推定中世段階

13号溝（遺構図6／遺物図18）
位　　置　B～D－15、B－16、A・B－17・18グリッド
検出状況　A～C－15～19では南北方向N－15°－Wに主軸をとる。長さ約12.5m、幅1.6

～3.2m、深さ8～25cmを計測する。北から南側へ下り、北端部は西側へ南端部は東側へ振れる。1号トレンチのD－14・15グリッド部分では、東西方向N－75°－Wであり、幅2.2～2.6m、深さ15～25cmある。覆土は黒色粘質土を基調とする。A～C－15～19グリッド部分では遺物の出土は少量であったが、1号トレンチ部分では若干多く出土した。

出土遺物　6高坏・7壺底部・8有段口縁の壺である。図化は行ってはいないが土師器の小片も出土した。

切合関係　9・10・12号溝に切られる。

時　　期　古墳時代前期

14・15号溝（遺構図6・10／遺物図19）

位　　置　B～D－13・14グリッド

検出状況　両溝とも東西方向N－73°－Wであり、現在の地割線と平行し、10号溝と直交する。長さ10.5m、幅60～130cm、深さ6～20cmを計測する。両溝の間はほぼ平坦であり、溝の内側から幅1.6～2.1m、溝を含めると3.2～4.2mの幅がある。この遺構の延長線上の東西両方向には道路が位置する。伝承では、この地域には酒折宮に通じる参道が存在したと云われている。そのことから、検出された両溝は、道路に伴う側溝と推察される。出土した遺物は、いずれも中世16世紀代に位置づけられる。溝の東側から集中して出土した。

出土遺物　14号溝では15～25の遺物が出土した。15～17のかわらけは、回転糸切り痕が見られる。18は器種不明の陶器である。19から22は土製擂鉢である。23は内耳鍋口縁部であり、外面はススが付着している。24・25は常滑製の甕の破片である。26は馬の前臼歯である。27は種別不明の背骨部分である。その他小片のため図化は行ってはいないが、かわらけ3点、土製擂鉢3点、坏1点、土師器3点、不明土製品1点が出土した。

15号溝では28～31が出土した。28は瀬戸美濃製合子蓋である。29・30はかわらけである。30のかわらけ内面には、放射状の線刻が見られる。31の内耳鍋は外面に炭化物が付着している。

切合関係　16号溝に切られる。10号溝と覆土が類似し同時代の遺物が出土していることから同時期に存在したものと考えられる。18号溝を切る。

時　　期　中世（16世紀代）

16号溝（遺構図6）

位　　置　D－12・13グリッド

検出状況　主軸は南西方向N－54°－Eであり、長さ3m、幅50～60cm、深さ25cmを計測する。覆土は極めてゆるい暗褐色土であり、ブドウの蔓などが検出された。

出土遺物　なし

切合関係　15・17号溝を切る。

時　　期　近代

17号溝（遺構図6）

位　　置　D－13グリッド

検出状況　南西方向N－75°－W、14号・15号溝とほぼ平行する。長さ90cm、幅40～50cm、深さ7cmを計測する。覆土は暗褐色粘質土である。

出土遺物　なし
切合関係　16号溝に切られる。
時　　期　近代以前

18号溝（遺構図７／遺物図18）
位　　置　Ａ～Ｄ－10～15グリッド
検出状況　北西から南東方向Ｎ－20°－Ｗに通じ、長さ20.5ｍ、幅1.3～3.1ｍ、深さ16～39㎝を計測する。遺構は南側より北側の残存状況が良好であり、Ｄ－12グリッドには遺物の集中が見られた。覆土は黒色粘質土を基調とする。
出土遺物　９は台付甕の脚部である。その他図化は行ってはいないが、Ｓ字状口縁の土器など、古墳時代前期に位置づけられる遺物が出土した。
切合関係　10・11・14・15号溝、埋甕に切られる。19号溝、３号土坑との切合い関係は不明である。
時　　期　古墳時代前期

19号溝（遺構図７）
位　　置　Ａ・Ｂ－14グリッド
検出状況　東西方向Ｎ－55°－Ｗに軸線をとる。長さ3.2ｍ、幅75～85㎝、深さ3.1～17㎝を測る。覆土は黒色粘質土である。
出土遺物　なし
切合関係　10・11号溝に切られる。18号溝との切合い関係は不明。
時　　期　古墳時代前期の溝であると考えられる。

20号溝（遺構図７・11／遺物図18）
位　　置　Ｂ－11・12グリッド
検出状況　北東から南西方向Ｎ－69°－Ｅに軸線をとるが、北側は東方向へ湾曲するものと考えられる。現状長さ6.8ｍ、幅75～125㎝、深さ7.9～36㎝を計測する。覆土は暗黒褐色粘質土を基調とする。遺物の出土量は少量であったが、Ｓ字状口縁の土器をはじめ、残存率50％以上の古墳時代前期の土器が集中して４点出土した。
出土遺物　10はＳ字状口縁台付甕、11は壺、12・13は長頸壺、14は坩である。他、図化を行ってはいないが、古墳時代前期の土師器も出土した。
切合関係　10・15号溝に切られる。18号溝との切合い関係は不明。
時　　期　古墳時代前期

21号溝（遺構図８）
位　　置　Ａ～Ｃ－５グリッド
検出状況　東西方向Ｎ－70°－Ｗに軸線をとる。長さ５ｍ、幅約110㎝、深さ９～17.5㎝を計測する。覆土内からはコンクリート片など近代の遺物が多数出土した。
出土遺物　なし
切合関係　22・25・26号溝を切る。
時　　期　近代

22号溝（遺構図９）
位　　置　Ｂ－５・６グリッド

検出状況　北東から南西方向N－70°－Wに軸線をとる。長さ3.4m、幅60～70cm、深さ4.3～15.6cmを計測する。覆土は黒褐色粘質土である。
出土遺物　なし
切合関係　21号溝に切られる。
時　　期　不明

23号溝（遺構図９・12／遺物図20）
位　　置　A～C－４グリッド
検出状況　東西方向N－85°－Wに軸線をとる。長さ５m、幅1.5～2.1m、深さ16～23cmを計測する。覆土はややゆるい暗褐色粘質土である。全域から、かわらけ・土鍋・産地不明の陶器・土馬など中世段階の遺物が多数出土した。
出土遺物　32・33・34はいずれも回転糸切り痕のかわらけである。35は表面に叩き目が見られる甕の体部である。36の須恵器は二次転用され、表面が磨耗している。37も須恵器である。38は土製の擂鉢、39は内耳鍋の耳部である。40は内耳鍋底部で、41は黒色釉薬が施釉された徳利状の陶器である。42は土馬で、精製した粘土で作成され、部分的にススの付着が見られた。さらに、脚部及び耳部は欠損している。その他図化は行われていないが、かわらけ４点、土鍋１点、土師器13点、縄文土器２点が出土した。
切合関係　24・25・26・27号溝を切る。
時　　期　中世（16世紀代）

24号溝（遺構図８・13／遺物図20）
位　　置　B－２～４グリッド
検出状況　南北方向N－24°－Wに軸線をとり、長さ7.3m、幅0.6～1.2m、深さ10～27cmを計測する。覆土は黒褐色粘質土であり、小礫を多く含む。
出土遺物　43～47は古墳時代中期の遺物が多く含まれる。48・49は五嶺ヶ台式の縄文土器である。50は櫛目状弧線文の弥生時代後期の土器である。
切合関係　23号溝に切られる。27号溝上面に位置する。
時　　期　古墳時代中期

25号溝（遺構図８・13／遺物図20）
位　　置　B－４～５グリッド
検出状況　南北方向N－29°－Wに軸線をとり、長さ3.8m、幅0.3～0.7m、深さ５～11cmを測る。南側は浅くなる。覆土は黒褐色礫質土を主体とする。23号溝により分断されているが、24号溝の覆土と同じく小礫が多く混入していることから、24号・25号溝は同じ溝であったと考えられる。
出土遺物　51～53など古墳時代中期の遺物が多く見られた。
切合関係　21・23号溝に切られる。
時　　期　古墳時代中期

26号溝（遺構図９・14／遺物図20）
位　　置　C－３～４グリッド
検出状況　南北方向と東西方向にほぼ直角に屈曲する溝である。南北方向はN－７°－Wに軸線をとり、長さ5.3mを計測する。東西方向はN－99°－W、長さ2.3mである。

幅は80～90cm、深さ30～40cmを計測する。覆土は黒褐色粘質土であり、遺物は弥生時代後期の土器片が少量出土したが、それらの出土位置は比較的溝の南東隅に集中して出土した。

出土遺物　54～56は、いずれも弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての土器である。

切合関係　21・23号溝に切られる。

時　　期　弥生時代後期から古墳時代初頭

27号溝（遺構図９・14／遺物図21）

位　　置　Ａ－４、Ｂ－２～３、Ｃ－２～３グリッド

検出状況　南北方向はＮ－１°－Ｅに軸線をとり、長さ9.5ｍ、幅は北側で3.5ｍ、南側で1.4ｍ、深さ約40cmを計測する。南側は23号溝による攪乱と調査区東壁により未確認ではあるが、東方Ｎ－99°－Ｅへ屈曲しているものと考えられる。覆土は黒色粘質土であり、溝底部からは古墳時代前期の遺物が多数出土した。

出土遺物　57～68は古墳時代前期後半にかけての遺物である。69は弥生時代後期の遺物である。

切合関係　23・24号溝に切られる。

時　　期　古墳時代前期

（2）土　坑

１号土坑（遺構図15／遺物図22）

位　　置　Ｃ－12グリッド

検出状況　西壁にかかった状態で検出された。円形プランと考えられ、上端直径推定1.1ｍ、深さ25cmを計測する。覆土は黒色粘質土であり、焼土粒子と炭化物が検出された。

出土遺物　70回転糸切り痕のかわらけである。焼土塊小片２点出土。

切合関係　なし

時　　期　中世

２号土坑（遺構図15）

位　　置　Ａ・Ｂ－19グリッド

検出状況　円形プランを呈し、直径約65cm、深さ12cmを測る。覆土は黒褐色粘質土であり２層に分層される。両層からは微量の焼土粒子が検出された。

出土遺物　なし

切合関係　６号溝に切られる。

時　　期　古墳時代

３号土坑（遺構図15）

位　　置　Ｃ－12・13グリッド

検出状況　楕円形プランを呈し、長軸90cm、短軸76、深さ35cmを計測する。黒褐色粘質土の覆土内からは、径30cmの平坦な自然石と拳大の礫が５～６点検出された。

出土遺物　なし

切合関係　７号溝との切合い関係は不明。

時　　期　不明

4号土坑（遺構図15）
位　　置　B－9・10グリッド
検出状況　東壁に切られているため全容は不明であるが現状長軸1.9m、深さ5cmを計測する。プランは隅丸方形であると考えられる。覆土の暗褐色粘質土は約10cm程と薄く、微量の骨片と中世の土器が出土した。
出土遺物　骨片、土器小片
切合関係　5号土坑を切る。
時　　期　中世

5号土坑（遺構図15）
位　　置　B－10グリッド
検出状況　東壁に切られているため全容は不明であるが現状直径90cm、深さ36cmを計測する。プランは丸形であると考えられる。黒褐色粘質土を基調とし、礫が6点検出された。
出土遺物　礫6点
切合関係　4号土坑・ピット9に切られる。
時　　期　推定中世

6号土坑（遺構図16／遺物図22）
位　　置　B－11グリッド
検出状況　東壁に切られているため全容は不明であるが現状円形プランを呈するものと考えられ、径87cm、深さ31cmを計測する。黒褐色粘質土を基調とし、炭化物・焼土の混入が確認される。拳大の礫が7点検出された。
出土遺物　71は馬の後臼歯である。他に底部回転糸切り痕のかわらけ1点、焼土塊が1点出土。
切合関係　なし
時　　期　中世

7号土坑（遺構図16）
位　　置　B－17グリッド
検出状況　円形プランを呈し、直径約1m、深さ約16cmを計測する。
出土遺物　なし
切合関係　ピット31、9・10号溝に切られる。
時　　期　中世以前

8号土坑（遺構図16／遺物図22）
位　　置　C－7・8グリッド
検出状況　円形プランを呈し、長軸110cm、短軸92cm、深さ約40cmを計測する。覆土には焼土が含まれ、拳大の礫が4点、かわらけ2点、土器1点などが集中して出土した。
出土遺物　72・73は回転糸切り痕のかわらけ、74はロクロ成形による器種不明の土器。その他図化は行っていないが、土器21点、古代坏4点出土。
切合関係　ピット109・228に切られる。
時　　期　中世

9号土坑（遺構図16）
位　　置　C－6・7グリッド
検出状況　西壁に切られているため全容は不明であるが現状径125cm、深さ50cmを計測する。円形プランを呈するものと考えられる。西壁の土層観察から径10cm位の礫が4点と炭化物・焼土が少量検出されている。
出土遺物　小片のため図化は行ってはいないが、S字状口縁台付甕土器片など14点、焼土塊1点出土した。
切合関係　なし
時　　期　近世以前

10号土坑（遺構図16）
位　　置　B・C－14グリッド
検出状況　ほぼ円形プランを呈し、長軸70cm、短軸55cm、深さ約15cmを計測する。中には径7～8cm、深さ7cmのピットが2基確認された。
出土遺物　焼土塊1点
切合関係　なし
時　　期　不明

（3）井　戸（遺構図17／遺物図22）
位　　置　B－19・20グリッド
検出状況　東側は調査対象外であり未掘削であるが円形プランと考えられ、上端直径推定約2.3m、下端0.85m、深さ約1.3mを計測する。覆土はやや水分を多く含む暗褐色粘質土であり、遺構下部には径10～20cmの礫が10点ほど検出された。
出土遺物　75はかわらけ、76は陶器製壺の体部。土器17点、古代坏1点出土。
切合関係　なし
時　　期　中世

（4）土坑墓（遺構図17／遺物図22）
位　　置　B－10・11グリッド
検出状況　西側は一部攪乱を受けているが隅丸方形プランである。南北方向長軸1.3m、東西方向短軸80cm、深さ15cmを測る。遺構中央部に屈葬された状態で人骨が検出された。頭部を北側に据え顔面は西側を向く状態で、腕と足は折り曲げてある。胸部に近い部分に古銭6枚が副葬されており、さらに脚骨近辺からは土鍋の破片が1点出土している。骨は残存している脚骨から頭骨まで150cmを計測したため、身長は、150～160cmほどであったものと考えられる。性別については不明である。
出土遺物　77土鍋破片、古銭6点78～83（78□□元寶・79洪武通寶・80永楽通寶・81皇宋通寶・82元祐通寶・83聖宋元寶）
切合関係　なし
時　　期　中世（16世紀代）

（5）埋甕遺構（遺構図17／遺物図23）
位　　置　B・C－13グリッド
検出状況　甕上部は地表下5cmと極めて浅い部分から東西に並んで2基検出された。

掘り方は、東西方向へ1.7mの繭型を呈し、上部直径85cm、下部直径55cm、地表から深さ75cmを計測する。両甕とも垂直に設置され、口縁部はほぼ同レベルに位置していた。両甕内部に堆積していた黒褐色土内からは、空缶・ビニール袋が検出されている。また両甕の内面上部の厚さ1cmほどの付着物はアンモニア、カルシウム分が多く含まれている。

出土遺物　84は埋甕1・85は埋甕2。両甕とも素焼きであり、橙色を呈する。輪積み製法で作成され、底部はヘラで整形されている。

切合関係　18号溝を切る。

時　　期　近代

(6) ピット（遺構図5～9／遺物図24／表1～7）

調査区内において257基のピットが検出され、それらはB・C－5～7グリッドの区間内において比較的集中して確認された。基本的に中世段階のピットの覆土は暗褐色粘質土であり、古墳時代は黒色粘質土或いは黒褐色粘質土である。確認されたピットは建物・柵列などの構造物を構成していた可能性も考えられるが、調査範囲が限定され全体像を捉えられなかったため、すべてピットとして扱う。なお一覧表にまとめここに報告する。

ピットにおける出土遺物は、何れもピットが集中するB・C－5～7グリッドに多く見られた。ピット52・57・146・218で出土した、87・88・90・95のかわらけは、底部に回転糸切り痕が見られる。90のかわらけは口縁部に炭化物が付着しており、灯明皿として使用されていたものと考えられる。ピット161・166からは、91・92の陶器が出土した。ピット210・219から出土した、93・94の砥石は何れも輝石安山岩製であり、対極する二面に使用痕が確認される。ピット220で確認された、96の茶臼（上臼）は、擂目の磨耗が著しい。

(7) 遺物（遺物図24）

遺構に伴う遺物は、各遺構部分において記述した。ここでは、遺構外から出土した遺物について記載する。

遺構外遺物の多くは、ピットが多数確認された、B・C－5～7グリッドの区域から検出された。特にこの区域の古墳時代の黒色粘質土の堆積層からは102～105のS字状口縁台付甕の破片など、古墳時代前期の遺物が多数確認された。さらにB－6グリッドでは、106～111の6枚の北宋銭など中国からの渡来銭が、一箇所からまとまって出土している。

ピット観察一覧

番号	位置	形状	長径	短径	深さ	土　層　観　察	出土遺物	切合い関係・備考
1	A－13	半円	50	40	15	1.黒色粘質土 黄色土粒子少量、しまる		調査区北壁に切られる
2	A－14	楕円	30	20	16	1.黒色粘質土 黄色土微粒子微量、ややしまる		
3	B－11	円	13	12	12	1.黒色粘質土 炭化物・焼土微量、ややしまる		
4	B－11	円	22	20	15	1.暗褐色粘質土 しまる		
5	B－11	円	30	28	29	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、ややしまる		
6	B－11	円	25	25	12	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、しまる 2.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、ややゆるい	土器、礫	
7	B－11	円	40	40	26	1.暗褐色粘質土 炭化物少量、黄色土少量、しまる 2.黒黄褐色粘質土 黄色土粒子やや多く含む、しまる 3.黒褐色粘質土 焼土微量、黄色土少量含む、しまる	土器小片（時期不明）	
8	B－10	楕円	45	39	18	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、ややしまる	古墳時代土器片３点	
9	B－10	半円	25	15	15	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、ややしまる		５号土坑を切る 調査区東壁に切られる
10	B－11	円	36	32	24	1.暗褐色粘質土 ややしまる 2.黒色粘質土 赤黄色土少量部分的に含む、しまる	かわらけ口縁部２点	攪乱に切られる
11	B－10	円	30	26	16	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、部分的に黄色土少量、ややしまる		
12	B－９	円	34	30	15	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、ややゆるい	内耳鍋１点	
13	B－９	円	45	45	22	1.暗褐色粘質土 焼土微量、黄色土微量、しまる		
14	B－８	円	40	39	32	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、黄色土微粒子微量、ややしまる 2.黒褐色粘質土		
15	B－８	円	20	15	13	1.黒色粘質土 黄色土少量、しまる		
16	B－８	円	30	25	14	1.暗黒褐色粘質土 焼土微量、黄色土微量、しまる		
17	C－11	楕円	25	20	13	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、しまる		
18	B－11	円	20	20	25	1.黒褐色粘質土 黄色土粒子多く含む、粒子密、しまる		
19	C－11	円	35	35	15	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土粒子少量、しまる		
20	C－11	円	30	30	38	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、黄色土ブロック１点、粒子細かくややしまる 2.暗褐色粘質土 １層より濃い色、炭化物・焼土微量、やや粒子粗くしまる		
21	B－21	円	22	20	10	エレベーション		
22	B－21	円	26	24	20	エレベーション		
23	B－21	円	26	25	26	エレベーション		
24	B－21	円	30	22	15	エレベーション		ピット25との切合い関係不明
25	B－21	円	30	30	10	エレベーション		ピット24との切合い関係不明
26	B－21	円	40	36	13	エレベーション		
27	B－21	楕円	42	32	33			
28	B－14	円	20	20	19	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、しまる		
29	B－18	円	25	22	20	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、粒子密、しまる		
30	B－18	円	18	18	13	1.黒色粘質土 焼土微量、しまる		
31	B－18	円	30	26	21	1.褐色土 ややゆるい 炭化物・ブドウの根など混入（近代）		７号土坑を切る
32	B－17	円	34	30	12			
33	B－２	円	18	18	13	1.暗褐色粘質土 焼土微量、粒子やや粗くややゆるい		
34	B－２	円	20	18	20	1.暗褐色粘質土 炭化物微量、ややしまる		
35	B－２	円	23	20	19	1.暗褐色粘質土 径８cm石１点、粒子密しまる		
36	B－３	円	20	20	15	1.褐色粘質土 ややしまる 2.暗褐色粘質土 焼土少量、黄色土粒子少量、しまる	古墳時代土器１点	
37	B－３	円	20	18	26	1.黒褐色粘質土 粒子粗くゆるい	木片１点	
38	B－３	楕円	40	33	24	1.暗褐色粘質土 焼土微量、粒子粗い ややゆるい 2.褐色粘質土 黄色土微量、粒子やや粗いがしまる		
39	B－３	楕円	50	37	7	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量、粒子密しまる	坏　底部	
40	B－４	楕円	30	23	24	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、粒子細いがややゆるい 2.黒褐色粘質土 黄色土少量、ややゆるい		26号溝を切る
41	B－15	円	24	24	20	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土やや多い、しまる	古墳時代土器１点	
42	B－15	円	26	26	19	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土粒子やや多くしまる		
43	B－15	円	17	17	12	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土少量、粒子密、しまる	古墳時代土器２点	
44	B－15	円	16	15	18	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、粒子密、しまる	古墳時代土器１点	
45	B－14	楕円	28	20	13	1.黒褐色粘質土 黄色土粒子やや多く粒子密、しまる		

ピット観察一覧

番号	位置	形状	長径	短径	深さ	土　層　観　察	出土遺物	切合い関係・備考
46	B－14	円	22	22	25	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、粒子やや細かくややしまる		
47	C－14	円	18	18	12	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量、ややしまる		
48	B－13	円	40	38	16	1.黒色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土粒子多く密、しまる		
49	A－18	楕円	33	24	10	エレベーション		10号溝を切る
50	C－9	円	20	18	11	1.黒褐色粘質土 焼土微量、しまる		
51	B－9	円	26	24	15	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土粒子微量、しまる	土器1点	攪乱に切られる
52	B－6	円	44	41	21	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土粒子やや多くしまる 2.黒褐色粘質土 粒子やや粗くややゆるい	かわらけ	
53	B－6	円	35	33	20	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、ややゆるい		22号溝を切る
54	B－5	楕円	48	36	19	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、黄色土粒子少量、粒子やや粗くややゆるい	土器	
55	B－5	円	20	20	10	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、粒子粗くゆるい	古墳時代土器2点	
56	B－5	円	38	34	17	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、粒子やや粗くゆるい		
57	B－5	円	30	30	30	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、粒子やや粗くややしまる	かわらけ3点	ピット58に切られる
58	B－5	楕円	40	30	17	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、粒子やや粗くややしまる	土器1点	ピット57を切る
59	B－4	円	34	30	20	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、粒子細かくややしまる		
60	B－5	楕円	20	15	4	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、粒子やや粗くややしまる		
61	B－5	円	20	17	17	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土粒子少量、粒子細かいがややゆるい		
62	B－5	円	23	22	16	1.褐色土 炭化物・焼土微量、ややゆるい		
63	B－5	円	33	30	18	1.暗褐色粘質土 粒子粗くゆるい	土器片	25号溝を切る　中世
64	B－5	楕円	25	23	27	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土粒子微量、粒子密、しまる	かわらけ3点	26号溝を切る　中世
65	B－4	円	25	23	27	1.褐色土 炭化物微量、ややゆるい		25号溝を切る　中世
66	A－18	円	15	13	15.3	エレベーション		
67	C－8	円	13	20	14	エレベーション		
68	C－8	円	40	35	41	エレベーション		
69	C－9	円	42	35	24	エレベーション	土師器1点	
70	B－8	楕円	45	30	22	エレベーション		暗渠に切られる
71	B－8	半楕円	90	40	20	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量、ブロック状に割れる、ややしまる	古墳時代土器2点	暗渠に切られる
72	B－8	円	30	25	36	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量、しまる 2.黒色粘質土 ややゆるい 3.黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土粒子少量、しまる 4.黄黒褐色粘質土 黄色土粒子多くややゆるい		
73	B－8	円	20	20	12	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土微粒子微量、しまる		
74	B－7	楕円	35	20	11	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土微粒子微量、しまり強 2.黒色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土粒子やや多くややゆるい		
75	B－7	円	26	25	25	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土少量、黄色土少量、ややゆるい 2.黒褐色粘質土 1層と類似するがしまる		
76	B－8	円	21	21	11	1.黒褐色粘質土 黄色土粒子やや多くしまる		
77	B－7	円	30	27	19	1.暗褐色粘質土 焼土微量、黄色土微粒子微量、しまる		ピット204に切られる
78	B－7	円	27	25	2	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土粒子少量、粒子粗いがしまる		ピット79との切合い関係不明
79	B－7	円	30	26	21	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土粒子少量、粒子粗いがしまる		ピット80を切る ピット78との切合い関係不明
80	B－7	円	21	20	11	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土粒子少量、粒子粗いがしまる 2.暗褐色粘質土 粒子密、ややゆるい		ピット79に切られる
81	C－7	長楕円	67	25	25	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、粒子やや密、しまる 2.黒褐色粘質土 粒子やや粗くゆるい	土器1点	ピット82との切合い関係不明 ピット81との切合い関係不明 ピット218とpit219を切る
82	C－7			25	24			
83	B－7	円	32	26	14	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土粒子少量、しまる		
84	C－7	楕円	49	37	33	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土粒子少量、しまる		ピット85に切られる
85	C－7	円	15	15	15	1.暗褐色粘質土 焼土微量、やや粒子粗くややゆるい		ピット84を切る
86	C－11	円	25	25	24	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土微量、ややしまる		
87	C－11	円	30	23	18	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、ややしまる		
88	C－9	円	25	23	14	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土微粒子微量、しまる		
89	C－10	円	18	15	6	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土微粒子少量、しまる		
90	C－10	円	22	20	7	1.黒褐色粘質土 炭化物微量、黄色土粒子多くしまる		
91	C－10	円	20	20	9	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土少量、ややしまる		

ピット観察一覧

番号	位置	形状	長径	短径	深さ	土　層　観　察	出土遺物	切合い関係・備考
92	B－10	円	18	14	18	エレベーション		
93	C－10	円	24	24	23	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、しまり強 2.黒褐色粘質土 ややゆるい	土鍋破片１点	中世
94	C－10	円	16	15	18	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土少量、やや密、しまる		
95	B－10	円	30	30	31	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、ややしまる 2.黒褐色粘質土 ややゆるい		
96	B－10	円	27	25	9	1.黄黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土やや多くしまり密(黒色土下層)		
97	C－7	円	25	25	24	1.暗褐色土 炭化物微量、粒子非常に粗くゆるい		
98	B－7	円	21	20	18	1.褐色土 炭化物・焼土微量　ややゆるい	五弁葉紋染付磁器	近世
99	B－6	円	45	40	30	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、黄色土粒子微量、しまる 2.暗黄黒褐色粘質土 黄色土粒子多くしまる		
100	B－6	円	20	15	7	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土微粒子微量、ややゆるい		ピット105との切合い関係不明
101	B－6	円	30	25	18	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土粒子少量、ややしまる		
102	C－6	円	32	30	23	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土、焼土塊多く含む、しまる	土器小片２～３点	
103	B－6	円	40	35	87	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土粒子やや多く粒子やや粗いがしまる		
104	B－6	円	20	18	14	1.暗褐色粘質土 焼土少量、黄色土粒子やや多くしまる		
105	B－6	円	30	25	16	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土微粒子微量、ややゆるい		
106	C－6	円	24	23	25	1.褐色土 粒子粗くゆるい		
107	C－6	円	35	30	28	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土・焼土塊やや多くしまる 2.黒褐色粘質土 炭化物・焼土少量、ややゆるい 3.黒褐色粘質土 焼土少量、黄色土粒子少量、ややしまる	古墳時代土器１点	
108	B－6	円	28	27	10	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土微粒子、しまる		
109	C－7	円	30	25	28	1.褐色土 炭化物微量、ややゆるい		
110	B－7	楕円	65	25	26	1.黒褐色粘質土 炭化物微量、黄色土微粒子少量、しまる	古墳時代土器１点	
111	C－7	楕円	80	37	28	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、粒子やや粗いがしまる	古墳時代土器２点	ピット210に切られる
112	C－7	円	35	30	20	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土少量、黄色土粒子少量、しまる	古墳時代土器３点、焼土塊	
113	B－7	円	30	24	11	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土粒子微量、しまる	内耳口縁？中世	
114	B－7	円	43	37	35	1.黒褐色粘質土 粒子密だがややゆるい 2.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土やや多く含む、ややしまる 3.黒色粘質土 ややゆるい	かわらけ	
115	B－7	円	42	34	29	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、粒子密しまる 2.黒色粘質土 粒子やや粗くややゆるい	古墳時代土器５点 かわらけ口縁部	
116	B－7		40	36	28	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量、粒子密しまる、上面に割り石１点		
117	C－9	半円	20	20	8	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、ややしまる		
118	C－9	半楕円	25	15	13	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、ややしまる		
119	B－6	円	40	28	20	1.褐色土 焼土微量、粒子細かくゆるい		
120	B－6	円	30	29	13	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土少量、黄色土微粒子微量、ややしまる		
121	B－6	円	40	30	28	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土少量、粒子やや粗くややしまる	古墳時代土器１点	
122	B－6	円	40	30	28	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、黄色土微粒子少量、粒子やや粗くややしまる	かわらけ１点、土器２点	
123	B－6	円	33	32	23	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、黄色土微粒子少量、粒子やや粗くややしまる		
124	B－6	円	32	27	24	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、黄色土粒子少量、粒子やや粗くややしまる		
125	B－6	円	30	26	30	1.暗褐色粘質土 焼土微量、粒子密、ややゆるい	土器１点	
126	B－6	円	36	30	13	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土微粒子少量、しまる 2.黒色粘質土 焼土微量、ややしまる		
127	B－6	楕円	38	28	13	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、黄色土粒子少量、ややしまる	かわらけ・土器	
128	B－6	円	33	31	15	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土ブロック少量、ややゆるい		
129	B－6	円	30	30	25	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土微粒子多くしまる 2.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、ややゆるい		
130	B－6	円	25	23	15	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、黄色土微粒子微量、しまる		
131	B－6	円	30	28	35	1.黒色粘質土 焼土微量、ややゆるい		
132	B－6	楕円	55	40	15	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土少量、黄色土微粒子少量、しまる		
133	B－6	楕円	40	28	30	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土少量、黄色土微粒子少量、しまる 2.暗褐色粘質土 焼土微量、ややゆるい	古墳時代壺片１点	
134	B－5	円	40	35	29	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量、粒子やや粗くややしまる		

ピット観察一覧

番号	位置	形状	長径	短径	深さ	土　層　観　察	出土遺物	切合い関係・備考
135	C－6	半円	50	30	22	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土粒子少量、しまる		
136	B－6	楕円	75	40	33	1.黒褐色粘質土 炭化物少量、黄赤褐色土粒子やや多い、粒子やや粗くしまる	かわらけ3点	
137	B－6	円	20	18	15	エレベーション		
138	B－6	楕円	60	42	26.5			
139	B－7	円	37	34	18	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、ゆるい		
140	B－7	楕円	47	34	23	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土微粒子微量、しまる	古墳時代土器2点	
141	B－6	円	22	19	24	1.黒褐色粘質土 焼土微量、ややゆるい		
142	B－5	円	24	23	8	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土少量、黄色土粒子少量、しまる		
143	C－6	円	28	26	19	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、黄色土粒子微量、しまる	古墳時代土器2点	
144	C－5	円	20	20	20	1.褐色土 粒子粗くゆるい		
145	B－6	楕円	45	32	23	エレベーション		
146	B－5	楕円	48	32	23	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土微粒子少量、粒子やや細かくしまる 2.黒褐色粘質土 黄色土粒子少量、粒子やや粗くややゆるい	土器	
147	B－3	円	25	23	11	1.黒色粘質土 炭化物・焼土微量、粒子細かく密、しまる		
148	B－5	円	25	23	24	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、黄色土微粒子微量、ややしまる		
149	B－5	円	21	20	17	1.暗褐色粘質土 焼土微量、黄色土粒子少量、しまる		
150	B－5	円	20	20	43	1.黒褐色粘質土 焼土少量、黄色土粒子少量、しまる		
151	C－4	円	27	24	24	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、ややゆるい		26号溝を切る
152	B－4	円	28	27	20	1.褐色粘質土 炭化物微量、粒子粗くゆるい	坏1点	24号溝を切る
153	B－3	円	28	25	15	1.暗褐色粘質土 粒子粗くゆるい	土器1点	
154	A－3	円	40	35	12	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土粒子少量、しまる		
155	C－3	円	45	40	14	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、粒子密、しまる	古墳時代土器1点	
156	B－5	半円	37	25	22	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量、しまる 2.黒色粘質土 ややしまる 3.黄黒褐色粘質土 黄色土粒子多く、しまる	古墳時代土器1点	26号溝を切る
157	C－5	円	43	37	38	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土微粒子微量、しまる 2.黒褐色粘質土 焼土微量、ややゆるい 3.灰黄褐色粘質土 黄色土多い、地山？		ピット158 ピット157
158	B－5	楕円	40	26	23			
159	C－5	円	30	30	26	1.褐色土 焼土微量、ややしまる 2.暗褐色土 焼土微量、黄色土粒子微量、ややしまる 3.暗褐色粘質土 炭化物少量、黄色土粒子微量、ややゆるい		
160	C－5	円	27	25	30	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土粒子微量、ややしまる 2.黒褐色粘質土 ややゆるい 3.暗褐色粘質土 炭化物微量、黄色土微粒子少量、粒子密、しまる 4.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土微粒子微量、しまる 5.黄褐色粘質土 地山		
161	C－4	円	30	25	32	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、ややしまる	天目茶碗底部、土器4点	23号溝を切る
162	B－3	円	20	20	14	エレベーション		24号溝を切る
163	B－6	楕円	42	30	42	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土少量、黄色土粒子やや多くしまる 2.暗褐色粘質土 炭化物・焼土粒子微量、黄色微粒子少量、ややしまる	内耳土器1点、 瀬戸美濃系陶器	中世
164	B－4	円	26	22	24	エレベーション		
165	B－4	円	30	25	8	エレベーション		26号溝を切る
166	B－6	円	30	27	25	エレベーション	陶器（瀬戸）口縁部	ピット168との切合い関係不明
167	C－5	円	20	15	19	エレベーション		
168	B－6	不定円	30	30	25	エレベーション		ピット166との切合い関係不明
169	B－5	円	30	30	30	エレベーション		
170	B－6	円	15		13	エレベーション		
171	B－5	円	31	30	22	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土少量、黄褐色土粒子少量、ややしまる		21号溝に切られる
172	B－5	円	31	29	14	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、黄褐色土粒子少量、しまる		21号溝に切られる
173	B－5	円	20	15	11	1.黒褐色粘質土 炭化物少量、粒子やや粗くゆるい		ピット176との切合い関係不明 21号溝に切られる
174	B－5	円	26	24	17	1.黒褐色粘質土 炭化物微量、粒子やや粗くややしまる		21号溝に切られる
175	B－6	円	15	14	11	エレベーション		
176	B－5	円	22	20	20	1.黒褐色粘質土 炭化物少量、粒子やや粗くゆるい		ピット173との切合い関係不明 21号溝に切られる

ピット観察一覧

番号	位置	形状	長径	短径	深さ	土　層　観　察	出土遺物	切合い関係・備考
177	B－5	楕円	50	30	37	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土微粒子少量、しまる 2.黒褐色粘質土 焼土微量、黄色土粒子少量、粒子やや粗くややしまる 3.黄暗褐色粘質土 黄色土粒子やや多く、ややゆるい	縄文土器２点	25号溝を切る
178	C－5	半円	35	15	30	6.黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量、粒子やや粗くゆるい		
179	B－7	円	25	24	28	エレベーション		
180	B－7	円	39	31	68	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、粒子細かくしまる		
181	B－6	円	28	25	14	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、粒子やや細かくしまる		
182	B－6	円	23	22	27	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、粒子やや細かくしまる		
183	B－6	円	24	20	15	1.暗褐色粘質土 炭化物少量、黄色土粒子少量、しまる		
184	B－6	円	26	23	11	1.黒褐色粘質土 黄色土粒子、ややしまる		
185	B－6	円	20	20	25	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、しまる		
186	B－6	円	28	28	31	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土粒子微量、ややしまる		ピット145を切る
187	B－6	半円	25	21	24	1.黒褐色粘質土 炭化物微量、黄赤褐色土粒子少量、しまる 2.黒褐色粘質土 黄赤褐色土粒子少量、ゆるい	土器１点	ピット188に切られる ピット114を切る
188	B－6	半円	31	31	34	1.黒褐色粘質土 炭化物微量、黄赤褐色土粒子少量、しまる		ピット114とピット187を切る
189	B－6	円	23	23	15	1.黒褐色粘質土 炭化物微量、黄赤褐色土粒子やや多くややしまる		
190	B－7	円	29	27	16	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土少量、黄色土粒子やや多くややしまる		ピット110を切る
191	B－6	円	30	30	21	エレベーション		ピット192との切合い関係不明
192	B－6	円	30	30	17	エレベーション		ピット191との切合い関係不明
193	C－6	円	34	30	25	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土微粒子微量、しまる 2.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、ややゆるい 3.暗黄赤褐色粘質土 炭化物微量、黄赤褐色土粒子多い、しまる		
194	B－5	楕円	42	30	30	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土微粒子微量、しまる 2.暗褐色粘質土 焼土微量、ややゆるい 3.暗黒褐色粘質土 黄色土粒子少量、ややしまる	かわらけ口縁１点・ 土器１点	
195	C－6	楕円	40	36	35	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量、赤褐色土ブロック少量、しまる 2.黒褐色粘質土 粒子やや粗くゆるい 3.地山	自然石２点	
196	B－6	楕円	20	18	9	1.黒褐色粘質土 焼土微量、赤褐色土少量、しまる 2.黄色土粒子少量、粒子やや粗くゆるい		
197	B－6	楕円	29	25	11	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄赤褐色土微粒子やや多くしまる		
198	C－6	楕円	26	26	13	1.暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土微粒子少量、しまる		
199	B－6	楕円	25	24	19	1.黒褐色粘質土 焼土微量、黄色土微粒子少量、しまる		
200	B－6	楕円	50	30	30	1.暗褐色粘質土 炭化物微量、黄褐色土粒子微量、しまる 2.黒褐色粘質土 炭化物微量、黄褐色土粒子少量、しまる 3.黒褐色粘質土 ややゆるい	砥石１点	
201	C－6	円	27	20	23	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土微粒子微量、ややしまる 2.黒褐色粘質土 黄色土粒子やや多い、粒子粗くややゆるい		ピット220に切られる
202	C－6	円	21	17	13	エレベーション		ピット220との切合い関係不明
203	C－6	円	25	20	13	1.黒褐色粘質土 ややしまる		ピット135を切る
204	B－7	円	33	30	10	1.黒褐色粘質土 焼土微量、黄色土微粒子微量、ややしまる		ピット77を切る
205	B－7	円	20	18	10	1.黒褐色粘質土 焼土微量、ややゆるい		
206	B－7	円	24	20	7	1.黒褐色粘質土 焼土微量、ややゆるい		
207	A－19	半円						10号溝を切る
208	B－5	楕円	33	23	12	1.黒褐色粘質土 焼土微量、黄色土微粒子微量、ややしまる		22号溝を切る
209	B－7	円	25	25	20	1.黒褐色粘質土 焼土少量、黄褐色土微粒子少量、粒子やや粗くややゆるい		
210	C－7	円	35	26	10	1.黒褐色粘質土 焼土微量、ややしまる	砥石	ピット111を切る
211	B－7	円	32	32	20	1.黒褐色粘質土 焼土微量、赤褐色土少量、粒子やや粗くややしまる		
212	B－6	楕円	40	23	24	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土少量、黄赤褐色土粒子少量、ややゆるい		
213	C－6	円	30	26	25	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土少量、黄赤褐色土粒子少量、ややしまる		21号溝に切られる
214	B－6	円	11	9	15	1.黒褐色粘質土 焼土微量、ややしまる		
215	B－6	円	30	26	15	1.黒色粘質土 炭化物・焼土微量、黄色土粒子少量、ややしまる		
216	B－5	円	32	30	18	1.黒褐色粘質土 炭化物・焼土少量、赤褐色土粒子少量、しまる 2.黒褐色粘質土 炭化物、焼土やや多い、粒子やや粗くややゆるい 3.暗褐色粘質土 焼土微量、しまる	土器２点	

ピット観察一覧

番号	位置	形状	長径	短径	深さ	土　層　観　察	出土遺物	切合い関係・備考
217	B－6	楕円	33	26	17	エレベーション		
218	C－7	円	35	30	33	エレベーション	かわらけ	ピット219との切合い関係不明 ピット81とピット82に切られる
219	C－7	円	40	32	45	エレベーション	砥石	ピット218との切合い関係不明 ピット81とピット82に切られる
220	C－6	円	40	34	8	エレベーション	茶臼	ピット201を切る ピット202との切合い関係不明
221	B－6	円	20	20	40	エレベーション		
222	C－7	円	35	27	23	エレベーション		ピット231を切る
223	C－5	円	15	15				
224	C－6	円	20	18	14			
225	B－6	不定形	42	15	6			
226	B－6	不定形	21	10	6			
227	C－7	不定形	28	28	16			
228	C－7	円	20	19	12			8号土坑を切る
229	C－7	円？	27	25	24			
230	C－7	半円？	46	35	18			
231	C－7	円？	56	40	23			ピット222に切られる
232	C－6	円？	24	14	8			
233	B－7	円	24	22	28			
234	B－7	円	20	16	13			
235	B－7	円	25	24	28			
236	B－7	円	26	23	16			
237	A－7	円	23	20	12			
238	B－10	円？	53	44	29			調査区東壁に切られる
239	D－8	円	28	24	9			
240	D－8	楕円	32	26	27			
241	D－9	円	28	26	13			
242	D－9	円	20	16	3			
243	D－9	円	20	18	9			
244	D－10	楕円	35	24	11			
245	D－10	円	16	14	7			
246	D－14	円	22	20	9			
247	D－14	円	24	19	8			
248	D－14	円	32	24	20			
249	D－15	円	25	24	9			
250	D－15	円	24	22	12			
251	D－15	半楕円	52	34	14			攪乱に切られる
252	D－15	半円	44	26	7			調査区西壁に切られる
253	D－19	半楕円	30	26	25			調査区東壁に切られる
254	D－20	円	20	20	16			2号溝を切る
255	D－12	半円	30	22	22			
256	B－6	円	11	10	10			ピット121との切合い関係不明
257	D－12	円	6	6	10			

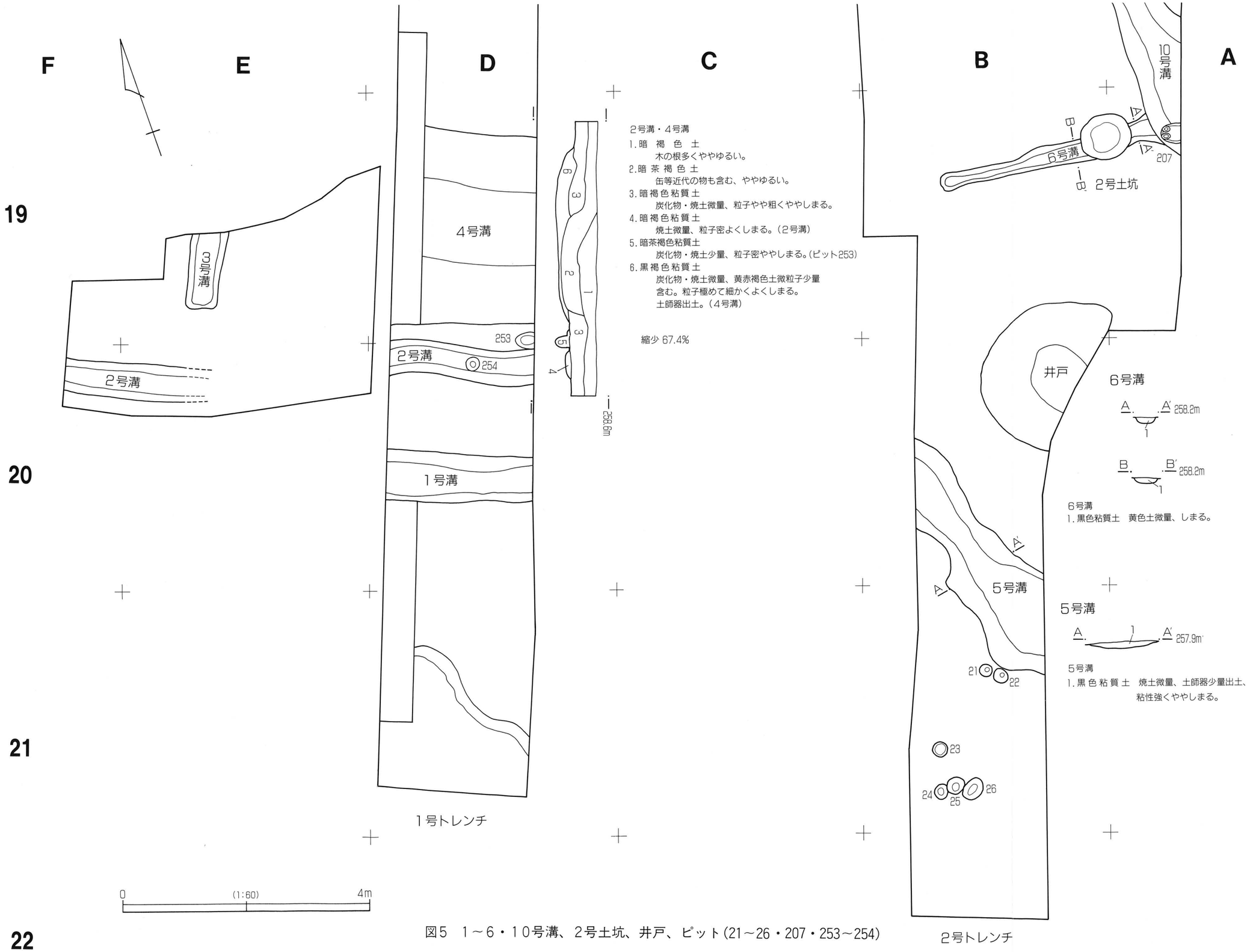


図5 1～6・10号溝、2号土坑、井戸、ピット(21～26・207・253～254)

西　壁（7、8、9号溝）
1.黒　褐　色　土　瓦等近代の遺物少量、ゆるい。（7号溝）
2.黒色赤褐色瓦　瓦多く暗渠層（7号溝）
3.黒　褐　色　土　木の根多くゆるい、近代の溝（8号溝）
4.暗　褐　色　土　表土
5.暗茶褐色粘質土　炭化物・焼土少量、粒子細かくややしまる。
6.暗褐色粘質土　炭化物・焼土微量、粒子細かくしまる。（9号溝）
7.黒　色　粘　質　土　土はブロック状でややゆるい。（9号溝）

西　壁（13号溝）
1.暗茶褐色粘質土　炭化物・焼土少量、粒子細かくややしまる。
2.黒褐色粘質土　炭化物・焼土微量、粒子細かくしまる。（古墳時代の遺物検出）

西　壁（14、15、16、17号溝）
1.盛　　土
2.暗　褐　色　土
3.近　代　攪　乱
4.暗茶褐色粘質土　炭化物微量、ゆるい。（16号溝）
5.暗黒褐色腐食土　ブドウ等植物繊維腐食土、ゆるい。（16号溝）
6.暗茶褐色粘質土　炭化物・焼土少量、粒子細かくややしまる。
7.暗茶褐色粘質土　黒色土微量、粒子やや粗くしまりゆるい。（17号溝）
8.暗褐色粘質土　炭化物微量、土器片含む、若干粘性あり、しまる。
9.暗茶褐色粘質土　炭化物・焼土微量、黄赤褐色土微粒子やや多し、粒子細かくしまる。（中世の溝）

9号溝
1.暗　褐　色　土　炭化物・焼土粒子微量、粒子細かくややしまる。
2.暗褐色粘質土　炭化物・焼土微量、黄色土粒子微量、粒子細かくしまる。

13号溝
1.黒　色　粘　質　土　粘性強くしまる。
2.暗褐色粘質土　黄色土粒子少量含む、粒子細かくしまる。
3.暗褐色粘質土　黄色土粒子少量、粒子やや粗い、ややしまる。（杭痕？）

10号溝
1.暗褐色粘質土　炭化物・焼土微量、粒子細かく均一、ややしまる。

11号溝
1.暗褐色粘質土
焼土微粒子微量、黄色土微粒子微量、ややしまりはゆるい。

10号溝北壁

北　壁（10号溝）
1.暗　褐　色　土　近代・近世の耕作土。
2.暗褐色粘質土　炭化物・焼土微量、黄色土微粒子微量、ややしまる。（10号溝）
3.黒褐色粘質土　黄色土粒子少量含む、ややしまる。（古墳時代の覆土）
4.黒　色　粘　質　土　（ピット1）

図6　6～20号溝、1～3・7・10号土坑、埋甕1・2、ピット（1～2・10・27～32・41～49・66・207・246～252・255）

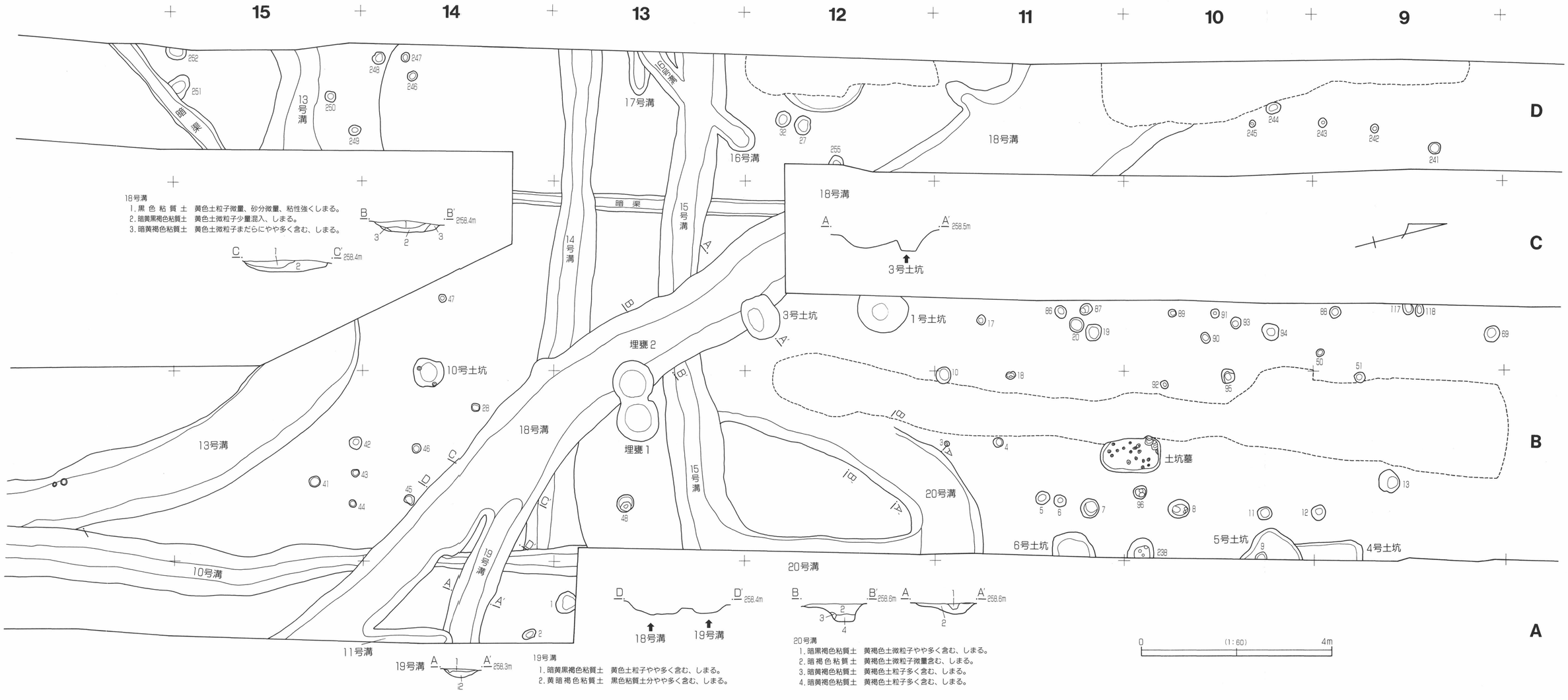
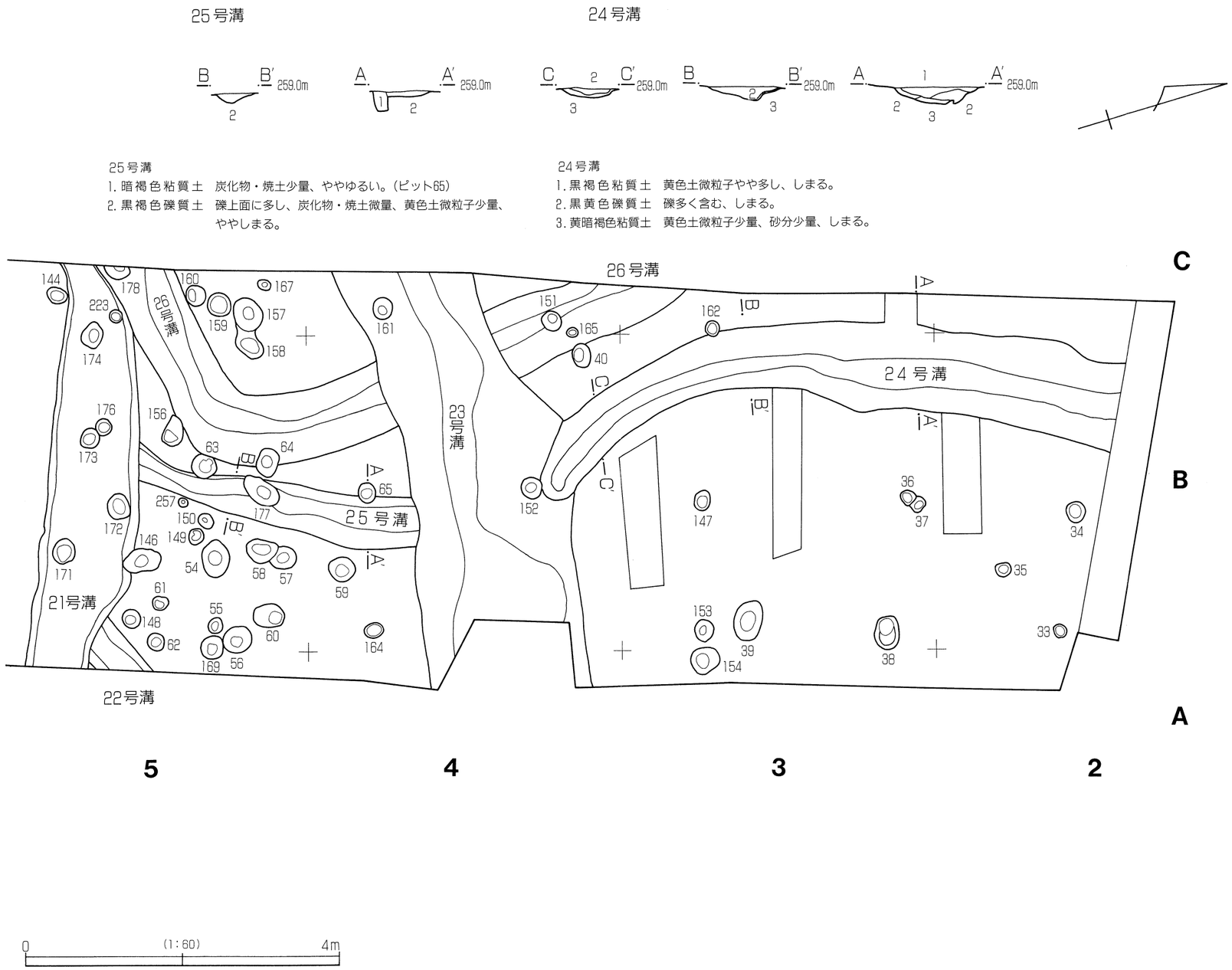


図7　10・11・13～20号溝、1・3～6・10号土坑、土坑墓、ピット(1～13・17～20・27～28・32・41～48・50～51・69・86～96・117～118・238・241～252・255)



25号溝
1. 暗褐色粘質土　炭化物・焼土少量、ややゆるい。(ピット65)
2. 黒褐色礫質土　礫上面に多し、炭化物・焼土微量、黄色土微粒子少量、ややしまる。

24号溝
1. 黒褐色粘質土　黄色土微粒子やや多し、しまる。
2. 黒黄色礫質土　礫多く含む、しまる。
3. 黄暗褐色粘質土　黄色土微粒子少量、砂分少量、しまる。

図8　A～C－2～5グリッド上面遺構、21～26号溝、ピット(33~40・54~65・144・146~154・156~162・164~165・167~169・171~174・176~178・223)

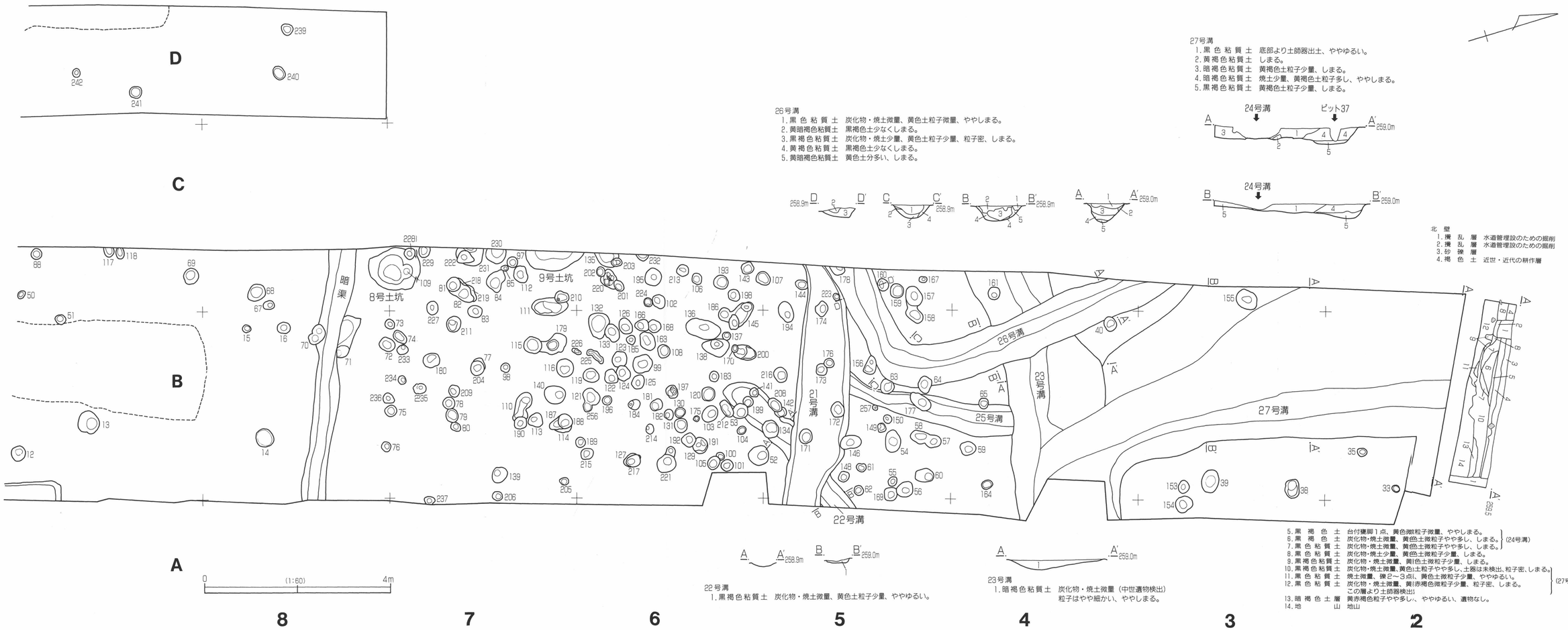


図9　21～23・25～27号溝、8・9号土坑、ピット(14～16・33～35・38～40・52～65・67～85・97～116・119～127
19～127・129～146・148～150・153～161・163～164・166～206・208～217・219～237・239～240・256～257)

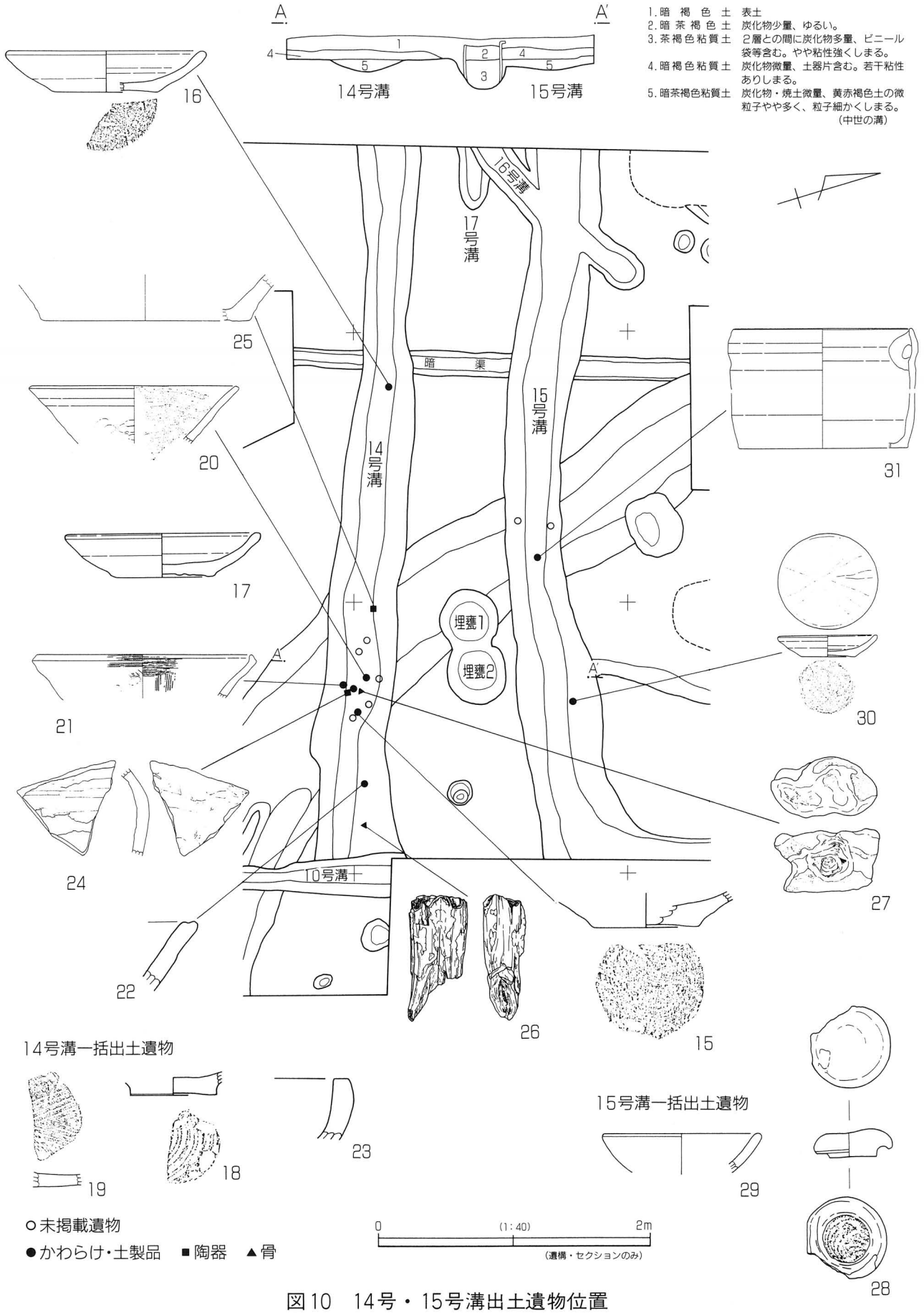
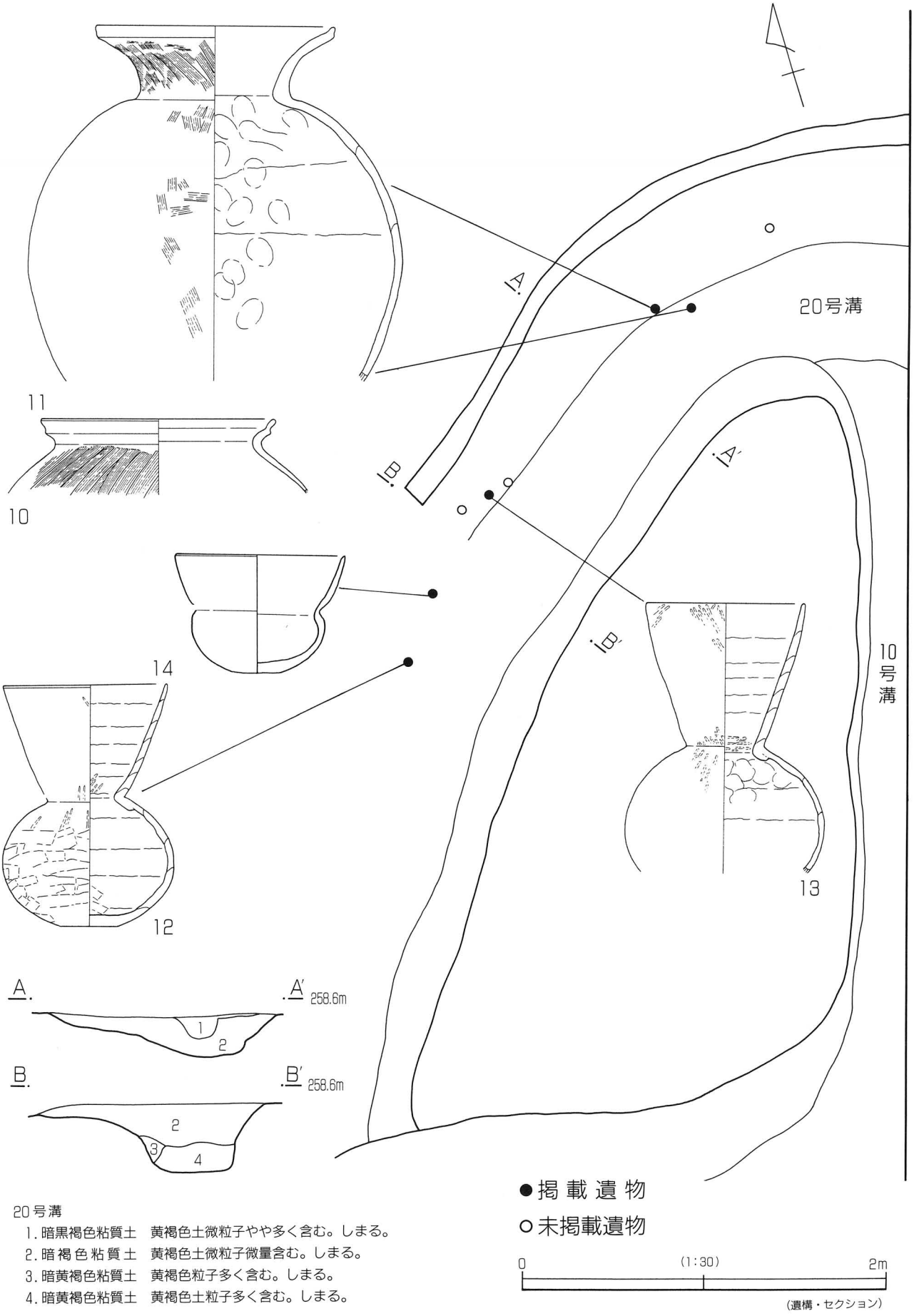
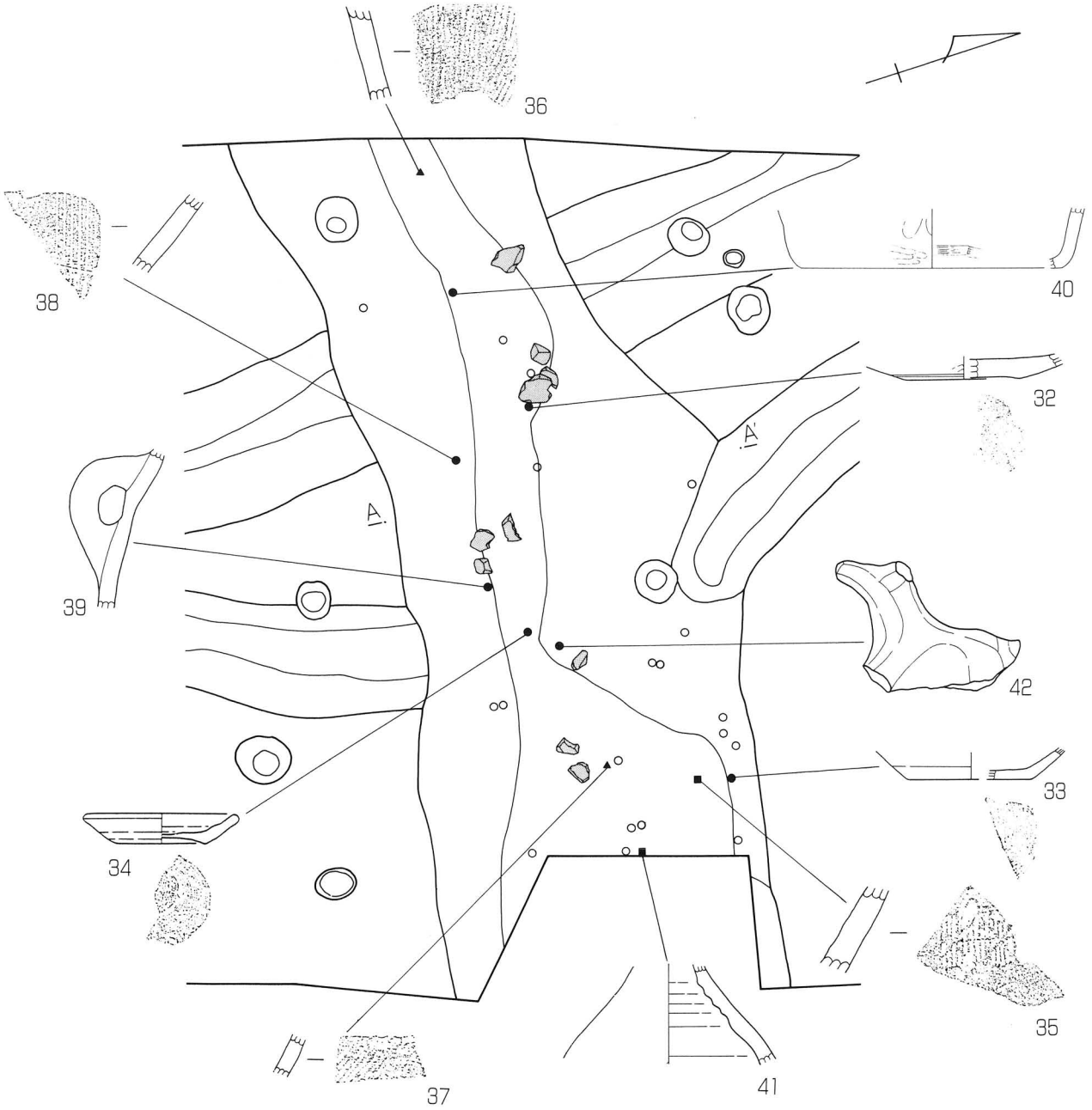


図10 14号・15号溝出土遺物位置



20号溝
1. 暗黒褐色粘質土　黄褐色土微粒子やや多く含む。しまる。
2. 暗褐色粘質土　黄褐色土微粒子微量含む。しまる。
3. 暗黄褐色粘質土　黄褐色粒子多く含む。しまる。
4. 暗黄褐色粘質土　黄褐色土粒子多く含む。しまる。

図11　20号溝出土遺物位置及びセクション



1. 暗褐色粘質土
炭化物・焼土微量、粒子はやや細かい、ややしまる。

●かわらけ・土製品
■陶器
▲須恵器
○未掲載遺物

0 (1:40) 2m
(遺構・セクションのみ)

図12　23号溝出土遺物位置及びセクション

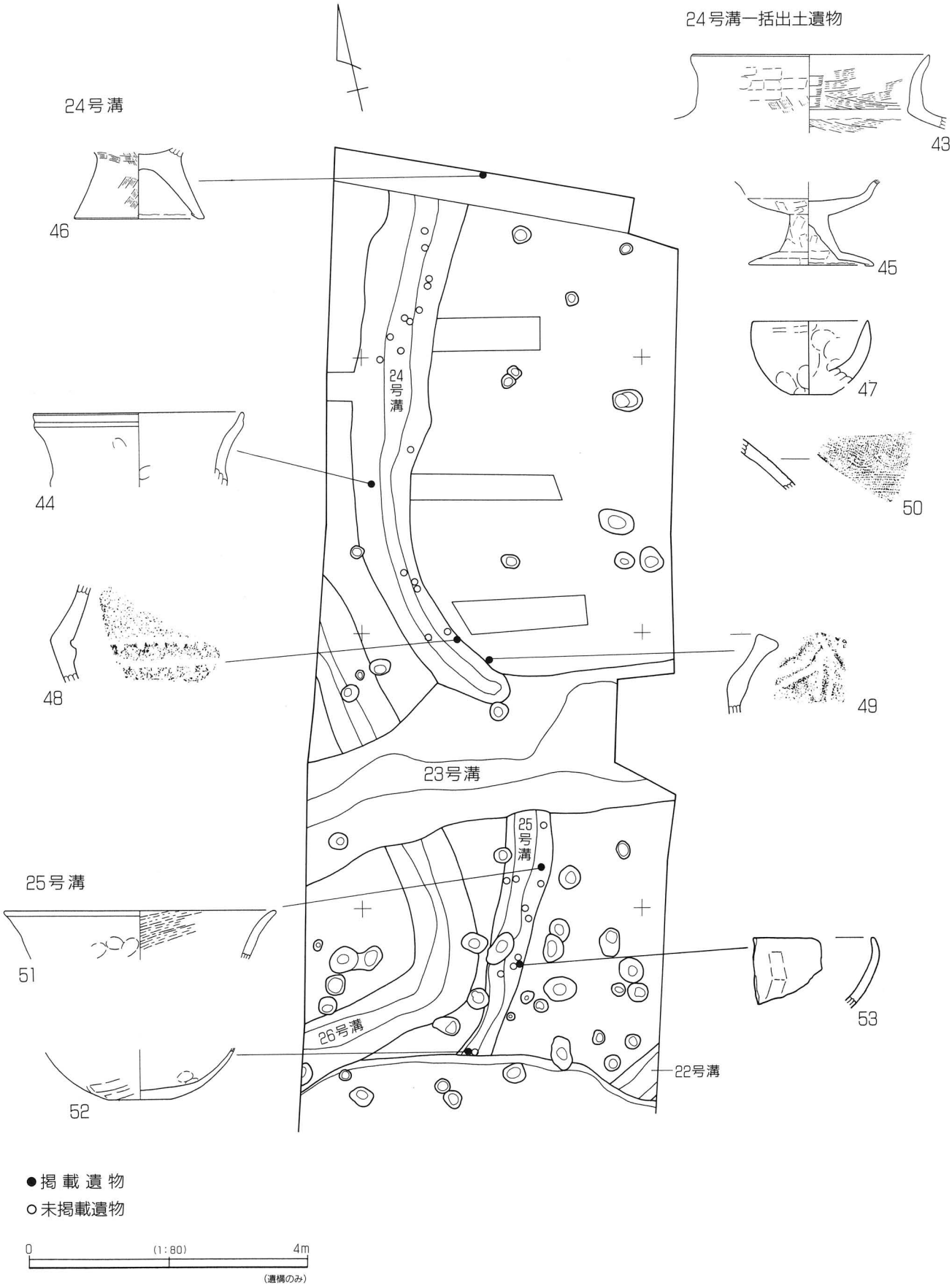


図13　24号・25号溝出土遺物位置

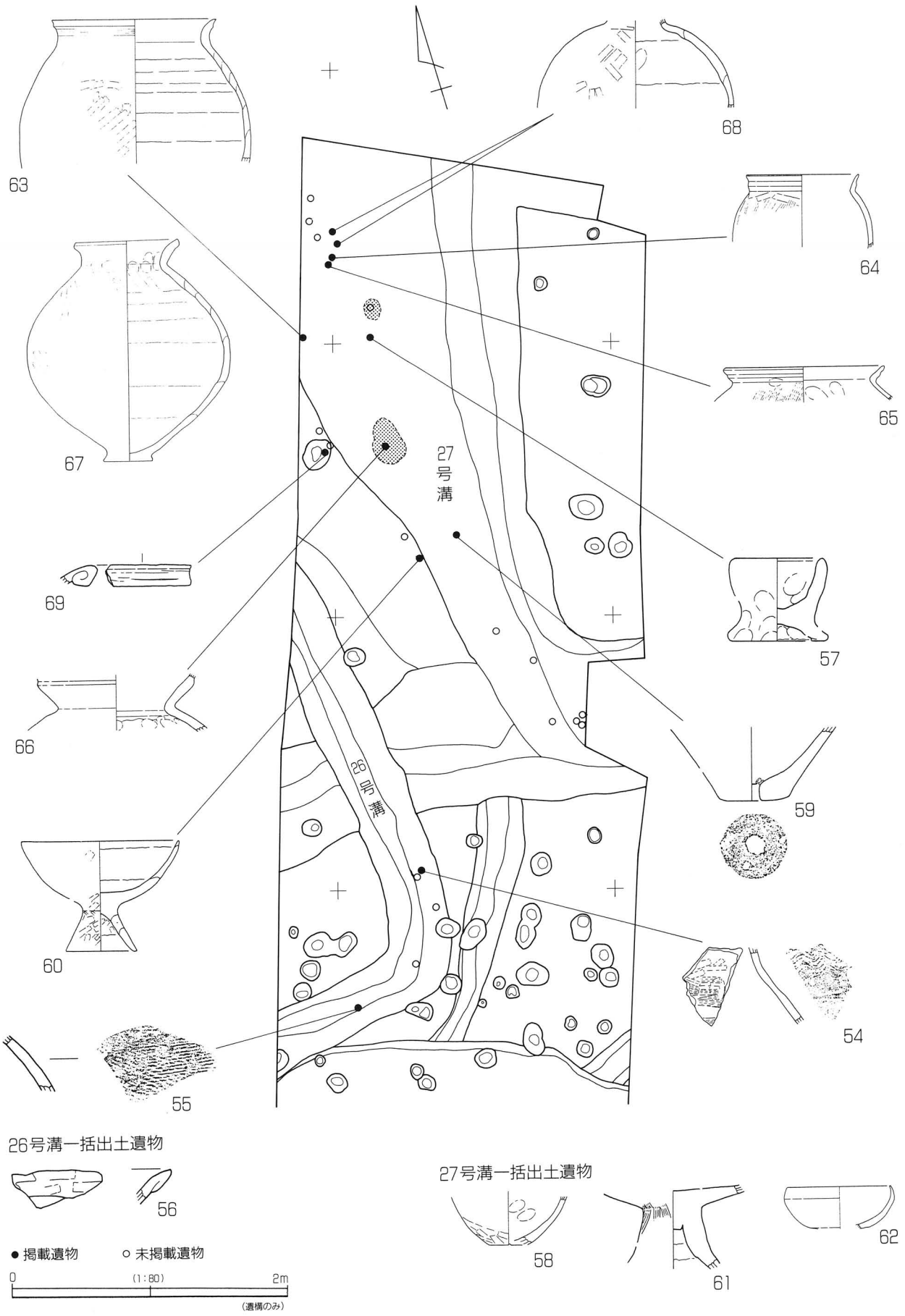
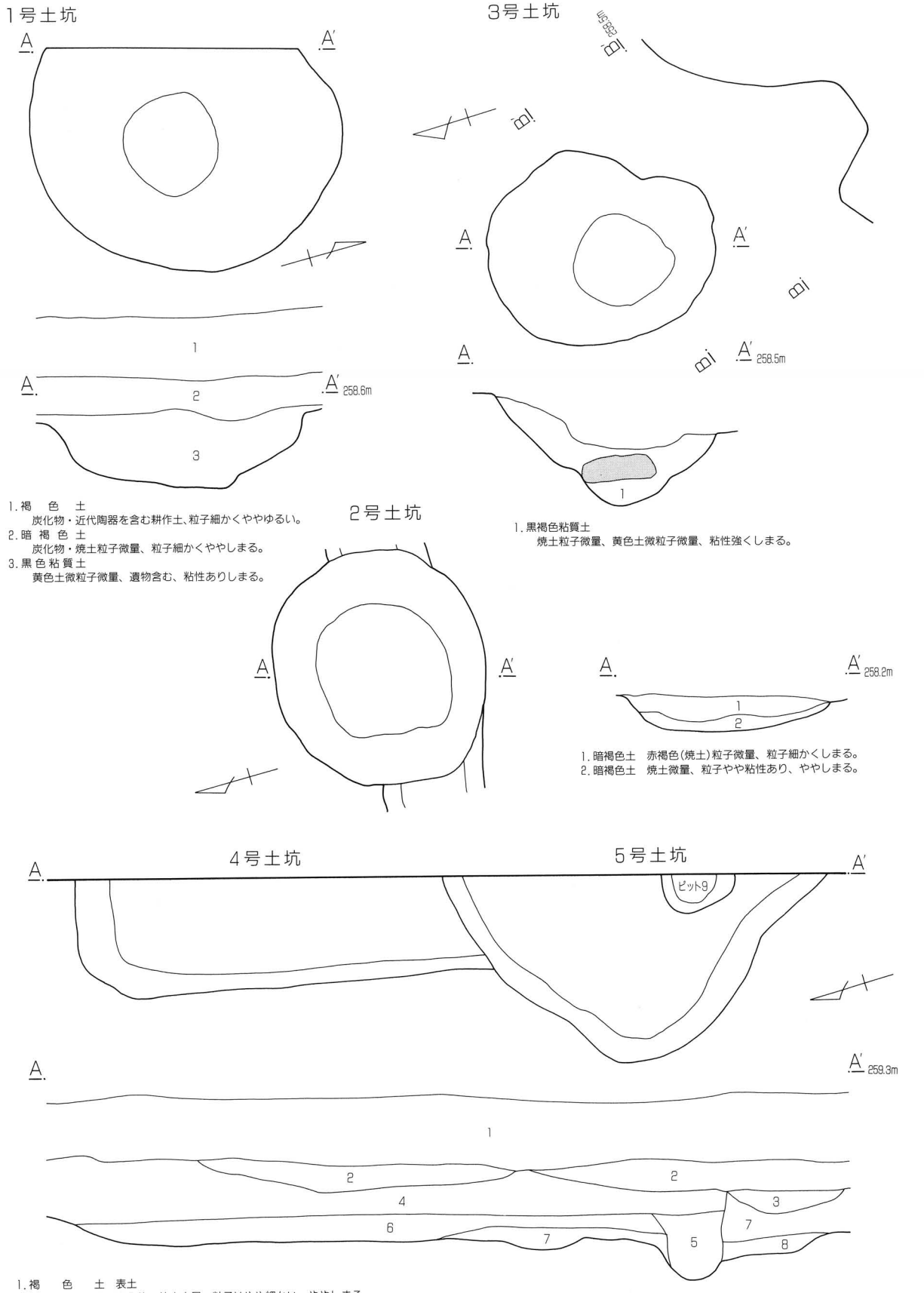


図14　26号・27号溝出土遺物位置



1. 褐　色　土
　炭化物・近代陶器を含む耕作土、粒子細かくややゆるい。
2. 暗 褐 色 土
　炭化物・焼土粒子微量、粒子細かくややしまる。
3. 黒 色 粘 質 土
　黄色土微粒子微量、遺物含む、粘性ありしまる。

1. 黒褐色粘質土
　焼土粒子微量、黄色土微粒子微量、粘性強くしまる。

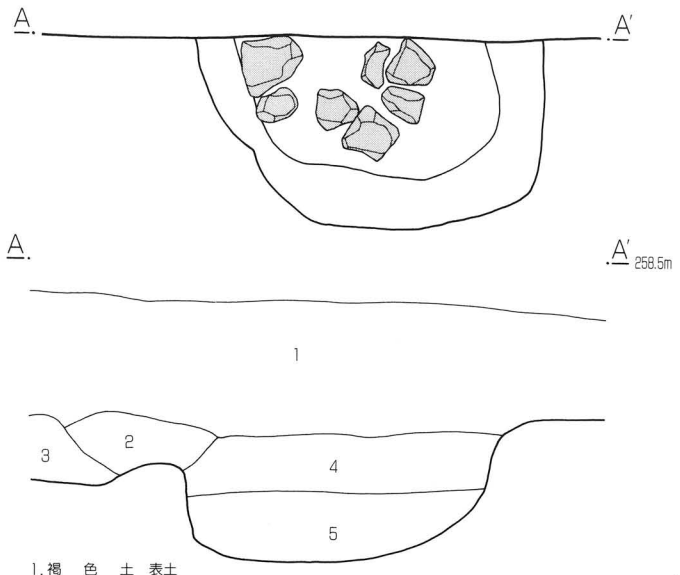
1. 暗褐色土　赤褐色(焼土)粒子微量、粒子細かくしまる。
2. 暗褐色土　焼土微量、粒子やや粘性あり、ややしまる。

1. 褐　色　土　表土
2. 暗褐色粘質土　炭化物・焼土少量、粒子はやや細かい、ややしまる。
3. 黒褐色粘質土　炭化物・焼土少量、黄赤褐色微粒子少量、粒子密、しまる。
4. 暗褐色粘質土　炭化物・焼土2層よりやや多し、土器含む、黄色土微粒子少量、2層より粒子細かく、ややしまる。
5. 黒褐色粘質土　炭化物・焼土微量、黄赤褐色土ブロック微量、粒子細かくややしまる。(ピット9)
6. 暗褐色粘質土　炭化物・焼土微量、黒褐色土分やや多し、粒子細かくややしまる。
7. 暗褐色粘質土　炭化物・焼土微量、ややしまる。
8. 黒褐色粘質土　黄色土やや多し、ややしまる。

0　(1:20)　1m

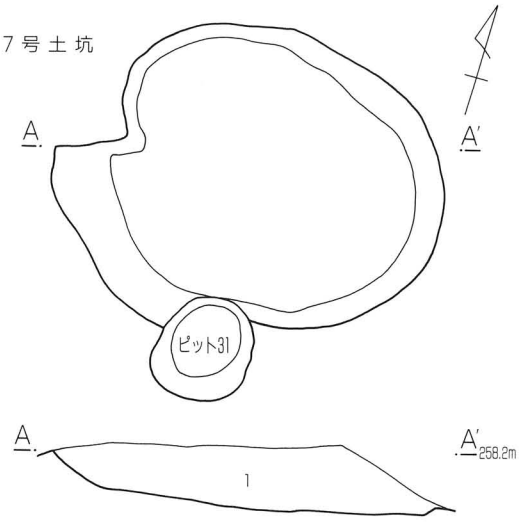
図15　1号～5号土坑

6号土坑



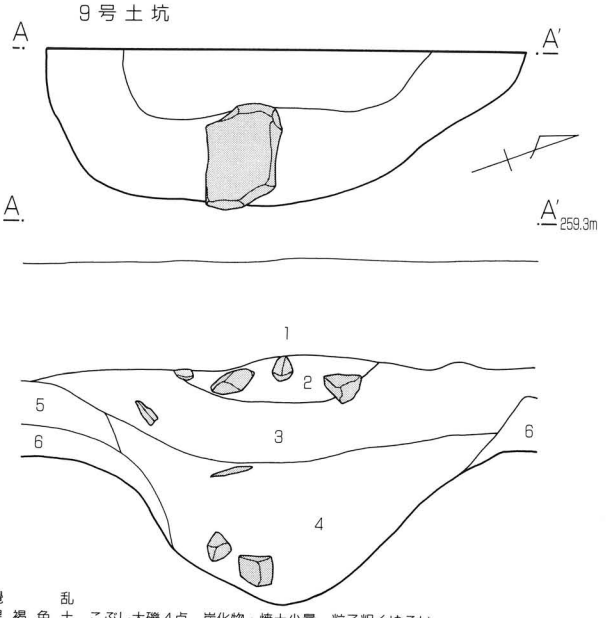
1. 褐　色　土　表土
2. 黒褐色粘質土　炭化物・焼土少量、黄赤褐色土微粒子少量、粒子密しまる。
3. 暗褐色粘質土　黒褐色土分やや多し、粒子細かくややしまる。
炭化物・焼土微量
4. 黒褐色粘質土　2層と類似するが、やや炭化物・焼土多く見られる。
5. 黒褐色粘質土　炭化物・焼土少量、こぶし大礫7点、ややしまる。

7号土坑



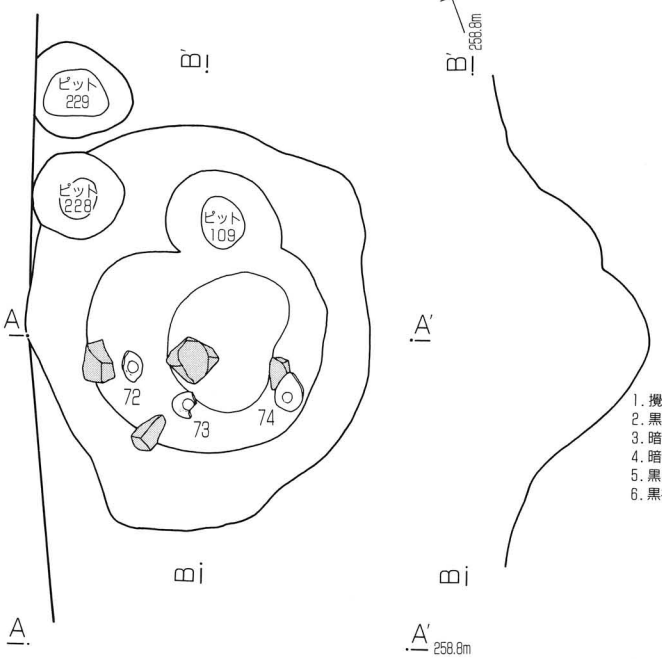
1. 黒褐色粘質土　黄色土粒子多くしまる。

9号土坑



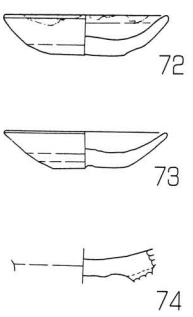
1. 攪　　乱
2. 黒 褐 色 土　こぶし大礫4点、炭化物・焼土少量、粒子粗くゆるい。
3. 暗褐色粘質土　炭化物・焼土少量、黄色微粒子微量、粒子やや粗いがしまる。
4. 暗褐色粘質土　炭化物・焼土少量、黄色土微粒子少量、粒子密しまる。こぶし大礫2点。
5. 黒 色 粘 質 土　炭化物・焼土微量、黄色土微粒子微量。しまる。遺物1点(古墳時代遺物包含層)
6. 黒褐色粘質土　炭化物・焼土少量、黄赤褐色土粒子少量、しまる。

8号土坑

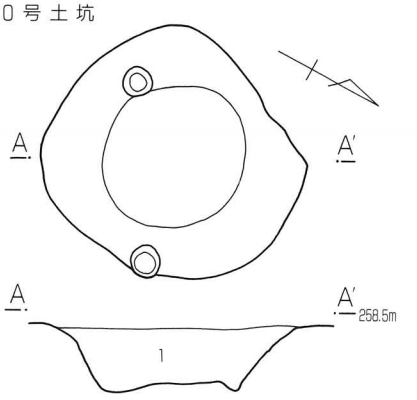


1. 暗褐色粘質土
炭化物・焼土少量、黄赤褐色微粒子少量、粒子細かくややしまる。
2. 黒褐色粘質土
炭化物・焼土微量、黄色土粒子少量、粒子やや粗くややゆるい。

8号土坑出土遺物



10号土坑



1. 暗褐色粘質土　炭化物・焼土少量、黄色土微粒子微量、しまる。

0　(1:20)　1m

図16　6号～10号土坑

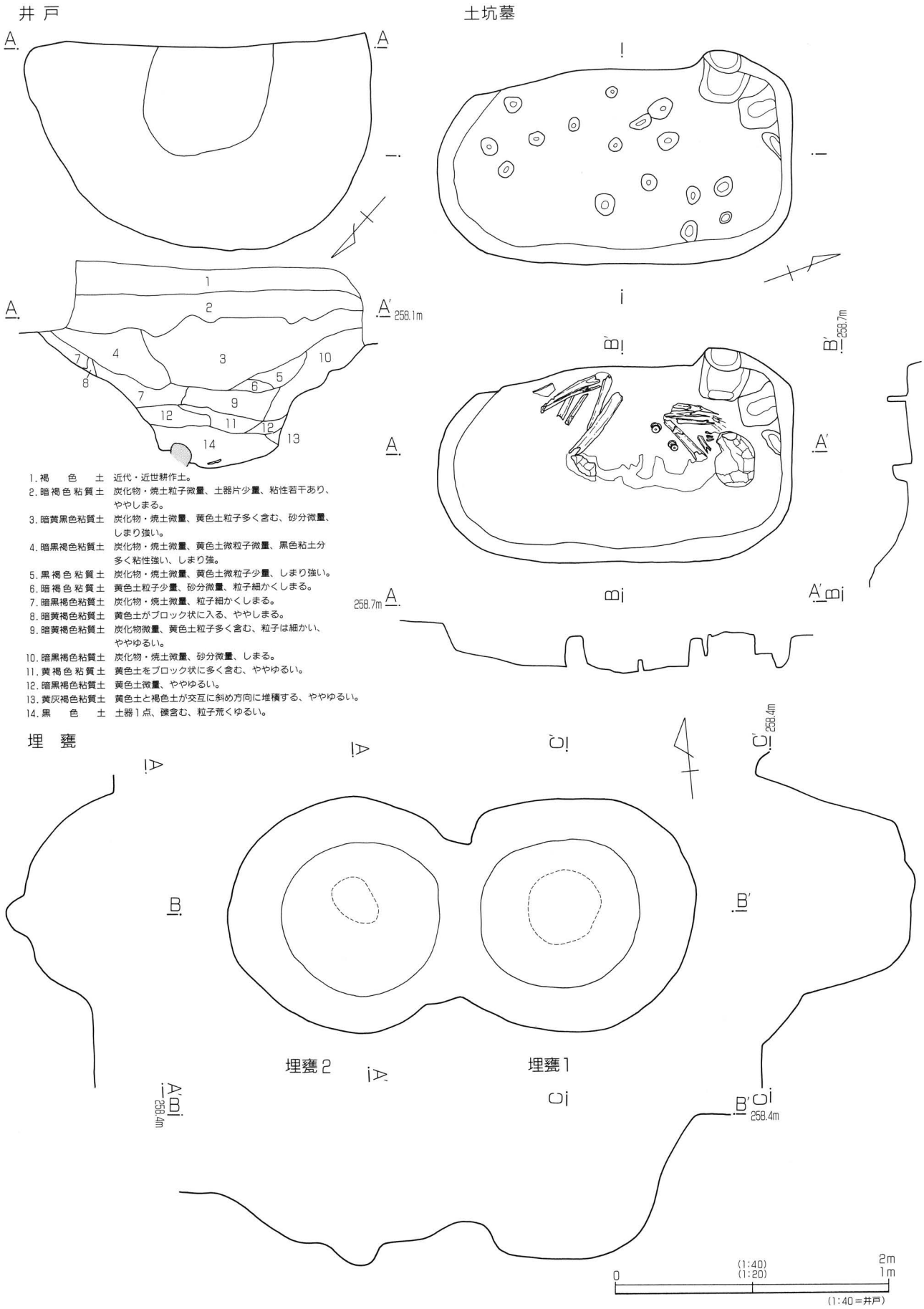

井戸
土坑墓
埋甕
A
A'
258.1m
B
B'
258.7m
C
C'
258.4m
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
1. 褐　色　土　近代・近世耕作土。
2. 暗褐色粘質土　炭化物・焼土粒子微量、土器片少量、粘性若干あり、ややしまる。
3. 暗黄黒色粘質土　炭化物・焼土微量、黄色土粒子多く含む、砂分微量、しまり強い。
4. 暗黒褐色粘質土　炭化物・焼土微量、黄色土微粒子微量、黒色粘土分多く粘性強い、しまり強。
5. 黒褐色粘質土　炭化物・焼土微量、黄色土微粒子少量、しまり強い。
6. 暗褐色粘質土　黄色土粒子少量、砂分微量、粒子細かくしまる。
7. 暗黒褐色粘質土　炭化物・焼土微量、粒子細かくしまる。
8. 暗黄褐色粘質土　黄色土がブロック状に入る、ややしまる。
9. 暗黄褐色粘質土　炭化物微量、黄色土粒子多く含む、粒子は細かい、ややゆるい。
10. 暗黒褐色粘質土　炭化物・焼土微量、砂分微量、しまる。
11. 黄褐色粘質土　黄色土をブロック状に多く含む、ややゆるい。
12. 暗黒褐色粘質土　黄色土微量、ややゆるい。
13. 黄灰褐色粘質土　黄色土と褐色土が交互に斜め方向に堆積する、ややゆるい。
14. 黒　色　土　土器1点、礫含む、粒子荒くゆるい。
埋甕2
埋甕1
0
(1:40)
(1:20)
2m
1m
(1:40＝井戸)

図17　井戸、土坑墓、埋甕

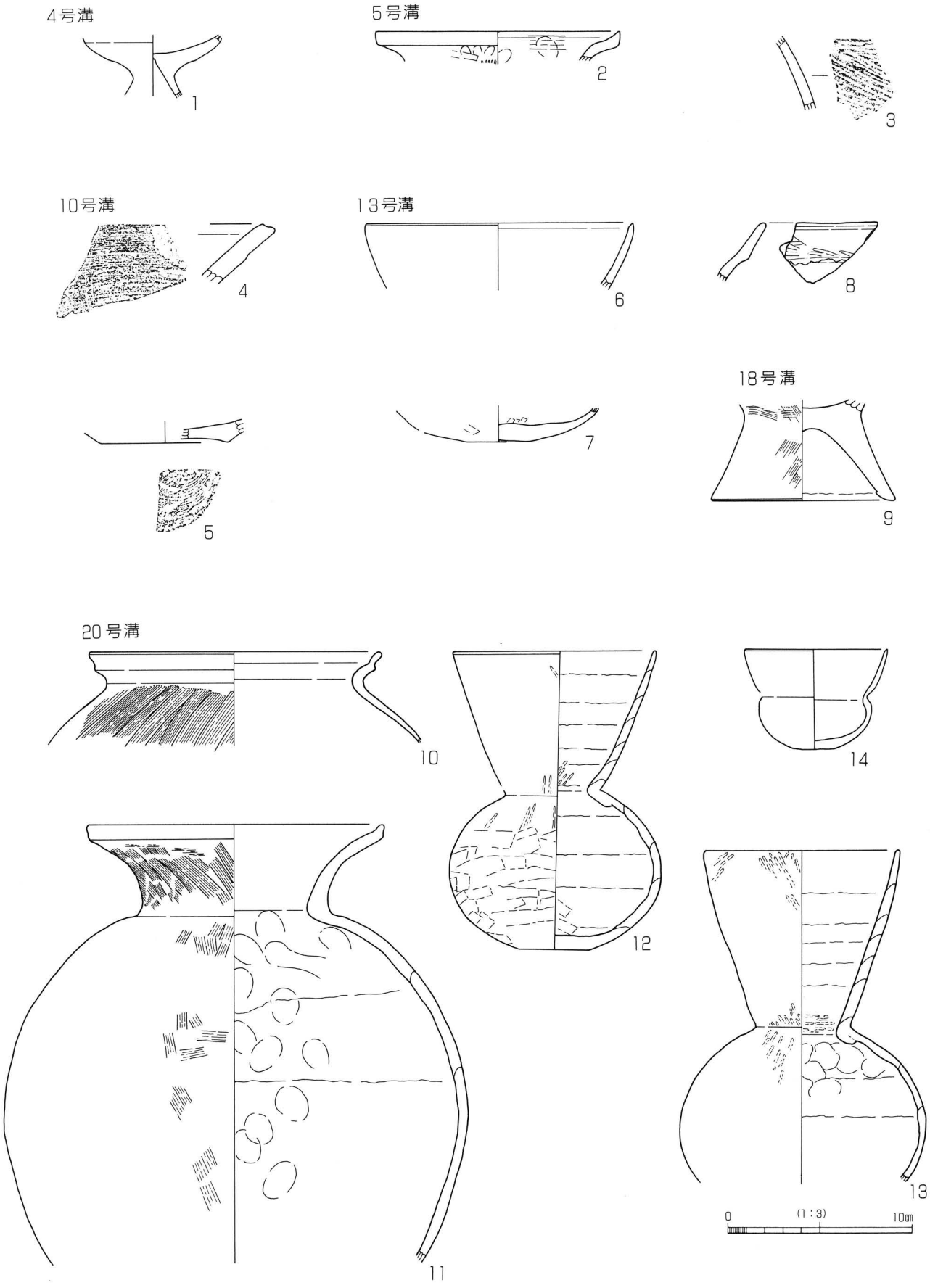


図18　4号溝(1)、5号溝(2・3)、10号溝(4・5)、13号溝(6～8)、18号溝(9)、20号溝(10～14)　出土遺物

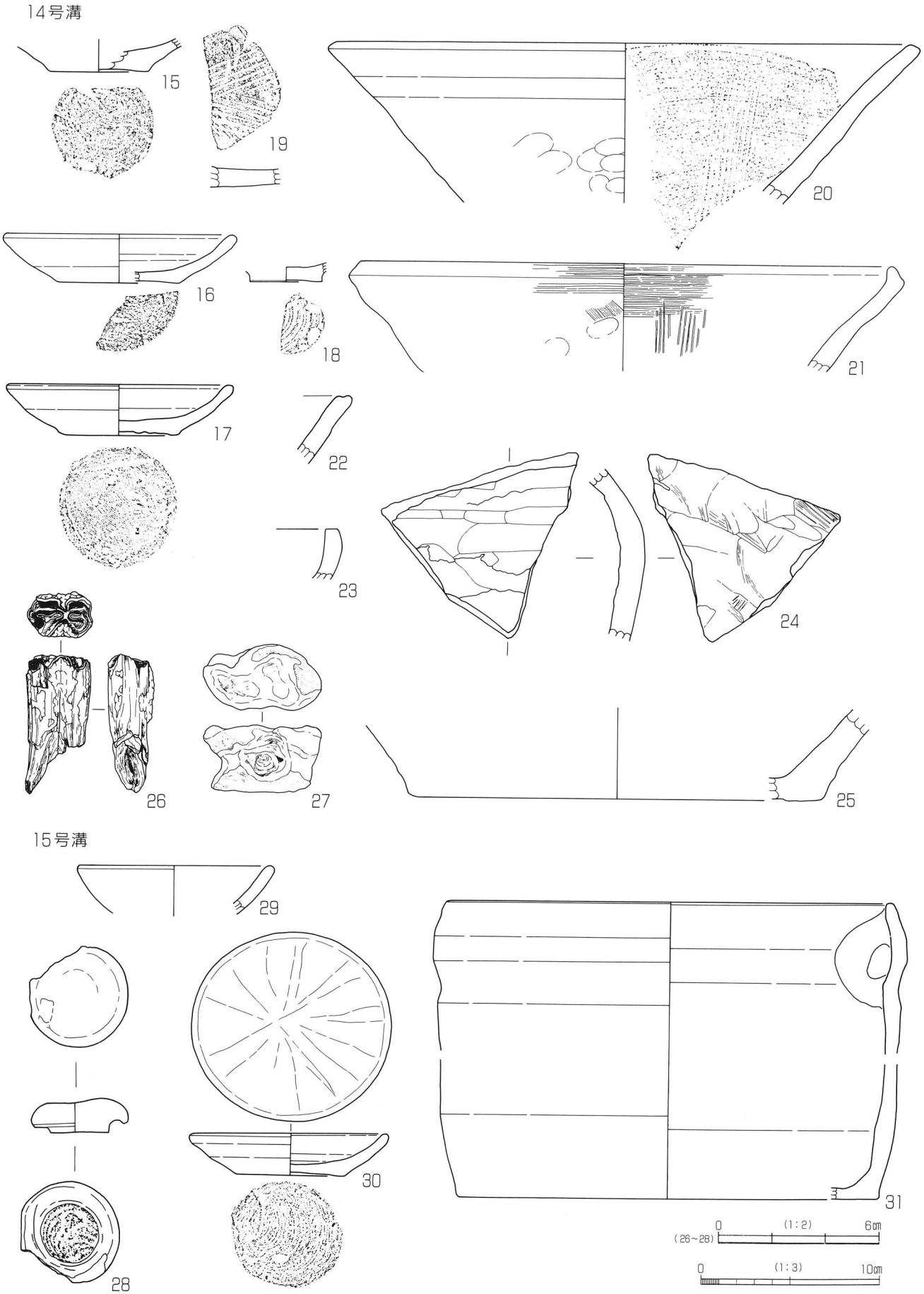


図19　14号溝(15～27)、15号溝(28～31) 出土遺物

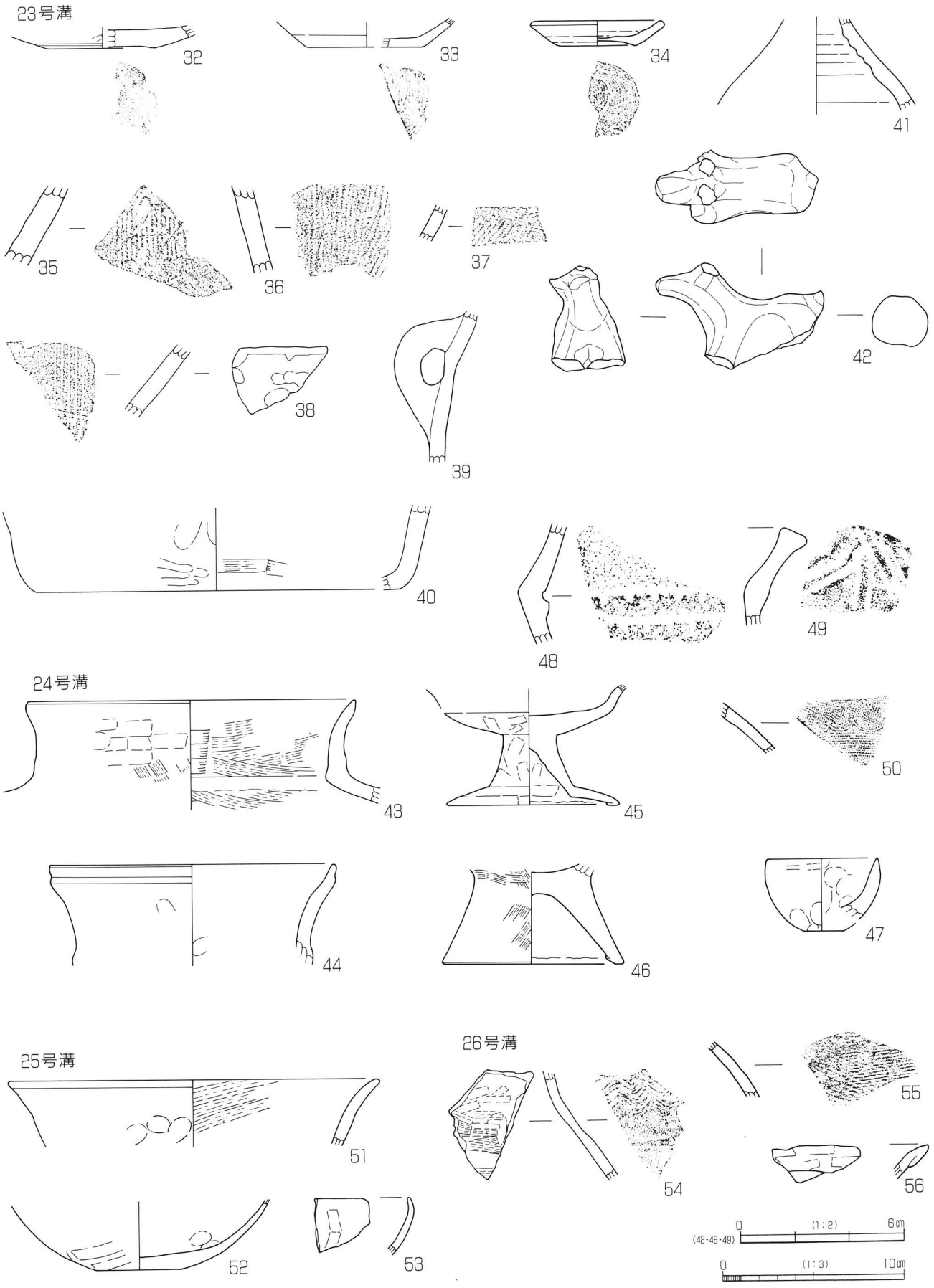


図20　23号溝(32～42)、24号溝(43～50)、25号溝(51～53)、26号溝(54～56)　出土遺物

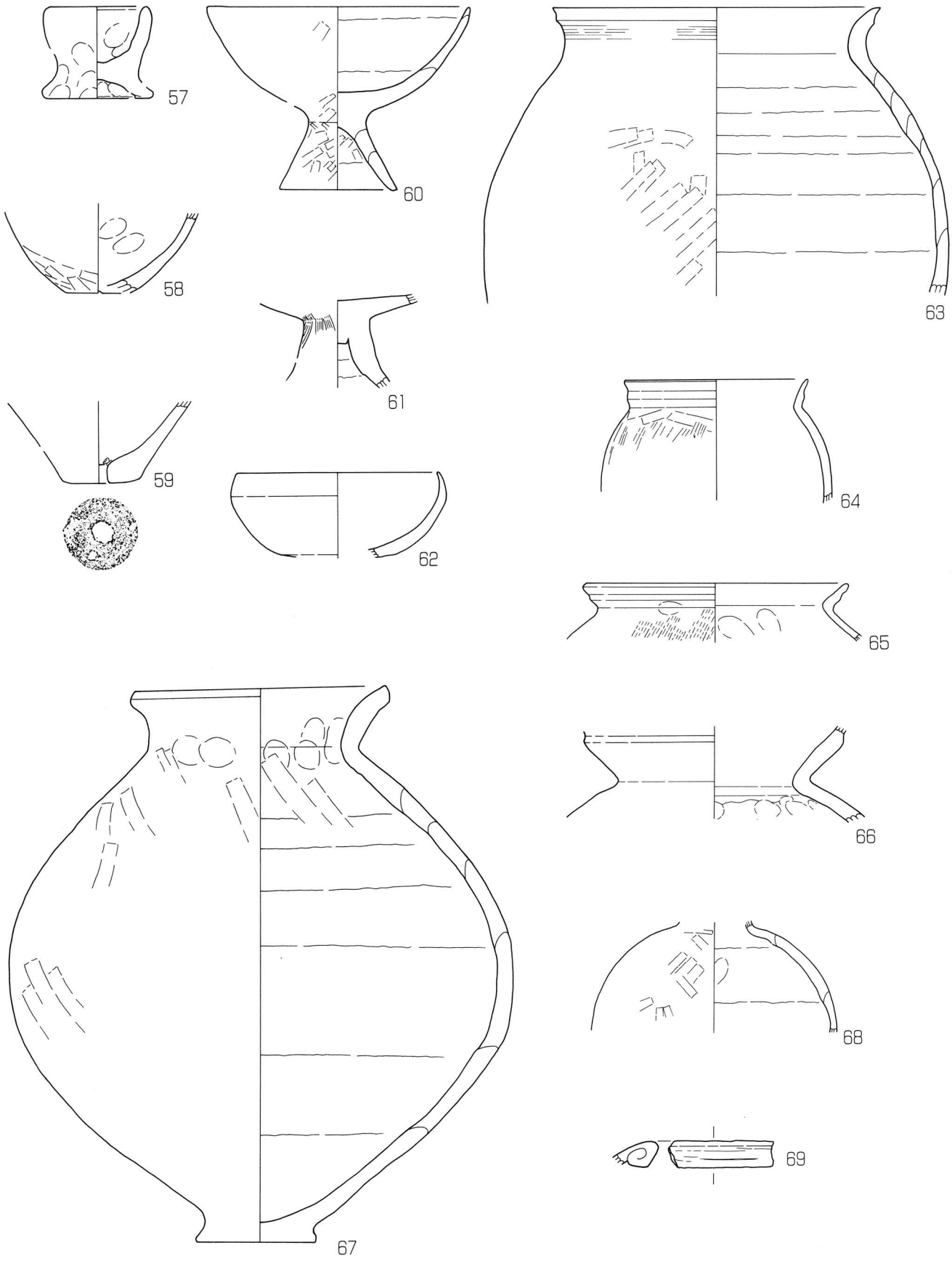


図21　27号溝(57～69) 出土遺物

0　10cm

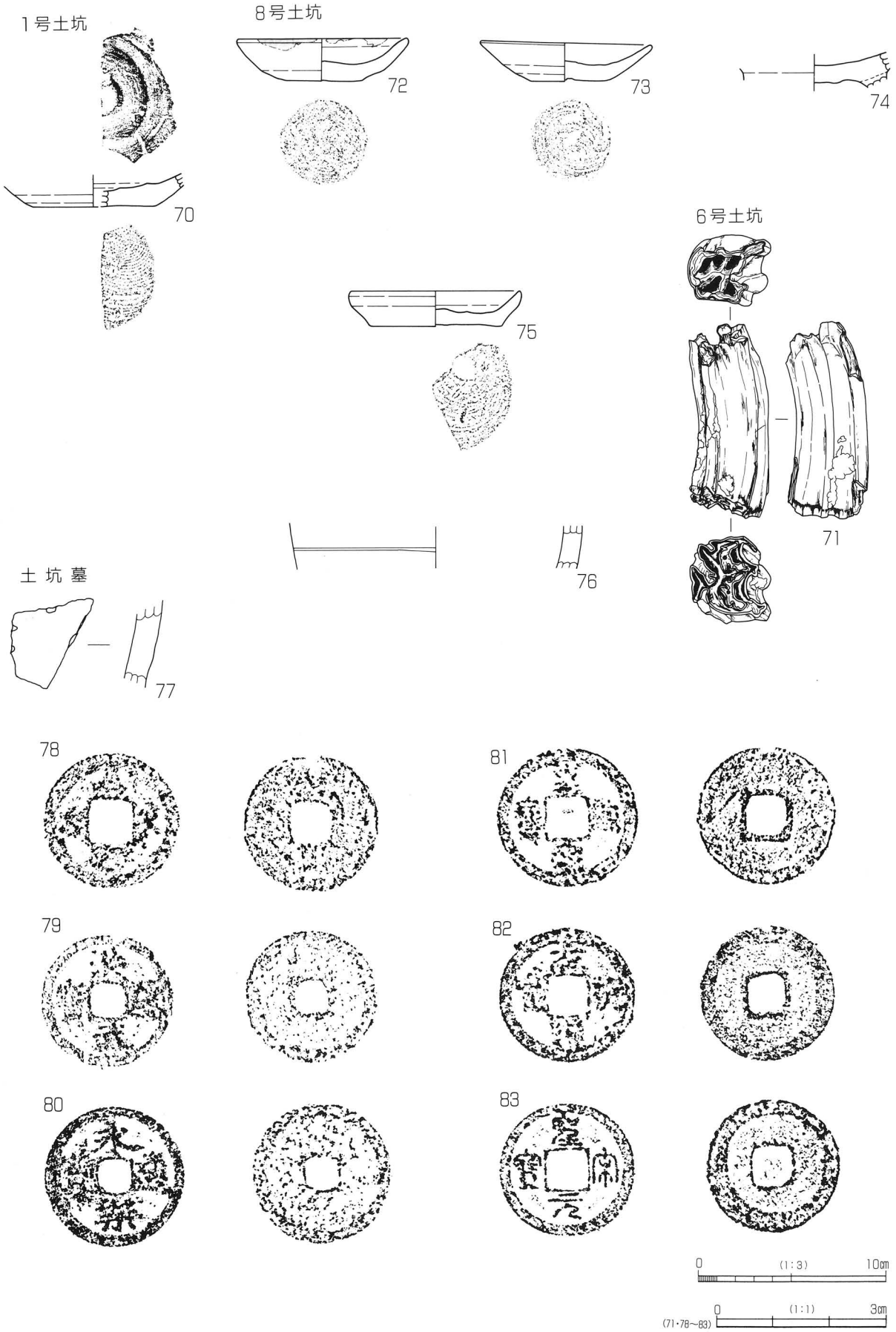


図22　1号土坑(70)、6号土坑(71)、8号土坑(72～74)、井戸(75・76)、土坑墓(77～83)　出土遺物

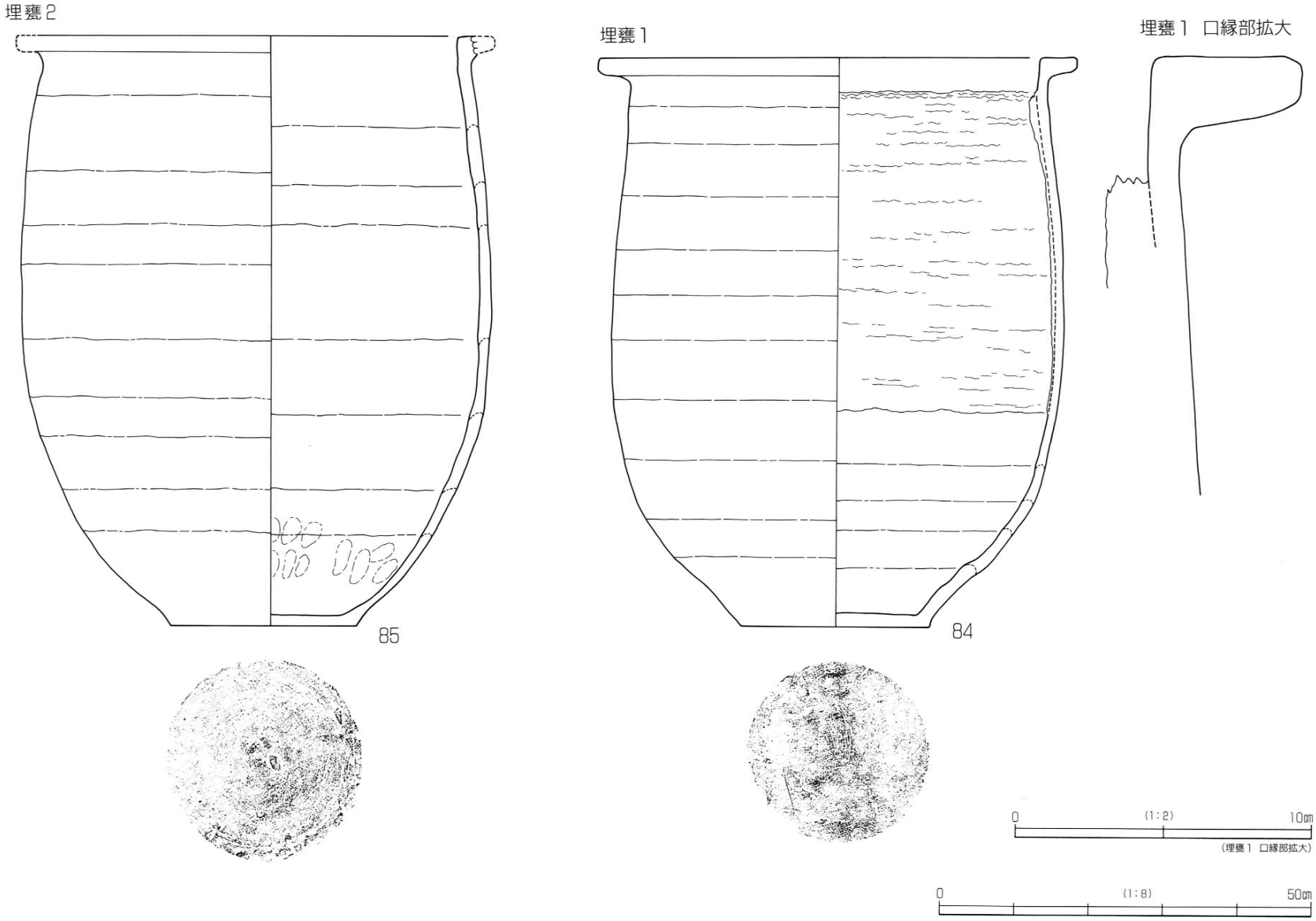


図23 埋甕1(84)、埋甕2(85) 出土遺物

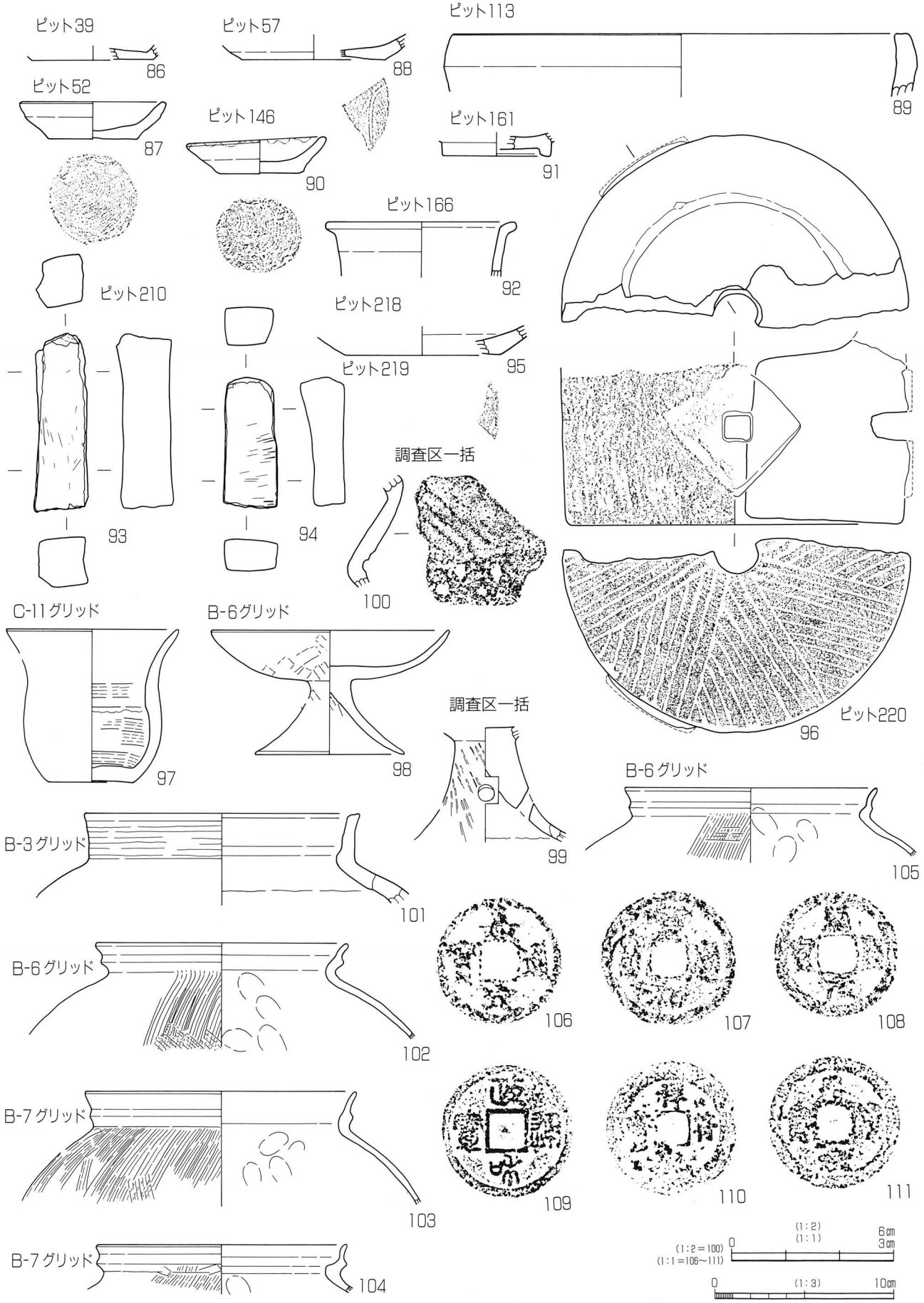


図24　ピット、グリッド、調査区一括出土遺物

出土遺物観察表

残存値（　）

番号	図	写真	出土位置	種別・器種	法量（cm）			部位	観察所見	胎土	色調	備考
					口径	底径	器高		（調整・文様・その他）			
1	18	8	4号溝	土器　高坏				坏部		密　（赤色粒子、金雲母、石英、長石）	鈍い橙 7.5YR7/4	
2	〃	8	5号溝	土器　壺	(13.2)			口縁部	ハケ目・ヘラのちナデ　指頭痕	密　（赤色粒子）	鈍い橙 7.5YR7/4	
3	〃	8	5号溝	土器　甕				胴部	ハケ目	密　（白色、赤色粒子、金雲母砂粒子）	明褐色 7.5YR5/6	
4	〃	8	10号溝	土器　擂鉢				口縁部	ロクロ成形　内面櫛目５条	やや密	褐灰色 10YR5/1	
5	〃	8	10号溝	土器　かわらけ		(7.0)		底部	ロクロ成形　底部回転糸切り	やや密　（赤色粒子、金雲母、長石）	鈍い橙 7.5YR6/4	
6	〃	8	13号溝	土器　高坏	(14.5)			口縁部	ナデ	密　（赤色粒子・白色粒子少量）	橙 7.5YR76/6	
7	〃	8	13号溝	土器　壺		3.5		底部～胴部	ヘラナデのちナデ	ち密　（赤色粒子）	橙 7.5YR76/6	
8	〃	8	13号溝	土器				口縁部		やや粗　（赤色粒子、石英）	橙色 5YR6/6	
9	〃	8	18号溝	土器　台付甕		9.9		脚部	外面ヘラ調整	やや密　（赤色粒子、石英）	橙色 5YR6/6	
10	〃	8	20号溝	土器　Ｓ字状口縁台付甕	15.6			口縁部	外面ハケ目	やや粗　（赤色粒子、金雲母、石英、長石、小石）	鈍い褐色 7.5YR5/4	外面スス付着
11	〃	8	20号溝	土器　壺	(15.8)			口縁部～体部	ハケ目　内面指頭痕ナデ	やや密　（赤色粒子、長石、石英）	橙色 7.5YR7/6	
12	〃	8	20号溝	土器　長頸壺	10.8	3.8	16.3	口縁部～底部	ヘラ調整ミガキ痕	やや密　（金雲母、赤色粒子）	鈍い橙 5YR7/6	
13	〃	8	20号溝	土器　長頸壺	10.5			口縁部～胴部	外面ヘラ磨き、内面胴部指頭痕	やや密　（赤色粒子）	橙色 5YR6/6	
14	〃	8	20号溝	土器　坩	7.7	2.0	5.5	口縁部～底部		密　（赤色粒子、石英、長石、小石）	橙色 2.5YR6/8	
15	19	9	14号溝	土器　かわらけ		5.6		体部～底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密　（赤色粒子、金・黒雲母、石英）	鈍い褐色 7.5YR5/4	
16	〃	9	14号溝	土器　かわらけ	12.4	(7.0)	2.75	口縁部～底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密　（金雲母、石英、長石）	鈍い黄橙 10YR7/3	内面一部スス付着
17	〃	9	14号溝	土器　かわらけ	(12.0)	6.8	2.8	口縁部～底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密　（金雲母、石英、長石、赤色粒子）	灰黄褐色 10YR6/2	内外面スス付着
18	〃	9	14号溝	陶器　不明		(4.0)		底部	底部回転糸切り	やや密　（石英）	灰白色 10YR8/1	
19	〃	9	14号溝	土器　擂鉢				底部	櫛目７条	やや密　（金雲母、石英、長石）	橙色 7.5YR6/6	
20	〃	9	14号溝	土器　擂鉢	(31.8)			口縁部～体部	ロクロ成形　外面指頭痕　櫛目８条	やや粗　（金・黒雲母、石英、小石）	灰白色 10YR7/1	内面スス付着
21	〃	9	14号溝	土器　擂鉢	(31.4)			口縁部～体部	ロクロ成形　指頭痕　櫛目７条	やや粗　（赤色粒子、金・黒雲母、石英、長石）	鈍い黄橙 10YR6/3	口縁部スス付着
22	〃	9	14号溝	土器　擂鉢				口縁部	ロクロ成形	やや密　（石英、長石）	黄灰色 2.5Y6/1	
23	〃	9	14号溝	土器　内耳鍋				口縁部	ロクロ成形	やや密　（石英、長石）	褐灰色 10YR4/1	
24	〃	9	14号溝	陶器　甕（常滑）				肩部		やや粗　（石英、長石）	褐灰色 10YR5/1	内面スス付着　常滑
25	〃	9	14号溝	陶器　甕（常滑）		(23.1)		底部	ロクロ成形	密　（石英）	灰色 5YR6/1	
26	〃	9	14号溝	馬の歯（前臼歯）								
27	〃	9	14号溝	背骨（不明）								
28	〃	9	15号溝	陶器　合子蓋	4.0	2.1	1.1		ロクロ成形、底部回転糸切り	密　施釉		瀬戸美濃系
29	〃	9	15号溝	土器　かわらけ	(10.8)			口縁部	ロクロ成形	やや密　（赤色粒子、金雲母、長石、石英）	鈍い橙 7.5YR6/4	
30	〃	9	15号溝	土器　かわらけ	10.8	6.0	2.3	口縁部～底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密　（金雲母、石英、長石、小石）	鈍い橙 7.5YR7/3	見込み部に放射状の線刻
31	〃	9	15号溝	土器　内耳鍋	24.9	23.5	16.6	口縁部～底部	ロクロ成形、外面指頭痕有り	やや粗　（金雲母、赤色粒子、石英、長石）	灰黄褐色 10YR6/2	外面部分的に炭化物付着
32	20	10	23号溝	土器　かわらけ		(6.0)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密　（白色砂粒子）	明黄褐色 10YR7/6	
33	〃	10	23号溝	土器　かわらけ		(7.0)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密　（赤色粒子、金雲母砂粒子）	橙色 5YR6/6	
34	〃	10	23号溝	土器　かわらけ	(6.8)	(4.2)	(1.35)	口縁部～底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密　（金雲母、石英）	黄灰色 2.5YR6/1	
35	〃	10	23号溝	陶器　甕				体部	外面叩き目	やや密　（石英、長石）	黄灰色 2.5YR6/1	
36	〃	10	23号溝	須恵器　不明				体部	外面叩き目？摩耗	密　（石英）	灰色 5YR6/1	二次転用か
37	〃	10	23号溝	須恵器　甕又は壺				体部	外面叩き目	密　（石英）	黄灰色 2.5YR6/1	
38	〃	10	23号溝	土器　擂鉢				体部	外面に指頭痕あり	やや密　（金・黒雲母、石英）	鈍い褐色 7.5YR5/4	櫛目６条
39	〃	10	23号溝	土器　内耳鍋				体部		やや密　（赤色粒子、金・黒雲母）		

出土遺物観察表

残存値（　）

番号	図	写真	出土位置	種別・器種	法量（cm）			部位	観察所見	胎土	色調	備考
					口径	底径	器高		（調整・文様・その他）			
40	20	10	23号溝	土器　内耳鍋		(20.0)		底部	外面ヘラ磨き、内面ナデ	やや密　（金雲母、赤色粒子）	鈍い褐色 7.5YR5/4	外面スス付着
41	〃	10	23号溝	陶器　徳利				肩部～胴部	ロクロ成形	やや密　内外面鉄釉		瀬戸美濃系
42	〃	10	23号溝	土製品　土馬				体部～頭部	外面ヘラ調整	やや密　（赤色粒子、金雲母）	鈍い褐色 7.5YR5/4	スス付着
43	〃	10	24号溝	土器　壺	(18.0)			口縁部	ナデ	ち密　（白色砂粒子、金雲母）	鈍い橙 7.5YR7/4	
44	〃	10	24号溝	土器　壺	(15.7)		(5.3)	口縁部	ナデ　指頭痕	ち密　（白色砂粒子）	橙 5YR6/6	
45	〃	10	24号溝	土器　有段高坏		(9.5)	(6.4)	坏部～脚部	ヘラナデ	ち密　（赤色粒子）	鈍い橙 7.5YR7/4	
46	〃	10	24号溝	土器　台付甕		(10.0)		脚部	ハケ目のちナデ	密　（白色粒子少々）	明赤褐色 5YR5/8	
47	〃	10	24号溝	土器　ミニチュア土器	(6.0)	(2.0)	(4.0)	口縁部～底部	指頭痕	白色砂礫	鈍い橙 7.5YR7/3	
48	〃	10	24号溝	土器　縄文				頸部	連続コの字数	やや粗　（金雲母、石英、長石）	赤褐色 5YR4/6	五領ヶ台式
49	〃	10	24号溝	土器　縄文				口縁部		やや粗　（金雲母、石英、長石）	鈍い赤褐色 5YR5/3	五領ヶ台式
50	〃	10	24号溝	土器				体部	櫛描紋	やや密　（白色砂粒子少量）	鈍い橙 7.5YR7/3	
51	〃	10	25号溝	土器　壺	(20.3)			口縁部	外面ハケのちナデ、指頭痕	密　（白色砂粒子）	鈍い黄橙 10YR7/4	
52	〃	10	25号溝	土器　壺		(4.8)		底部～胴部	ヘラナデのちナデ　指頭痕	密　（赤色粒子、石英）	鈍い橙 7.5YR6/4	
53	〃	10	25号溝	土器　高坏				口縁部	ヘラナデ	ち密　（金雲母少量、赤色粒子）	橙 5YR6/6	
54	〃	10	26号溝	土器　甕				体部	外面櫛描波状文、内面ハケ目	密　（赤色、白色粒子、金雲母）	明褐色 7.5YR5/6	
55	〃	10	26号溝	土器　甕				体部	外面櫛目、内面ハケ目	密　（白色砂粒子、赤色粒子、金雲母）	鈍い褐色 7.5YR5/4	
56	〃	10	26号溝	土器　壺				口縁部		やや密　（白色砂粒子、赤色粒子、金雲母）	鈍い黄橙 10YR7/3	
57	21	11	27号溝	土器　ミニチュア土器	(4.5)	(5.8)	5.0	口縁部～底部	手ずくね	粗　（白色・赤色粒子、長石、金雲母）	浅黄橙 7.5YR8/3	
58	〃	11	27号溝	土器　壺		(3.5)		底部～体部	外面ヘラナデ、内面指頭痕	ち密　（金雲母少量、赤色粒子）	明赤褐色 5YR5/6	
59	〃	11	27号溝	土器　有孔鉢		4.3		底部～体部		密　（石英、長石、赤色粒子）	鈍い橙 5YR	
60	〃	11	27号溝	土器　高坏	14.2	6.5	10.0	坏部～脚部	ヘラナデ	やや粗　（石英、赤色粒子）	鈍い橙 7.5YR7/4	
61	〃	11	27号溝	土器　高坏				坏部～脚部	ヘラ目のちナデ	ち密　（石英、赤色粒子）	明赤褐色 5YR5/6	
62	〃	11	27号溝	土器　高坏？	11			口縁部	ナデ	密　（石英、赤色粒子、金雲母）	鈍い橙 7.5YR6/4	
63	〃	11	27号溝	土器　壺	(17.7)			口縁部～胴部	ヘラ調整	やや粗　（白色砂粒子多し、赤色粒子、金雲母）	橙色 5YR6/6	
64	〃	11	27号溝	土器　甕	(10.0)			口縁部～胴部	外面ヘラ調整、ナデ	密　（白色・赤色粒子微量）	鈍い黄橙 10YR6/3	
65	〃	11	27号溝	土器　Ｓ字甕	(14.4)			口縁部～胴部	外面ナデのちハケ目　内面指頭痕	やや粗　（赤色・白色砂粒子多く含む、金雲母）	橙 7.5YR6/6	
66	〃	11	27号溝	土器　壺				口縁付近	内面指頭痕	やや密　（白色・赤色粒子微量）	橙 7.5YR6/6	
67	〃	11	27号溝	土器　壺	13.5	6.5	30.2	口縁～底部	ナデ、指頭痕	やや密　（白色・赤色粒子）	橙 5YR6/6	
68	〃	11	27号溝	土器　壺				胴部	外面ヘラナデ、内面指頭痕	密　（白色・赤色砂粒子）	鈍い橙 7.5YR7/4	
69	〃	11	27号溝	土器　壺	(17.4)			口縁部	ナデ	やや粗　（白色、赤色粒子、雲母）	鈍い橙 7.5YR7/3	
70	22	12	1号土坑	土器　かわらけ		6.4		体部～底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密　（金雲母、石英、赤色粒子）	鈍い黄橙 10YR6/4	
71	〃	12	6号土坑	馬の歯（後臼歯）								
72	〃	12	8号土坑	土器　かわらけ	8.9	4.5	2.25	口縁部～底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや粗　（赤色粒子、金雲母、石英、長石、小石）	鈍い橙 7.5YR6/4	口縁部スス付着
73	〃	12	8号土坑	土器　かわらけ	8.8	4.1	2.1	口縁部～底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密　（赤色粒子、金雲母、石英、小石）	橙 5YR7/6	
74	〃	12	8号土坑	陶器　器種不明				底部？	ロクロ成形	やや粗　（赤色粒子、石英、長石、小石）	鈍い橙 7.5YR6/4	内面一部スス付着
75	〃	12	1号井戸	土器　かわらけ	(9.0)	7.1	1.9	口縁～底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密　（金雲母、赤色粒子）	鈍い黄橙 10YR7/2	
76	〃	12	1号井戸	陶器　壺				胴部	ロクロ成形	ち密　（白色砂粒子少量）	褐灰色 7.5YR4/1	
77	〃	12	土坑墓	土器　内耳鍋？				体部	ロクロ成形、内外面ナデ	ち密　（白色砂粒子微量）	鈍い橙 7.5YR6/4	外面スス付着
78	〃	12	土坑墓	古銭　□□元寶	直径　2.45	孔径　0.71	厚さ　0.14	重量(g) 2.6	腐食が著しい			北宋銭？

出土遺物観察表

残存値（　）

番号	図	写真	出土位置	種別・器種	法量（cm） 口径	底径	器高	部位	観察所見（調整・文様・その他）	胎土	色調	備考
79	22	12	土坑墓	古銭　洪武通寶	直径 2.37	孔径 0.55	厚さ 0.16	重量(g) 3.6				
80	〃	12	土坑墓	古銭　永楽通寶	直径 2.50	孔径 0.53	厚さ 0.17	重量(g) 3.6				
81	〃	12	土坑墓	古銭　皇宋通寶	直径 2.48	孔径 0.70	厚さ 0.12	重量(g) 2.5	篆書体			北宋銭
82	〃	12	土坑墓	古銭　元祐通寶	直径 2.41	孔径 0.65	厚さ 0.15	重量(g) 3.6	篆書体			北宋銭
83	〃	12	土坑墓	古銭　聖宋元寶	直径 2.39	孔径 0.69	厚さ 0.14	重量(g) 2.9	篆書体			北宋銭
84	23	12	埋甕	土器　甕	64.4	25.5	75.9		輪積み成形、底部ヘラ整形	密　(赤色粒子、金雲母、石英、長石)		内面に石灰質沈着
85	〃	12	埋甕	土器　甕	(58.0)	25	78.4		輪積み成形、底部ヘラ整形	密　(赤色粒子、金雲母、石英、長石)		内面に石灰質沈着
86	24	12	ピット39	坏		(6.2)		底部		密　(金雲母、赤色粒子)	鈍い橙 7.5YR6/4	古代
87	〃	12	ピット52	土器　かわらけ	7.7	4.9	2.1	口縁部～底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密　(白色粒子微量、金雲母含む)	鈍い橙 7.5YR6/4	
88	〃	12	ピット57	土器　かわらけ		(8.0)		体部～底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや粗　(金雲母、赤色粒子、石英、長石)	鈍い橙 7.5YR6/4	内面スス付着
89	〃	12	ピット113	土器　内耳鍋	(25.2)			口縁部	ナデ	やや粗　(赤色粒子、金・黒雲母、石英、長石、小石)	灰黄褐 10YR5/2	内外面スス付着
90	〃	12	ピット146	土器　かわらけ	7.5	4.6	1.9	口縁部～底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや粗　(赤色粒子、金・黒雲母、石英、長石、小石)	灰白 10YR8/2	口縁部内外面炭化物付着
91	〃	12	ピット161	陶器　碗		5.9		底部	ロクロ成形、付高台	密	内面鉄釉	
92	〃	12	ピット166	陶器　壺	(10.5)			口縁部		密	内外面灰釉	
93	〃	12	ピット210	石製品　砥石	長さ 9.9	幅 3.0	厚さ 2.7		二面磨耗	輝石安山岩		
94	〃	12	ピット219	石製品　砥石	長さ 7.2	幅 2.5	厚さ 3.0		二面磨耗	輝石安山岩		
95	〃	12	ピット218	土器　かわらけ		(8.6)		体部～底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや粗　(赤色粒子、石英、長石)	鈍い橙 7.5YR6/4	内面スス付着
96	〃	12	ピット220	茶臼（上臼）	20		(10.2)	軸径2.4　長さ2.7　手まわし1.6四方　深さ2.0		安山岩		被熱
97	〃	13	C－11	土器　小壺	9.6	4.4	8.6	口縁部～底部	内部ハケ調整	やや密　(茶褐色粒子、白色粒子)	明赤褐色 5YR5/6	
98	〃	13	B－6	土器　高坏	13.2	(8.2)	(6.9)	口縁部～底部	外ヘラ調整	密　(赤褐色粒子、白色粒子)	鈍い橙 5YR7/6	
99	〃	13	調査区一括	土器　高坏				脚部	ナデのちミガキ	ち密　(金雲母、赤色粒子)	鈍い赤褐 2.5YR6/4	
100	〃	13	調査区一括	土器　甕（縄文）				口縁部	連続コの字紋	やや密　(白色・黒色粒子、金雲母多い)	赤褐色 5YR4/6	五領ヶ台式
101	〃	13	B－3	土器　土釜	(15.3)			口縁部～胴部	ナデ	密　(白色粒子、金雲母)	鈍い橙 7.5YR7/3	外面スス付着
102	〃	13	B－6	土器　S字甕	(14.0)		(5.8)	口縁部～体部	ナデのちハケ目　指頭痕	やや密　(赤色・白色砂粒子、金雲母)	鈍い橙 5YR6/6	
103	〃	13	B－6	土器　S字甕	15.0		6.3	口縁部～体部	ナデのちハケ目　指頭痕	やや密　(赤色・白色砂粒子、金雲母)	鈍い橙 5YR6/6	
104	〃	13	B－7	土器　S字甕	(14.0)		(2.5)	口縁部～体部	ナデのちハケ目　指頭痕	やや密　(赤色・白色砂粒子、金雲母)	鈍い橙 7.5YR7/4	
105	〃	13	B－6	土器　S字甕	(14.0)		(5.0)	口縁部～体部	ナデのちハケ目　指頭痕	赤色・白色砂粒子、金雲母	鈍い橙 5YR6/6	
106	〃	13	B－6	古銭　嘉定元寶	直径 2.39	孔径 0.63	厚さ 0.14	重量(g) 3.4				北宋銭
107	〃	13	B－6	古銭　宣和通寶	直径 2.53	孔径 0.61	厚さ 0.14	重量(g) 4.0				北宋銭
108	〃	13	B－6	古銭　紹聖元寶	直径 2.33	孔径 0.65	厚さ 0.11	重量(g) 2.4	篆書体			北宋銭
109	〃	13	B－6	古銭　政和通寶	直径 2.48	孔径 0.64	厚さ 0.13	重量(g) 3.0	篆書体			北宋銭
110	〃	13	B－6	古銭　祥符通寶	直径 2.51	孔径 0.54	厚さ 0.14	重量(g) 2.9				北宋銭
111	〃	13	B－6	古銭　判読不能	直径 2.46	孔径 0.61	厚さ 0.11	重量(g) 3.7				不明

第4章　ま　と　め

調査の結果、弥生時代後期、古墳時代前期から中期、中世、近代にかけての溝27条、土坑10基、井戸１基、土坑墓１基、埋甕２基、ピット257基が確認された。遺物については、縄文時代中期から、弥生時代後期、古墳時代前期・中期、平安時代、中世15～16世紀代、近世から近代にかけての遺物が検出された。

ここでは本遺跡における遺構の変遷と、主要な遺構・遺物について検討を加えまとめとしたい。

１．縄文時代

縄文時代の遺構は確認されてはいないものの、図版に掲載した遺物は48・49・100の３点及び調査区全域では計10点ほどの土器が出土した。いずれも縄文時代中期の五嶺ヶ台式土器である。この北原扇状地においては、過去行われた北原遺跡・善光寺北遺跡などの調査でも、同時期の遺構・遺物が確認されている。このことからも、当調査区周辺においても縄文時代中期の遺構の存在が確認される可能性も考えられる。

２．弥生時代後期

この時期の遺物・遺構は極めて少ない。唯一26号溝の遺構内から弥生時代後期の54～56の土器小片が検出されている。26号溝については、全貌が解明されていないため推測の域を出ないが、ほぼ直角に屈曲した形状を呈しており、この周辺から遺物が出土している事等から、方形周溝墓の周溝であると推測される。

３．古墳時代前期

古墳時代としては、前期の遺構・遺物が最も多く確認された。遺物から５・13・18・20・27号溝がこの時期の遺構として該当するものと考えられる。いずれの遺構も全容が不明なため遺構の性格については解明することは困難ではあるが、20・27号溝については、流水の痕跡がなくほぼ直角に屈曲が見られることなどから、方形周溝墓の周溝の可能性が考えられる。20号溝に関しては、18号溝に切られているが南側の19号溝との関連性が疑われる。この19号溝が南辺、20号溝が西辺の周溝と仮定すると、一辺８ｍほどの規模の方形周溝墓が存在していた可能性も考えられる。

４．古墳時代中期

この時期の遺構・遺物は少ないが、24・25号溝が該当する遺構である。23号溝により切られてはいるが両溝とも一連の遺構であると考えられる。この溝は蛇行しており、砂礫分の堆積も確認されていることから、水路又は自然流路の可能性が考えられる。

５．古　代

遺構は確認されてはいないが、ピット39において86の坏ほか調査区全域から小片が確認されている。何れも甲斐型土器であり９世紀代の遺物であった。昭和60・61年に行われた本郷遺跡の調査において、この時期の井戸及び墨書土器などが検出されていることから、今後調査区周辺においても古代の遺構の存在が考えられる。

6．中　世

中世段階は、２・３・９・10・14・15・23号溝、１・４・８号土坑、井戸、土坑墓が主な遺構である。またＢ・Ｃ－４～７グリッドの区域に集中する多数のピットも中世段階のものが多く見られる。溝に関しては23号溝以外は、現在の地割り線と各溝の軸線が平行若しくは直交し、覆土に類似性が見られることから、同時期に存在したものと考えられ、９・10・14・15号溝出土の遺物から15～16世紀代と推定される。

14・15号溝に関しては、以前この周辺には酒折宮に通じる参道が存在していたとの伝承があり、現在もこの東西の延長線上に道路が存在する。遺物等から中世段階の道に伴う側溝と考えられる。また東西方向に平行して走る14号溝と９号溝の間は約14ｍ、２号溝と９号溝間は約9.5ｍある。これらの溝は中世段階における土地区画の境界と推測される。

土坑墓が検出された周辺においては、４号土坑で骨粉、遺構は未確認であるがＢ－６グリッドにおいて古銭６枚が集中して出土した。また、４号土坑で骨粉が確認される等、埋葬施設が存在していた可能性を窺わせる。これらのことから、この周辺が墓域であった可能性も考えられる。

7．近世～近代

埋甕２基は、肥溜めとして利用していた物であり、甕内面の付着物からカルシウム質及びアンモニア分が検出された事から確認された。土地所有者の飯野氏の言によると、飯野家は江戸時代、甲府城下町の南側に位置する遠光寺で紺屋を営み、幕末から明治時代初頭に旧甲州街道（現国道411号線）沿いの善光寺三丁目に移転したとのことである。出土した２基の甕は紺屋で使用されたものを二次転用したものと考えられる。近世山梨県内においては、南アルプス市秋山、双葉町宇津谷、須玉町等で甕などが生産されていたことが知られている。甲府近辺においても善光寺近在において甕などを作っていたとの話があり、今後の調査研究により出土した甕の生産地・時期などが解明されるものと考えられる。

参考・引用文献一覧

甲斐古墳調査会編　1974　『甲斐の古墳Ⅰ甲府北東部に於ける積石塚、横穴式石室の調査』

雄山閣　1982　『甲斐国志』　第４巻

韮崎市教育委員会他　1984　『坂井南遺跡』

甲府市市史編さん委員会　1989　『甲府市史史料編第１巻　原始・古代・中世』

甲府市市史編さん委員会　1991　『甲府市史通史編第１巻　原始・古代・中世』

甲府市市史編さん委員会　1992　『甲府市史通史編第２巻　近世』

甲府市教育委員会　1992　『甲府市遺跡地図』

山梨県埋蔵文化財センター　1992　『善光寺北遺跡』

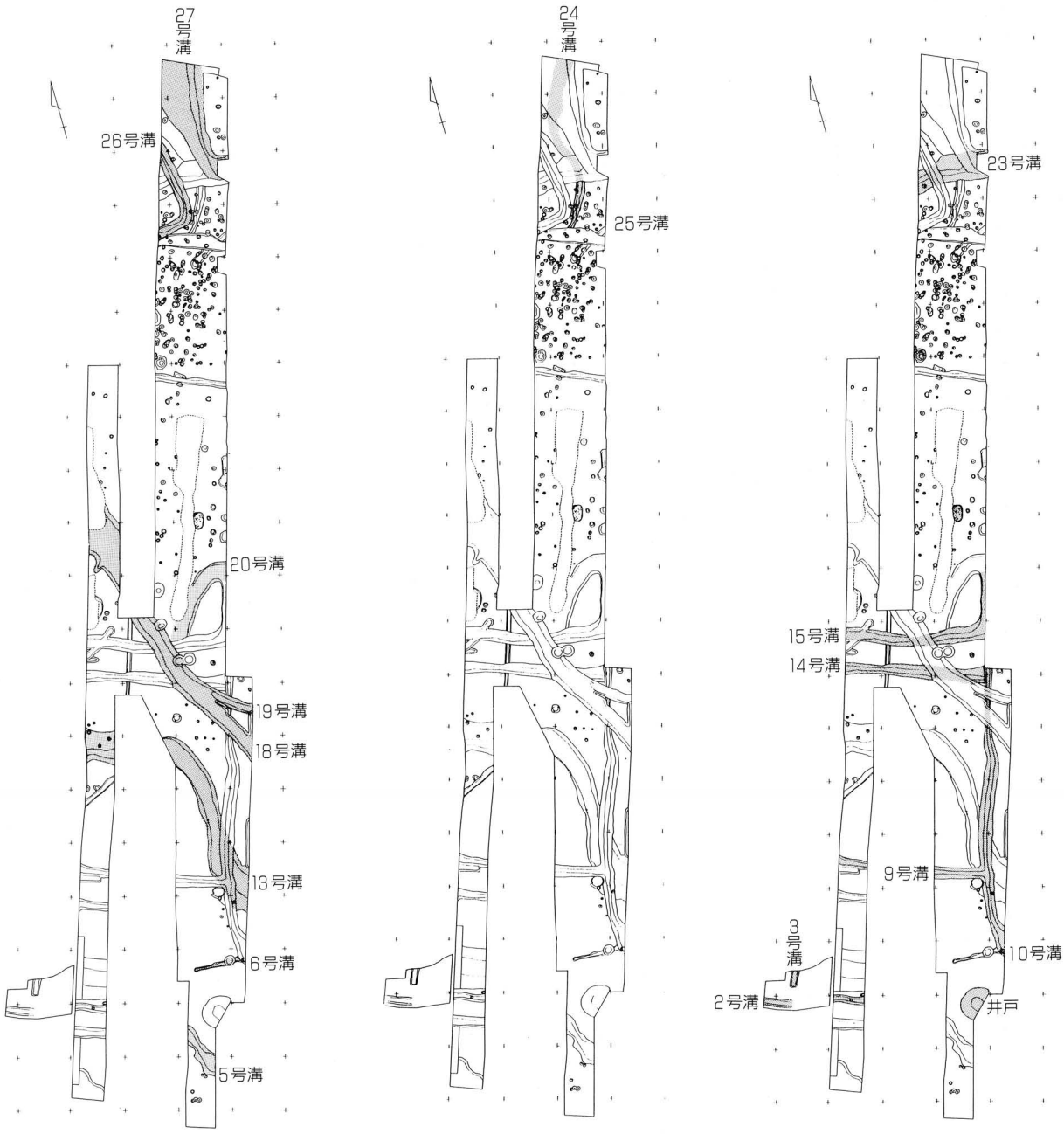
中山誠二　1993　「甲斐弥生土器編年の現状と課題－時間軸の設定－」『研究紀要９　10周年記念論文集』山梨県埋蔵文化財センター

平凡社　1995　『山梨県の地名』日本歴史地名大系19

山梨県　1998　『山梨県史資料編１　原始・古代１考古（遺跡）』

山梨県　1999　『山梨県史資料編２　原始・古代２考古（遺構・遺物）』

㈶瀬戸市埋蔵文化財センター　2003　『市内遺跡調査報告Ⅳ　五葉窯跡』

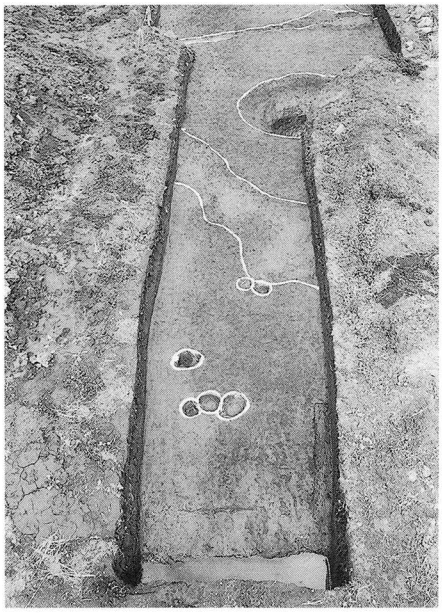


（1）弥生時代末～古墳時代前期　　（2）古墳時代中期　　（3）中　世

図25　本郷B遺跡遺構変遷図

調 査 区 全 景　　（北から）

調査区北側　A～C－1～8グリッド
（南から）



調査区南側 B-20～22グリッド　（南から）

調査区中央　A～C－14～16グリッド　（北西から）

調査区南側 A・B-14～22グリッド（北から）

調査区中央　B・C－9～12グリッド　（北から）

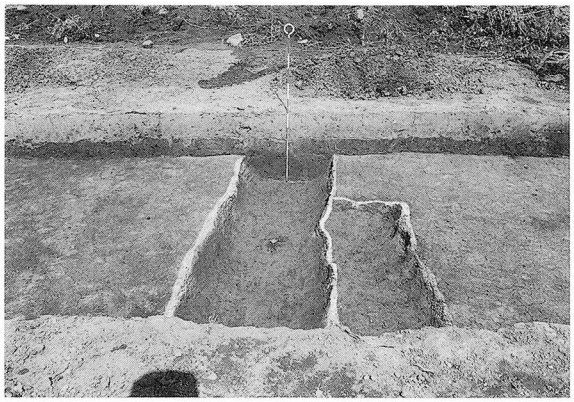
写真1　調 査 区 風 景

試 掘 調 査 区　（北東から）

手前より4号・2号・1号溝　（北から）

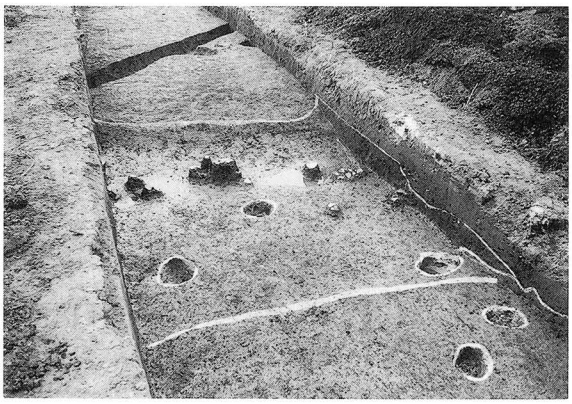
手前より7号・8号・9号溝　（南から）

左より6号溝、井戸、5号溝　（北西から）



8号溝(右)、9号溝(左)　（西から）

9号溝、10号溝　（南西から）

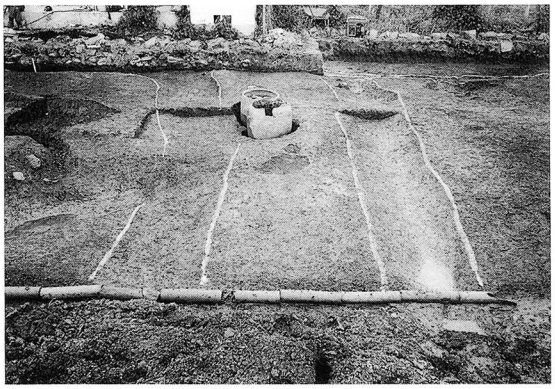


13号溝遺物出土状況　（北から）

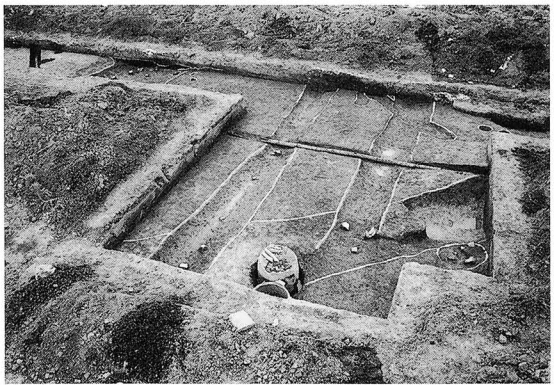
6号・9号～13号溝　（南から）

写真２　試掘調査区、溝（１）

10 号 溝　　（北から）

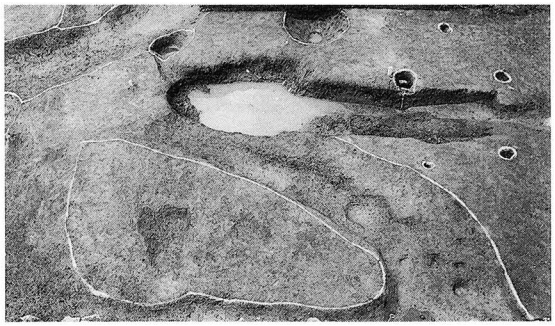


14号・15号溝、埋甕　　（西から）



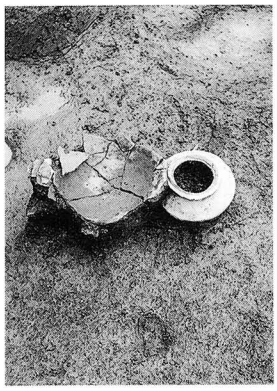
14号・15号溝、埋甕　　（東から）

18 号 溝　　（北西から）



20 号 溝　　（東から）

20号溝遺物出土状況　（北東から）

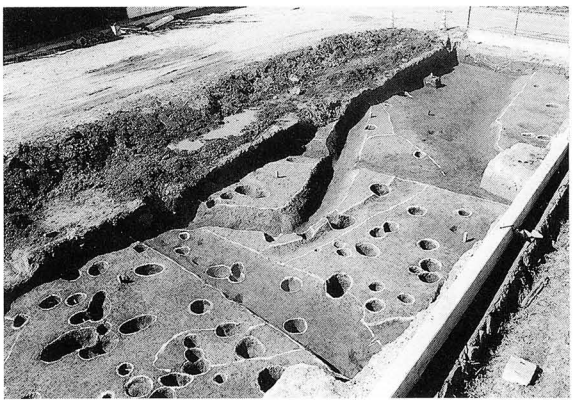


20号溝出土壺11

20号溝出土長頸壺13

20号溝出土長頸壺12、坩14

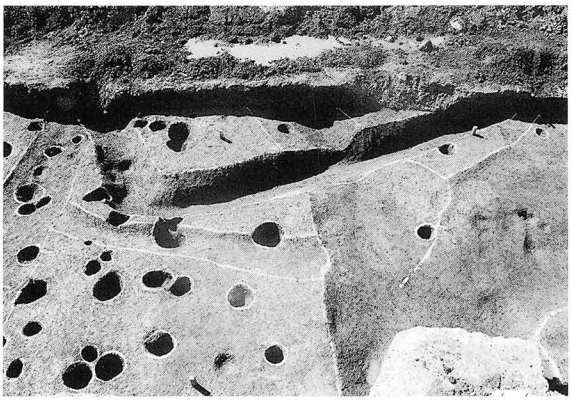
写真3　溝（2）



調査区北側溝検出状況　（南から）

23号・24号・25号溝　（南から）

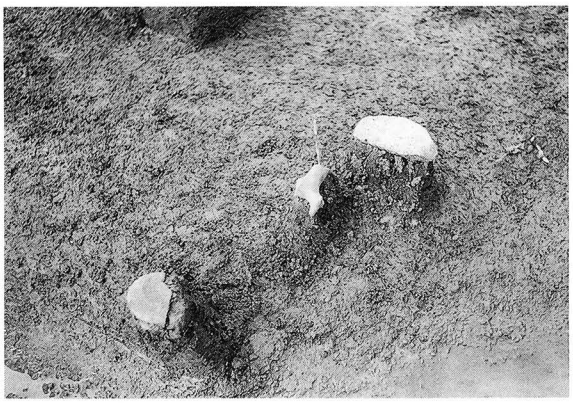
23号溝 遺物出土状況　（東南から）



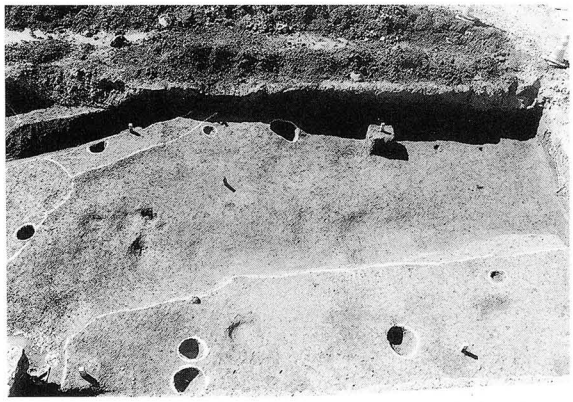
26 号 溝　（東から）

23号溝 完掘状況　（西から）

27号溝 遺物検出土状況　（南から）



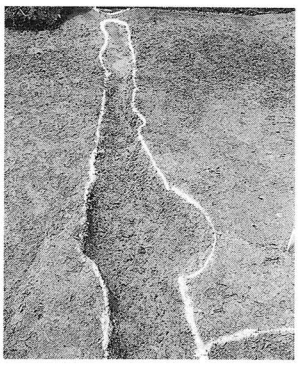
23号溝 かわらけ34、土馬42出土状況



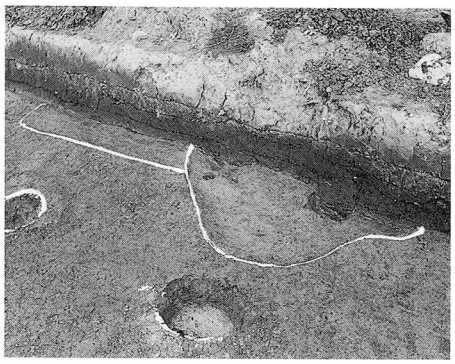
27 号 溝　（東から）

写真4　溝（3）

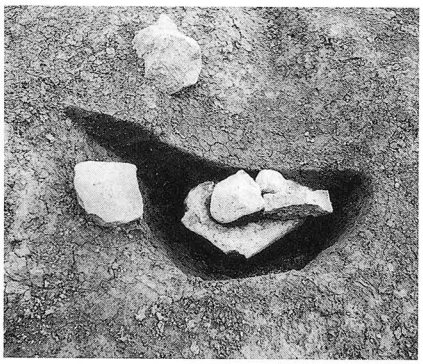
1号土坑　（東から）



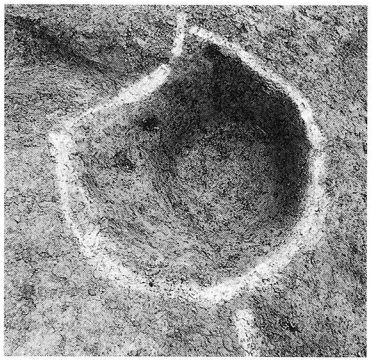
2号土坑　（東から）



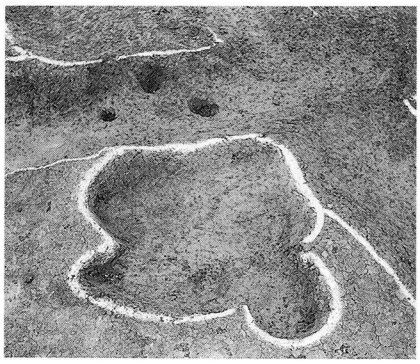
4号土坑(左)・5号土坑(右)　（西から）



3号土坑礫検出状況　（北から）

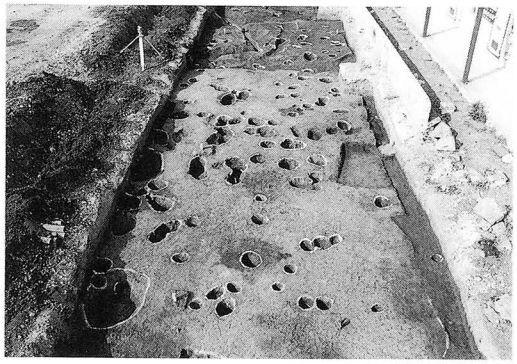


3号土坑　（北から）



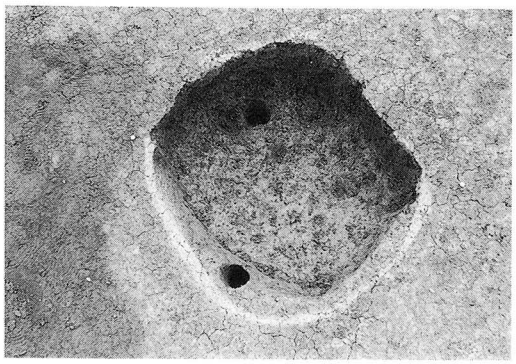
7号土坑　（南西から）

6号土坑礫検出状況　（西から）



8号・9号土坑及びピット群　（南から）

6号土坑　（西から）



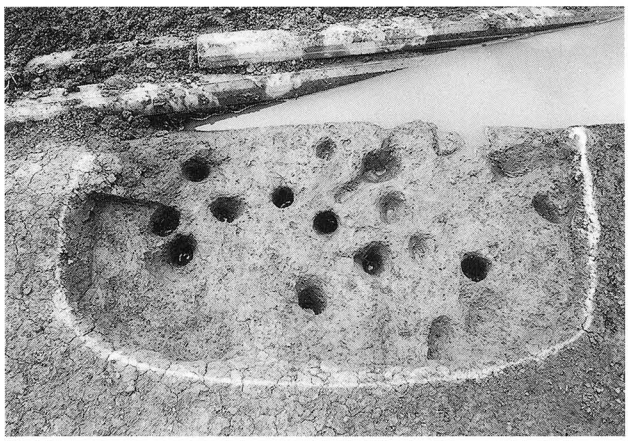
10号土坑　（北から）

写真5　土　坑

井戸検出状況　（北西から）

井戸近景　（北西から）

土坑墓検出状況　（西から）



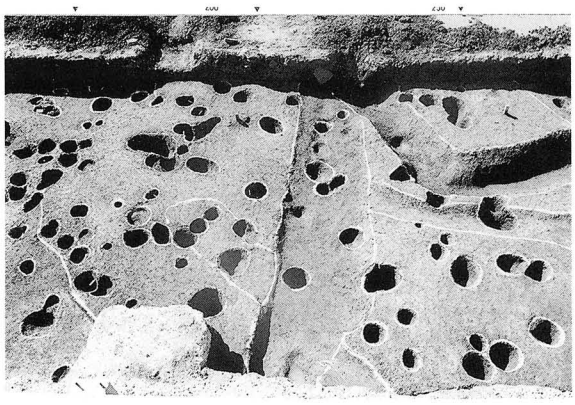
土坑墓完掘状況　（東から）

埋甕１（左）　埋甕２（右）　（北から）

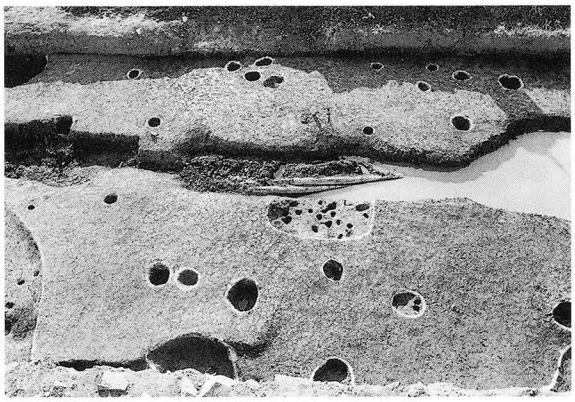
埋甕完掘状況　（北から）

写真６　井戸、土坑墓、埋甕

ピット（A～C-6～8グリッド）　（東から）

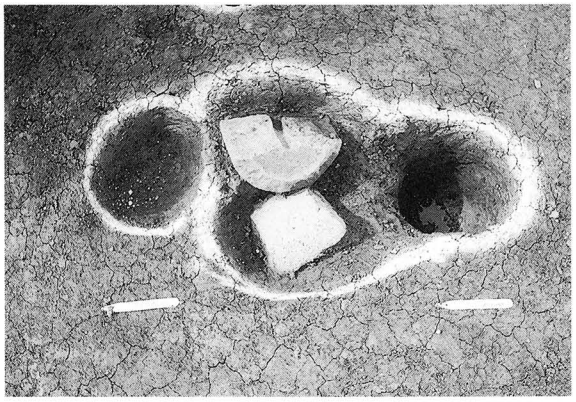


ピット（A～C-5・6グリッド）　（東から）

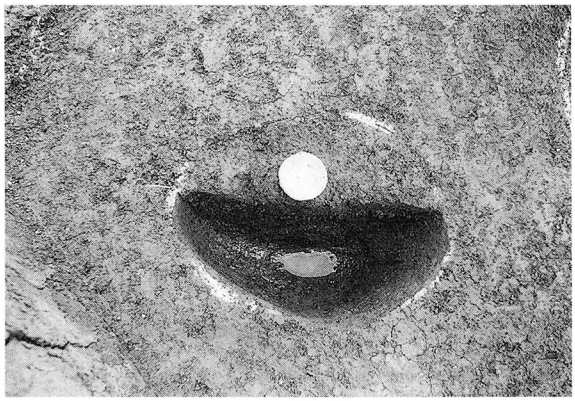


ピット（B・C-10・11グリッド）　（東から）

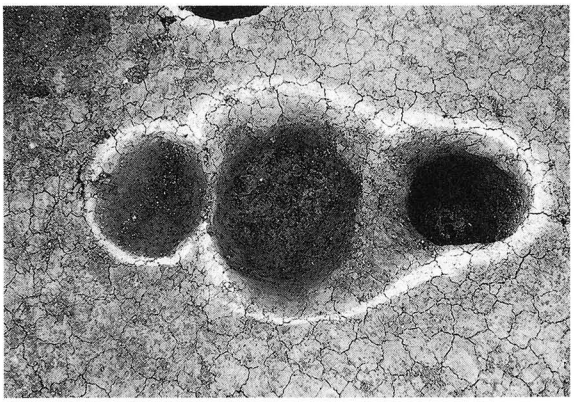
ピット10　（西から）



ピット220 茶臼出土状況　（東から）



ピット52 かわらけ出土状況（北から）



ピット201、220、202 完掘状況

作　業　風　景

写真7　ピット、作業風景

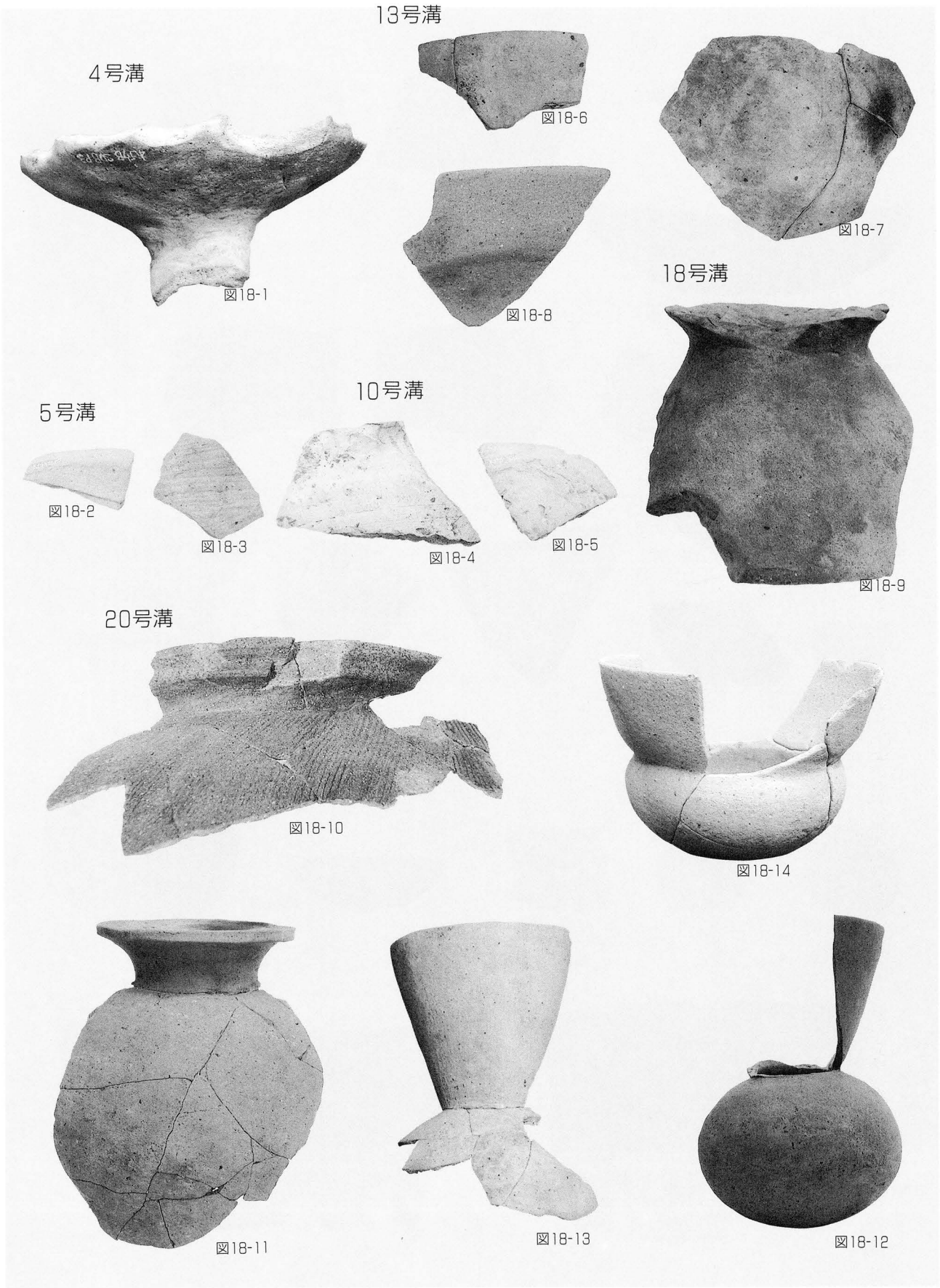


写真８　4号・5号・10号・13号・18号・20号溝出土遺物

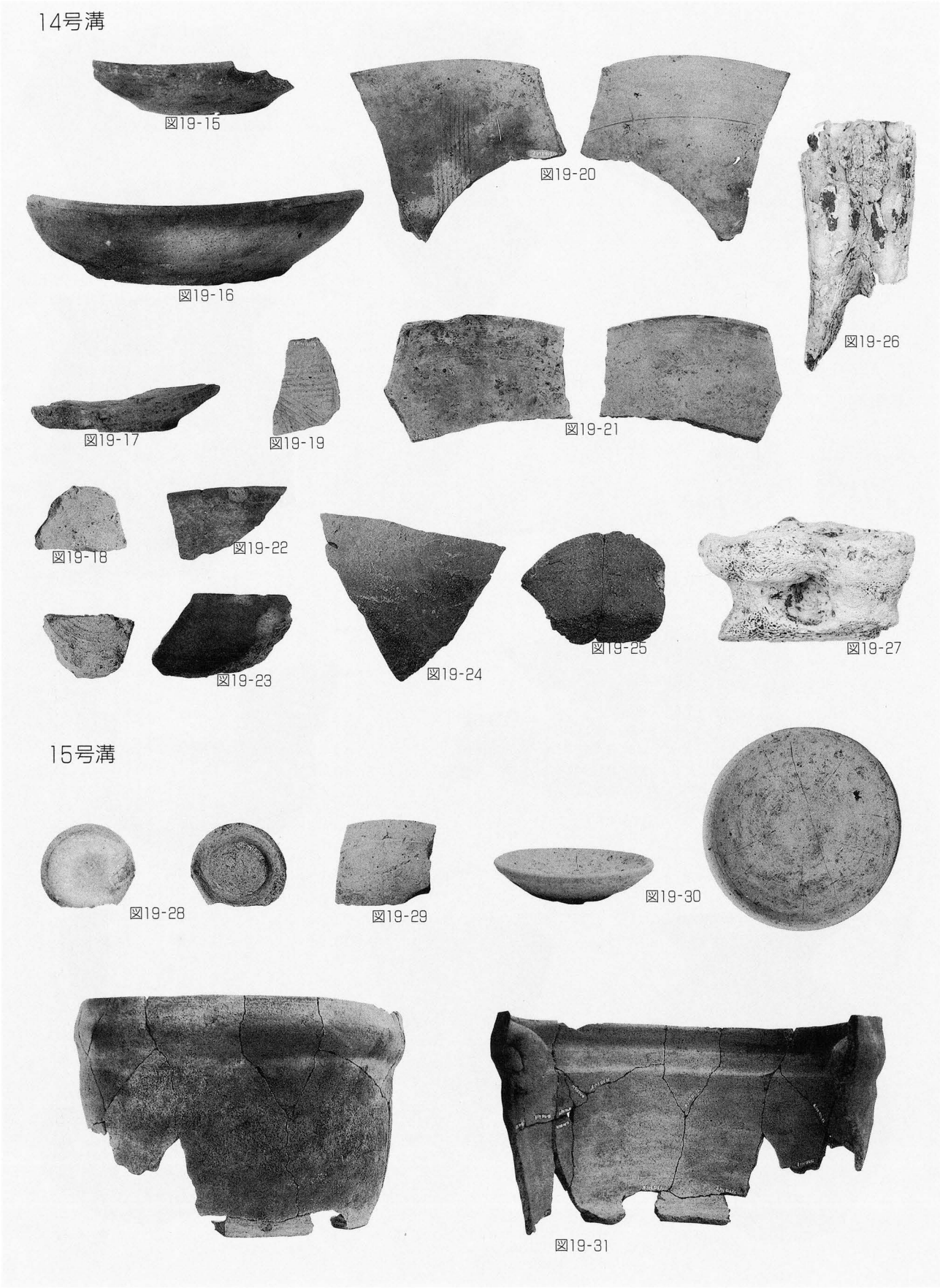


写真９　14号・15号溝出土遺物

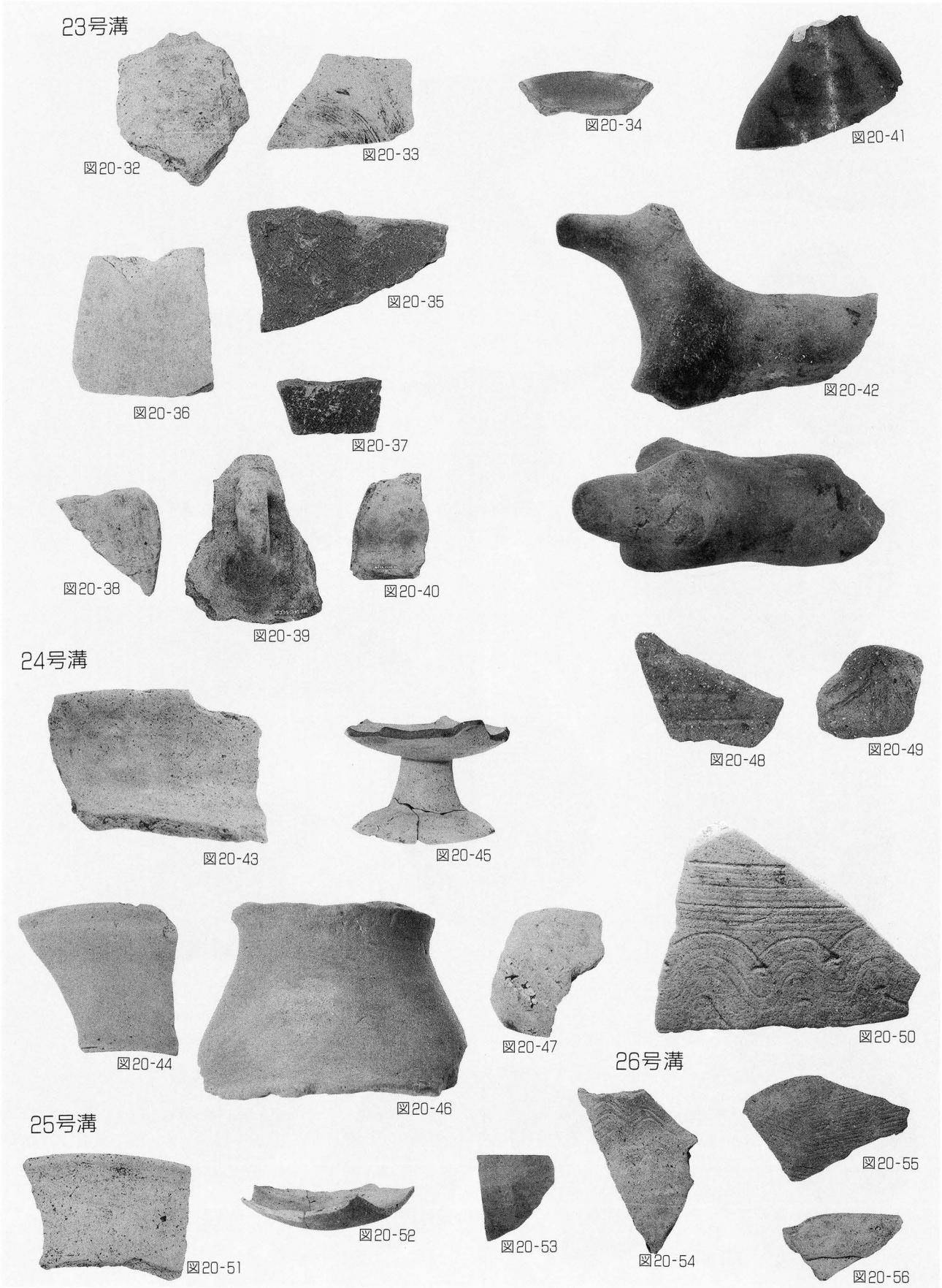


写真10　23号・24号・25号・26号溝出土遺物

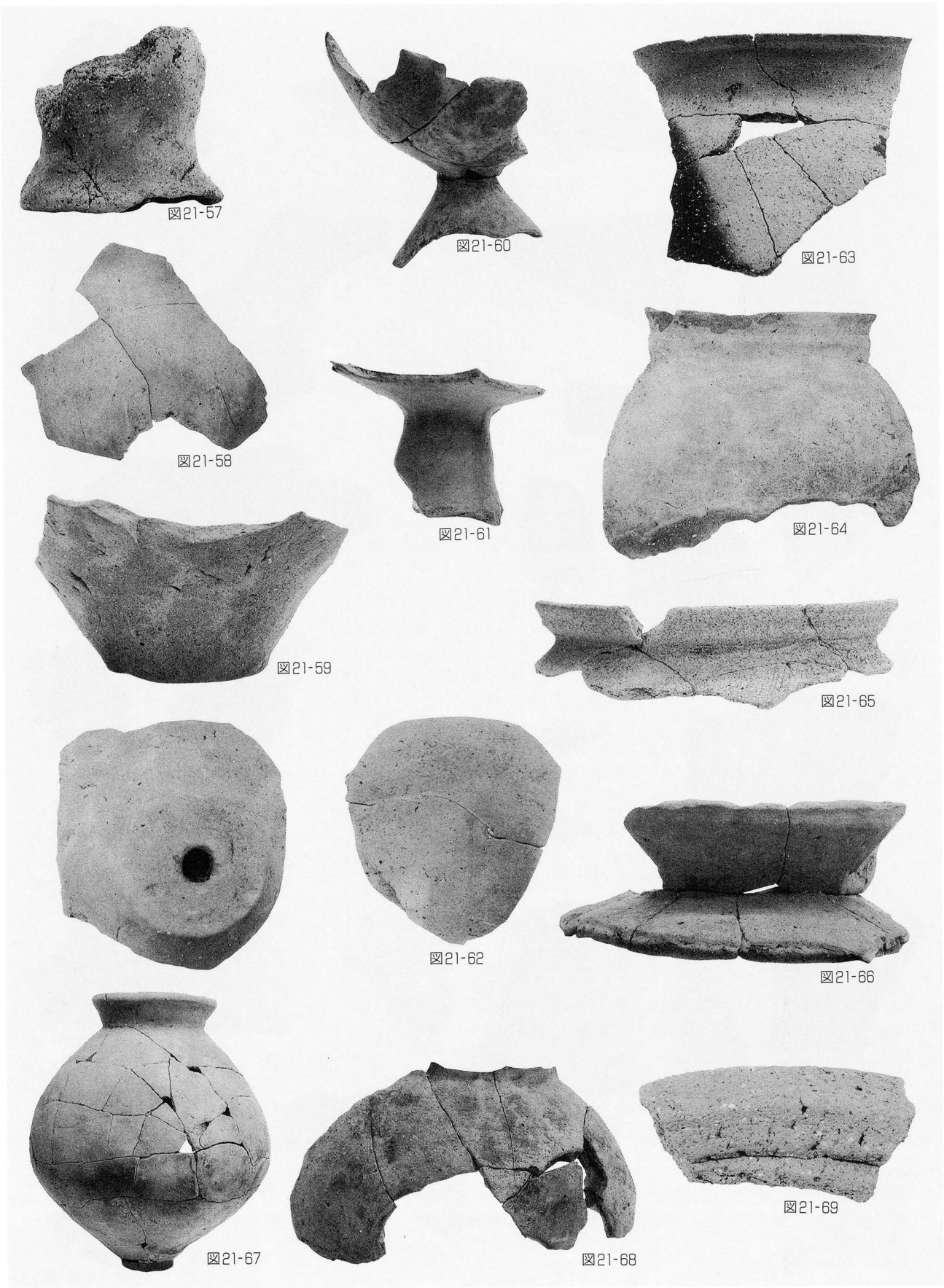


写真11　27号溝出土遺物

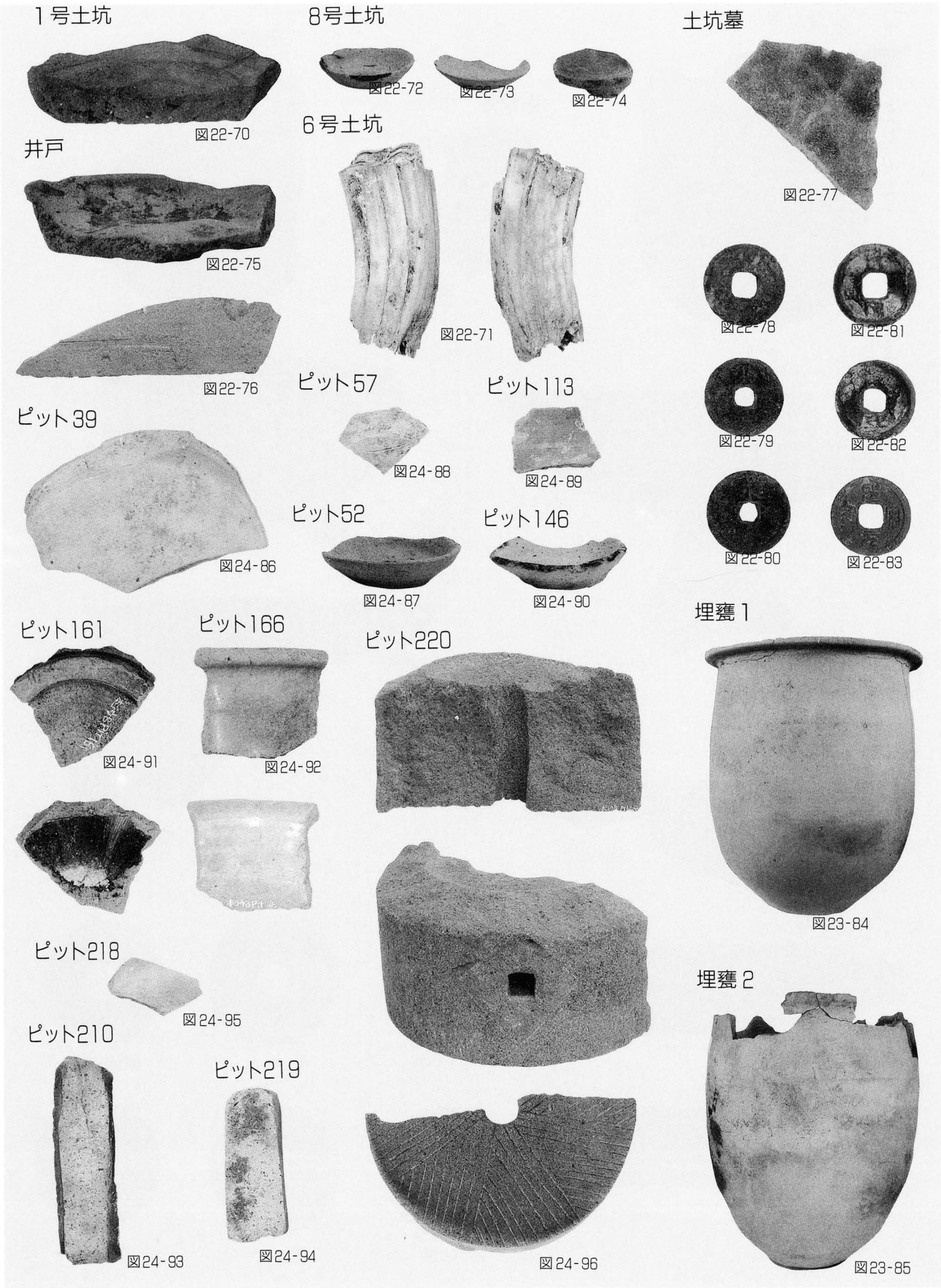


写真12　土坑、井戸、埋甕、ピット出土遺物

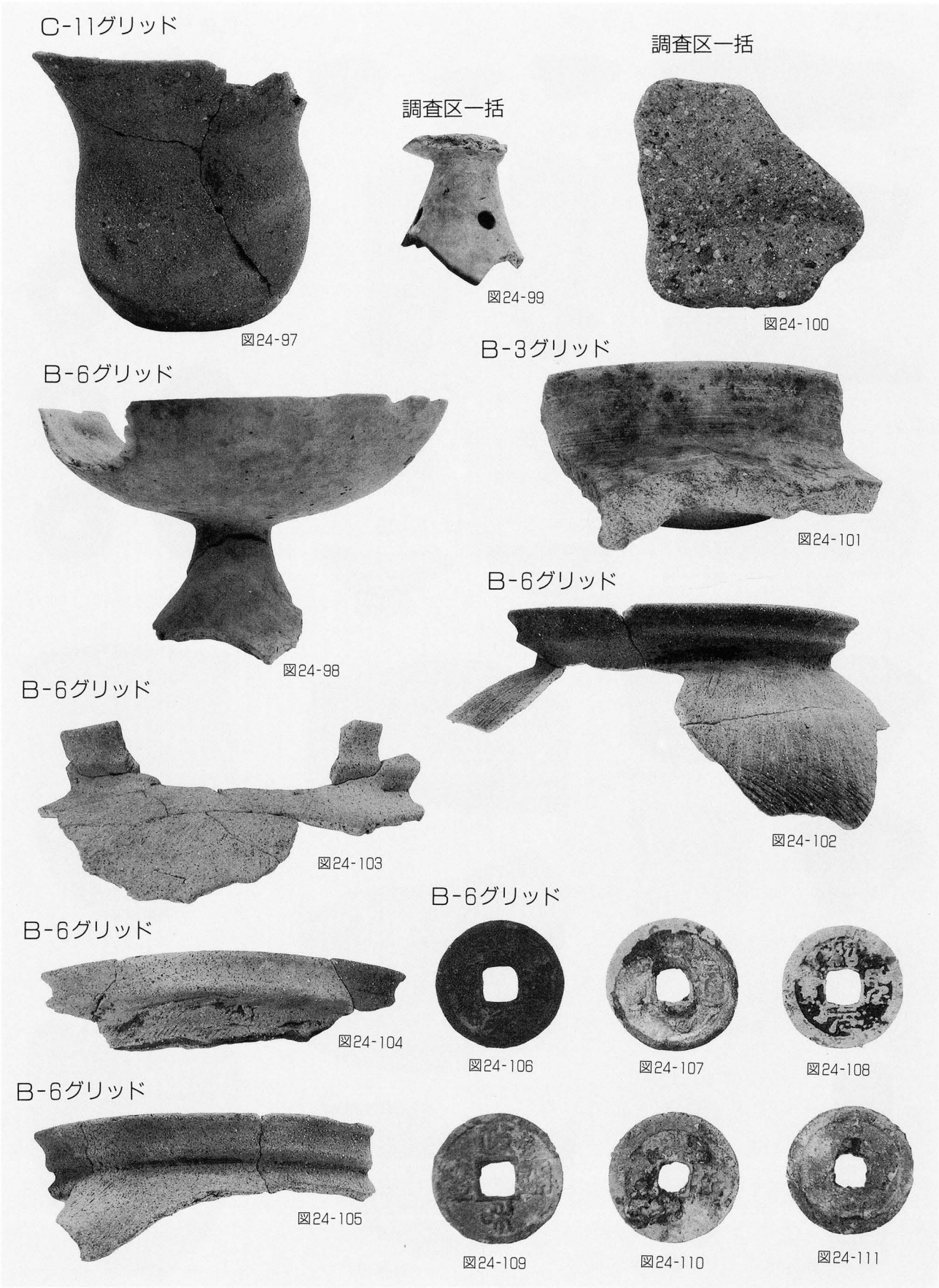


写真13　グリッド、調査区一括出土遺物

報　告　書　抄　録

ふりがな	ほんごうびいいせき
書名	本郷B遺跡
副書名	甲府市善光寺三丁目宅地造成工事に伴う発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	甲府市文化財調査報告
シリーズ番号	27
編集機関	甲府市教育委員会
所在地	〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番1号　電話 055(223)7324
発行年月日	平成16年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間 調査面積	調査原因
ほんごうびいいせき 本郷B遺跡	やまなしけんこうふし 山梨県甲府市 ぜんこうじ 善光寺三丁目 1946-1番地ほか	19201	131	35° 38′ 18″	138° 35′ 41″	H15.8.4 ～ H15.9.30 450㎡	宅地造成工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
本郷B遺跡	散布地	古墳時代 中世	方形周溝墓・溝・土坑・土坑墓・井戸・柱穴・埋甕	土師器・須恵器・陶器・かわらけ・古銭・石製品・土馬・獣骨・人骨	

甲府市文化財調査報告27

本郷B遺跡

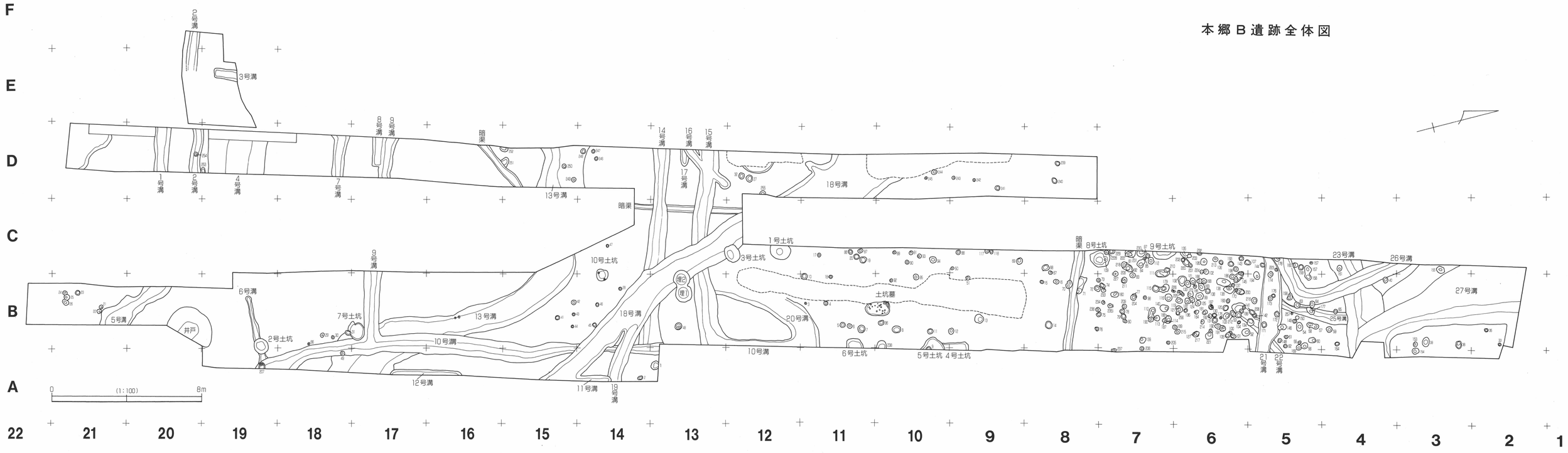
―甲府市善光寺三丁目宅地造成工事に伴う発掘調査報告書―

平成16年3月31日

発行　甲府市教育委員会
〒400-8585 山梨県甲府市丸の内1丁目18番1号
TEL 055（223）7324
FAX 055（226）4889

印刷　㈱内田印刷所
〒400-0032 山梨県甲府市中央二丁目10-18

本郷B遺跡全体図


F
E
D
C
B
A
22
21
20
19
18
17
16
15
14
13
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0
(1:100)
8m
2号溝
3号溝
1号溝
5号溝
4号溝
7号溝
8号溝
9号溝
暗渠
13号溝
14号溝
16号溝
15号溝
17号溝
18号溝
暗渠
1号土坑
3号土坑
10号土坑
9号溝
6号溝
5号溝
井戸
2号土坑
7号土坑
13号溝
10号溝
12号溝
18号溝
11号溝
19号溝
20号溝
10号溝
6号土坑
5号土坑
4号土坑
土坑墓
暗渠
8号土坑
9号土坑
23号溝
26号溝
27号溝
25号溝
21号溝
22号溝